

富山県南砺市

寺家廃寺跡Ⅱ
院林遺跡Ⅲ

— 主要地方道砺波福光線道路改良事業に伴う
埋蔵文化財包蔵地の発掘調査報告(3) —

2009年2月

南砺市教育委員会

富山県南砺市

**寺家廃寺跡Ⅱ
院林遺跡Ⅲ**

— 主要地方道砺波福光線道路改良事業に伴う
埋蔵文化財包蔵地の発掘調査報告(3) —

2009年2月

南砺市教育委員会



院林遺跡 4 地区 全景



院林遺跡 4 地区 S D05出土遺物

序

南砺市は、富山県の南西部に位置し、市内にはユネスコ世界遺産に登録された五箇山の合掌造り集落を代表として、数々の文化財が残されています。中でも埋蔵文化財については、分布調査や試掘調査によって、旧石器時代から近世に至る様々な時代の遺跡が市内に数多く残されていることが分かっています。近年の開発行為に伴って、大規模な発掘調査も行われ、多くの掘立柱建物や竪穴住居跡、石器や土器、陶磁器などが見つかりました。

今年度は、主要地方道砺波福光線改良工事に先立って、院林遺跡と寺家廃寺跡の発掘調査を実施しました。本書はその調査成果をまとめたものです。郷土の歴史の解明に活用していただければ幸いです。

この調査の実施にあたり、富山県土木部、南砺市シルバー人材センター、地元院林地区、寺家地区の皆様には多大な協力を賜りましたことに、深く感謝申し上げます。

平成21年2月

南砺市教育委員会

教育長 浅田 茂

例　　言

1. 本書は主要地方道砺波福光線道路改良事業に伴う発掘調査概要である。
2. 調査は富山県土木部の委託を受け、南砺市教育委員会が実施した。現地調査および報告書作成は南砺市教育委員会の監理の下、株式会社エイ・テックが実施した。調査面積は寺家廃寺跡が376m²、院林道路が1,955m²である。
3. 調査事務局は南砺市教育委員会文化課におき、文化財係長北島清、文化財保護主事片田並紀が調査事務を担当し、文化課長吉田鈴代が総括した。現地調査および報告書作成は株式会社エイ・テック岡田一広、吉田有里が担当した。
4. 発掘調査から本書作成に至るまで、下記の方々の協力・助言があった。記して謝意を表する。

梅基助弘、梅基範夫、江藤　教、金道武史、金道仁吉、金道善雄、重原達雄、柴田義明、布清水重達、野原人輔
勝福光石工、森田秀一、山口辰一、吉田清次
(敬称略、五十音順)
5. 本書で使用した方位は座標北である。土層の観察には、小出正忠・竹原秀雄1967『新版標準土色帖』日本色研事業株式会社を用いた。
6. 調査参加者は次のとおりである。

石崎恵紀雄、上島勝枝、大庭新三、大畠茂隆、奥野勝子、下村忠行、神能公、中田和夫、中田聰子、西村清栄、
野原勉、平野重則、廣川稔、藤井悦子、守山賢二、安田清、安田信弘、山村美弓(現地作業員)
上田恵子、志観寺愛、林由紀、南真弓、渡辺悦子(整理作業員)
7. 本書の執筆は、I・IIを片田、III・Vを岡田、IV-1を島田充仁、IV-2・3鈴木　茂(株式会社パレオ・ラボ)が執筆し、全体の編集は岡田が担当した。

目 次

I 位置と環境	1	第25図 院林遺跡4地区の遺構(1)	41
第1図 位置と周辺の道路	1	第26図 院林遺跡4地区の遺構(2)	42
II 調査に到る経緯と経過	2	第27図 院林遺跡4地区の遺構(3)	43
第1表 道路の概要	2	第28図 院林遺跡4地区の遺構(4)	44
第2図 道路範囲と調査区位置図	3	第29図 院林遺跡4地区の遺構(5)	45
III 調査の概要	5	第30図 院林遺跡4地区の遺構(6)	46
1 調査の方法	5	第31図 院林遺跡4地区の遺構(7)	47
第3図 寺家廃寺跡2地区の調査区割	5	第32図 院林遺跡4地区の遺構(8)	48
2 寺家廃寺跡2地区的概要	6	第33図 院林遺跡4地区の遺構(9)	49
第4図 寺家廃寺跡2地区の基本層序	6	第34図 院林遺跡4地区の遺構(10)	50
3 院林遺跡4地区的概要	8	第35図 院林遺跡4地区の遺構(11)	51
第5図 院林遺跡4地区基本層序	8	第36図 寺家廃寺跡2地区的遺物(1)	52
第6図 院林遺跡4地区的調査区割	8	第37図 寺家廃寺跡2地区的遺物(2)	53
第7図 S B01回取り復元模式図	9	第38図 寺家廃寺跡2地区的遺物(3)	54
IV 自然科学分析	13	第39図 寺家廃寺跡2地区的遺物(4)	55
1 院林遺跡から出土したイネ炭化果実(炭化米)について	13	第40図 院林遺跡4地区的遺物(1)	56
第2表 院林遺跡出土のイネ炭化果実計測値一覧	14	第41図 院林遺跡4地区的遺物(2)	57
第8図 SK23粒長と粒幅の散布図	14	第42図 院林遺跡4地区的遺物(3)	58
第9図 SK77粒長と粒幅の散布図	14	第43図 院林遺跡4地区的遺物(4)	59
第10図 SK23粒長／粒幅の分布図	14	第44図 院林遺跡4地区的遺物(5)	60
第11図 SK77粒長／粒幅の分布図	14	第45図 院林遺跡4地区的遺物(6)	61
第12図 院林遺跡出土のイネ炭化果実	14	第46図 院林遺跡4地区的遺物(7)	62
2 寺家廃寺跡の花粉化石	15	第47図 院林遺跡4地区的遺物(8)	63
第13図 寺家廃寺跡・花粉採取地点上層柱状図	15	第48図 院林遺跡4地区的遺物(9)	64
第3表 痕出花粉化石一覧表	17	図版1 寺家廃寺跡・院林遺跡空中写真	
第14図 寺家廃寺跡SD01の主要花粉化石分布図	18	図版2 寺家廃寺跡2地区全景	
第15図 寺家廃寺跡の花粉化石	19	図版3 寺家廃寺跡2地区的遺構(1)	
3 寺家廃寺跡のプラントオパール	20	図版4 寺家廃寺跡2地区的遺構(2)	
第4表 試料1gあたりのプラント・オパール個数	21	図版5 院林遺跡4地区全景(1)	
第16図 プラント・オパール分布図	21	図版6 院林遺跡4地区全景(2)	
第17図 寺家廃寺跡のプラント・オパール	22	図版7 院林遺跡4地区的遺構(1)	
Vまとめ	23	図版8 院林遺跡4地区的遺構(2)	
第18図 常山県下の双耳杯	23	図版9 院林遺跡4地区的遺構(3)	
第19図 寺家廃寺跡遺構全図	24	図版10 院林遺跡4地区的遺構(4)	
第20図 寺家廃寺跡・院林遺跡の12世紀後半～13世紀の遺構と方陣地盤想定図	25	図版11 院林遺跡4地区的遺構(5)	
参考文献	26	図版12 院林遺跡4地区的遺構(6)	
第5表 寺家廃寺跡2地区・土器類計測表	27	図版13 院林遺跡4地区的遺構(7)	
第6表 院林遺跡4地区・土器類計測表	29	図版14 院林遺跡4地区的遺構(8)	
第7表 院林遺跡4地区、鉄滓・石製品計測表	32	図版15 寺家廃寺跡2地区的遺物(1)	
第21図 寺家廃寺跡2地区平面図	35	図版16 寺家廃寺跡2地区的遺物(2)	
第22図 寺家廃寺跡2地区的遺構(1)	36	図版17 院林遺跡4地区的遺物(1)	
第23図 寺家廃寺跡2地区的遺構(2)	37	図版18 院林遺跡4地区的遺物(2)	
第24図 院林遺跡4地区平面図	39	図版19 院林遺跡4地区的遺物(3)	
		図版20 院林遺跡4地区的遺物(4)	
		図版21 院林遺跡4地区的遺物(5)	
		報告書抄録	

I 位置と環境

富山県の南西部に位置する南砺市は、2004年11月に町村合併で成立した市であり、東を富山市、西を石川県金沢市・白山市、南を岐阜県白川村・飛騨市、北を小矢部市・砺波市に接する。旧井波町と旧城端町は門前町として、旧福野町と旧福光町は市場町として栄え、人口の大半は平野部に集中している。

地形的には、奥羽丘陵、蟹谷丘陵といった低丘陵と、険しい山々が連なる飛騨山地に囲まれ、平野部は庄川と小矢部川によって形成された複合扇状地が広がる。庄川は旧庄川村の山中峠の湿原を水源とし、全長は約115kmで、日本でも最大級の庄川扇状地を形成している。小矢部川は庄川扇状地の勢いに押されて、砺波平野の西端部をゆるやかに流れ、庄川の排水河川の役割も果たしている。この一帯は層敷林に囲まれた農家が水田の中に点在する散村景観が広がり、西日本の平野部に認められる環濠集落に代表される集村景観と対比され、全国的に有名である。

院林遺跡は、旧福野町の大字「院林」と「寺家」地内に所在する。小矢部川の支流である旅川と山田川に挟まれた標高56~58mを測る段丘の縁辺部に立地する。史料によると、この辺りは古くから集落が成立し11世紀後半頃には院林郷が成立した。院林郷の地頭職は度々の停止、安堵を繰り返し、院林氏により世襲された時期もあったと考えられる。しかし14世紀を最後に院林氏の名は文献資料では確認できず、この後没落していったと考えられる。

寺家廃寺跡は、院林遺跡の旅川を挟んだ東側に隣接する。寺家地内の日吉社に御柱礎石、水田に塔心礎と考えられる礎石が残っている。それぞれ、「夫婦岩（要岩）」、「皇孫塚（鏡石）」と呼ばれ、市の文化財に指定されている。寺院に関しての記録はないが、礎石の形式や周辺の採集遺物から平安時代の建立と考えられている。（片田筆記）



第1図 位置と周辺の遺跡 (S = 1 : 25,000)

1. 寺家廃寺跡
2. 院林遺跡
3. 寺家遺跡
4. 寺家新屋敷跡
5. 札坪塚
6. 栄田屋塚跡
7. 栄田屋川西遺跡
8. 院林北遺跡
9. 前田遺跡
10. 前田遺跡
11. 下吉江遺跡
12. 田尻北塚跡
13. 田尻遺跡
14. 田尻丸塚
15. 広安北2遺跡
16. 広安北1遺跡
17. 広安南遺跡
18. 八塚遺跡
19. 苗鳥神明社遺跡
20. 八塚神明社遺跡
21. 八塚殿林遺跡

II 調査に到る経緯と経過

主要地方道砺波福光線は、富山県西部の砺波市、南砺市福野、福光の中心部を結び、国道156号と国道304号を連絡する総延長約12.8kmの幹線道路である。また、北陸自動車道の砺波ICと東海北陸自動車道の福光ICへのアクセス道路となっている。しかし、幅員狭小で慢性的な渋滞があり、歩道を整備し歩行者の安全を確保する等の面から、早急に整備することが求められ、順次改良工事が行われている。守家地区から田尻地区の区間1.4kmでは平成12年に都市計画がなされた。この区間に住宅密集地があり、南にJR城端線が並行して走っているため、現位置での拡幅余裕がなく、新たに北側に幅20mの道路を建設するものである。その後平成14年には事業採択がなされ、調査、設計、用地交渉等が始められた。

バイパスルート上には、周知の遺跡として寺家遺跡、寺家廃寺跡、院林遺跡、田尻北遺跡が存在する。しかし、道路起点と終点位置の制約等によって路線位置はおのずと決定され、遺跡を回避することは不可能であったため、遺跡の保護策については記録保存対応とならざるを得なかった。

平成16年3月、当時の福野町教育委員会は富山県の依頼を受け、道路用地買収を完了した寺家遺跡の一帯で、また平成17年9月には、南砺市教育委員会が旅川以西の延長400mのI区間、院林遺跡で試掘調査を実施し、対象区域の全域にわたって古代～中世の遺構・遺物が存在することを確認した。これらの調査を受け、富山県と南砺市との間で協議し、路線内の遺跡が遺存している箇所について、本調査を行うことになった。以後、試掘調査と並行して平成18年3月から本調査を行っている。なお、平成19年には田尻北遺跡の路線内の試掘調査を実施したが、遺構は確認しなかった。

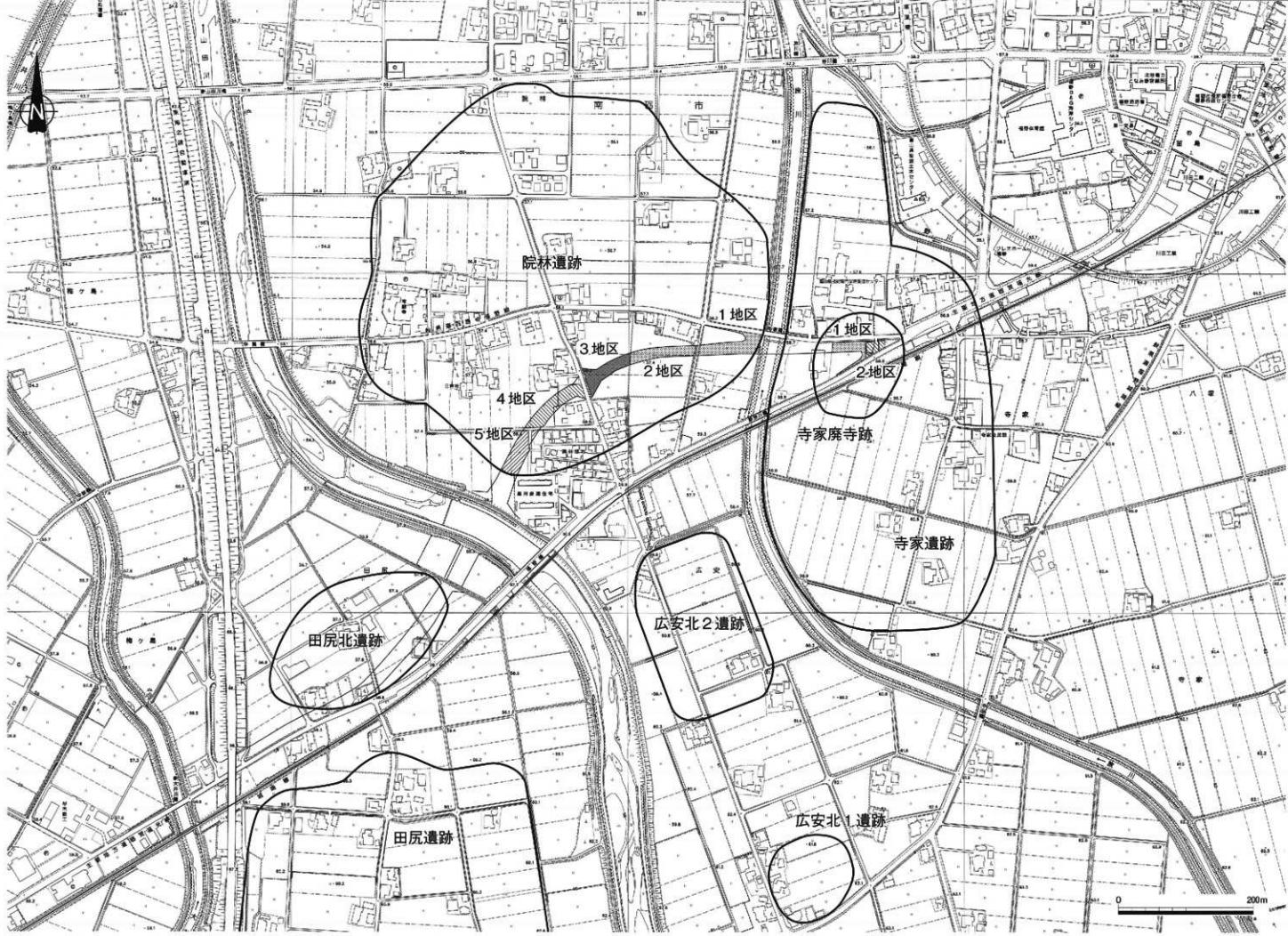
本調査面積は、次のとおりである。

平成18年度	院林遺跡1地区、2地区	4,300m ²	(民間調査会社へ委託)
平成19年度	院林遺跡3地区	1,560m ²	(南砺市教育委員会専門調査)
	寺家廃寺跡1地区	1,460m ²	()
平成20年度	寺家廃寺跡2地区	376m ²	(民間調査会社へ委託)
	院林遺跡4地区	1,965m ²	()
	院林遺跡5地区	1,155m ²	()

(片田直紀)

第1表 遺跡の概要

遺跡名	所轄時代	発見された遺構	発見された遺物
院林遺跡	古代、中世、近世	堅穴住居、掘立柱建物、構造、井戸、土坑、溝、柱穴	純文土器、土師器、須恵器、灰釉陶器、製塩土器、珠洲、白磁、青磁、越中瀬戸、伊万里、肥前、土鉢、円筒鏡、ふいごの羽口、打製石斧、硯、石鍋、銅錢、下駄、刀子、鉄滓
寺家廃寺跡	古代	礫石、柱穴、土坑、溝	土師器、須恵器、珠洲、越前、白磁、青磁、瀬戸美濃、ふいごの羽口、凹石、石鉢、石臼、五輪塔、楔、漆器、唐串
寺家遺跡	古代、中世、近世	堅穴住居？、掘立柱建物、土坑、溝、柱穴	土師器、須恵器、珠洲、青磁、近世陶磁器
田尻北遺跡	古代、中世、近世	堅穴住居、土坑、柱穴、溝	土師器、須恵器、珠洲、近世陶磁器



第2図 遺跡範囲と調査区位置図 (S = 1 : 5,000)

III 調査の概要

1 調査の方法

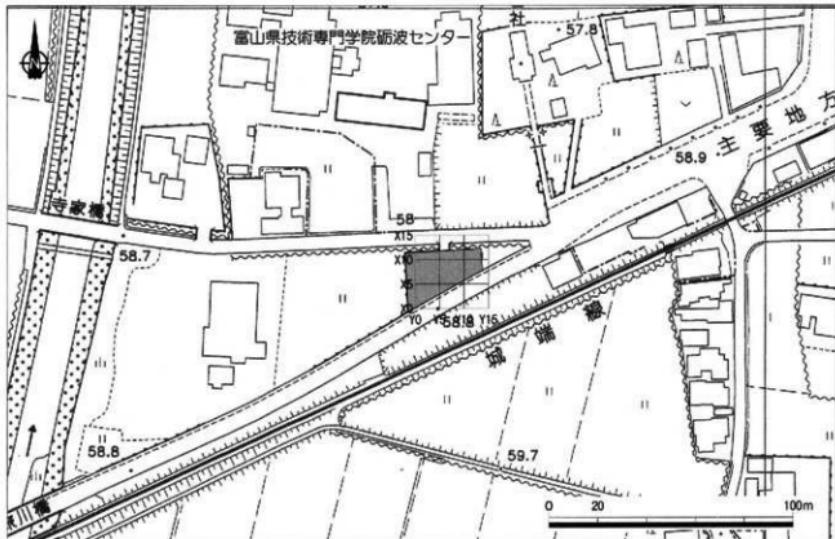
調査区域の設定後、試掘調査の結果に基づき、調査員の立会いのもとで表土除去を実施した。表土除去には重機を使用し、耕作土及び、近～現代の盛土の層まで掘削した。表土除去後に、国土座標に合わせた基準杭を設置して調査区割りを実施した。区割りは南から北にX軸、西から東にY軸とし、2mを一区画としてアラビア数字で表記した。

調査区に合わせてサブトレーンチを設定し、地山面まで掘り下げて層位を観察した。一部にセクションベルトを残して層位を確認しながら、人力による包含層掘削、遺構検出、遺構掘削を行った。遺構の掘削は埋土の堆積状況を観察するため半載するか、セクションベルトを2～3本残して掘削し、土層の記録作業が終わり次第完掘した。排土は人力とベルトコンベアで調査区外へ搬出した。

遺構は検出後、1:100で概略図を作成して、遺構毎に通し番号をつけた。遺構の検出状況や土層、遺物の出土状況は調査員が手実測で実施し、必要に応じてトータルステーションによる平板測量やデジタル写真測量により1:20で図化した。各遺構の検出状況、土層断面、完掘状況等の記録写真、調査区のブロック写真、全体写真は調査員が撮影した。すべての遺構掘削終了後、ラジコンヘリコプターによる図化用空中写真撮影を実施した。あわせて俯瞰、斜め写真等を撮影した。また一部トータルステーションによる平板実測で平面図作成を実施した。

出土遺物は、現地作業と並行して、洗浄・注記・仕分け・接合・復元の作業を実施した。遺物実測やトレース等は基準を統一し、調査員と整理作業員で作成した。写真や図版は年度・遺跡・地区毎にファイルにまとめ、出土遺物は報告書の写真図版のとおりに整理箱に収めた。またそれ以外の遺物は地区の遺構毎、グリッド毎に並べて整理箱に収めた。

(岡田一広)



第3図 寺家廃寺跡2地区の調査区割 (S = 1 : 2,000)

2 寺家庵寺跡2地区の概要

(1) 地形と基本層序 (第3・4図)

寺家庵寺跡は、旅川右岸の南面複合扇状地の末端部に立地する。地形は東側の福野市街地から西側の旅川へ緩やかに傾斜する。本調査区は遺跡範囲の東側に位置する。宅地であったため、盛土がなされており、標高は58.4mを測る。平成19年度に調査を実施した1地区とは西側を接している。

基本層序は、①現代の盛土、②旧表土（耕作土）、③近代の盛土、④遺物包含層（褐色シルト質細粒砂を基本とする）、⑤地山（暗青灰色シルト質細粒砂を基本とする）である。現代の盛土は約80cm盛られており、旧表土の標高は57.6mを測る。旧表土は40~50cm、近代の盛土は20~30cm、遺物包含層は10~20cm堆積している。盛土上面から地山までは約160cmである。

(2) 遺構の概要 (第21~23図、図版2~4)

本地区では、溝7条、ピット2基が確認された。溝は井桁状に小区画を形成しており、この区画内部が耕作地の可能性があるため、田畠として遺構名をつけた。

S D01 (第21・23図、図版4)

調査区の東側X 1~9、Y 0~5に位置する。南南東から北北東方向へ直線的に走る溝である。規模は長さ14.6m以上、幅4.0~8.0m、深さ20cmを測る。S D02・07を切り、S D05と重複している。南南東側、北北東側は調査区外へ延びる。西側は平成19年度調査の1地区で東側が確認されており、総幅28.0~32.6mを測る。埋土は①黒褐色シルト質粘土（中世前期）、②灰褐色細粒砂質シルト（古代）である。出土遺物は、土師器、須恵器である。遺構の時期は、8世紀後半~13世紀である。

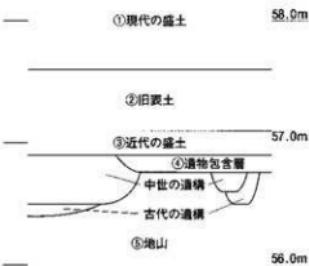
S D02・03・04・08 (第21~23図、図版4)

調査区の中央部~西側X 3~10、Y 4~12に位置する。S D02・03・08は南北方向に延びる溝で、S D04は東西方向に延びる溝である。埋土はにぶい黄褐色細粒砂質シルトを中心とし、いずれも明確な切り合い関係が見られない。S D02は長さ6.0m以上、幅3.3m以上を測る。S D01・05・07に切られる。出土遺物は土師器、須恵器である。S D03は長さ8.0m以上、幅1.6~2.4m、深さ10cmを測る。S D04に南接し北側は調査区外に延びる。S D05に切られる。出土遺物は土師器、須恵器である。S D04は長さ11.6m以上、幅1.6m以上、深さ10cmを測る。東側と南側は調査区外に延びる。S D07、P 1に切られる。出土遺物は土師器、須恵器である。S D08は長さ6.0m以上、幅0.4~1.2m、深さ22cmを測る。S D04に南接し、北側は調査区外に延びる。S D05に切られる。出土遺物は須恵器、土師器である。遺構の時期は8世紀末~9世紀前半である。

S D05 (第21・23図、図版4)

調査区の北側X 7~9、Y 4~12に位置する。東西方向に延びる溝で、西側はS D01と接し、東側は調査区外に延びる。S D02・03・08を切る。規模は長さ14.4m以上、幅1.0~1.9m、深さ10~20cmを測る。埋土は暗褐色中粒砂で縛を含んでいる。出土遺物は土師器、須恵器である。西側の延長は平成19年度調査の1地区のS D02となり、東西方向の区画溝である。今回の調査では8世紀後半~9世紀前半にかけての遺物しか出土しなかったが、S D01と明確な切り合い関係が見られず、1地区 S D02との関連性から12世紀後半の遺構と推測できる。

西 東



第4図 寺家庵寺跡2地区の基本層序

S D07 (第21・23図)

調査区の南側X 3～5、Y 3～6に位置する。南東から北東方向へ直線的に延びる溝で、南側は調査区外に延びる。規模は2.8m以上、幅2.2m、深さ12cmを測る。S D02・04を切り、S D01に切られる。出土遺物は土師器・須恵器である。遺構の時期は8世紀後半～9世紀である。

田島1・2・3 (第21・23図、図版3)

調査区の中央部～西側X 3～10、Y 4～12に位置する。S D02・03・04・08に区画された平面形が井桁状の遺構である。この平面形態は既往の調査から水田や畠であることが判明しており、富山市任海宮田遺跡等で類例がある。上部は遺物包含層が堆積しており畦畔は確認できなかった。図示した遺物はいずれも地山直上から出土したものである。

(3) 遺物の概要

S D01 (第36図、図版14)

1～5は土師器である。1～3はロクロ成形の皿である。1は柱状高台の皿である。口縁部はやや内弯する。底部は回転糸切り後ナデである。2は高台が付かない皿である。口縁部はやや内弯する。底部は回転糸切り後ナデである。3は口縁部で、直線的に延びる。時期は12世紀後半～13世紀初頭のものである。4・5は壺の口縁部であり、8世紀後半～9世紀のものである。6～25は須恵器である。6～12は無台杯である。6は底部に「×」とヘラ記号がなされている。13～16は有台杯である。17・18は杯の口縁部である。19～24は杯蓋である。25は短頸壺である。

S D02 (第37図、図版14)

26～32は須恵器である。26は無台杯の底部である。27～29は有台杯の底部である。27は「一」とヘラ記号がある。30は杯の口縁部である。31・32は蓋である。時期は8世紀末～9世紀前半にかけてのものである。

S D03 (第37図、図版14・15)

33～35は土師器である。33は壺の口縁部である。34は壺の胴下部である。35は壺の底部である。36～41は須恵器である。36は無台杯である。37・38は有台杯である。39・40は杯蓋である。41は短頸壺の口縁部である。

S D04 (第37・38図、図版15)

42・43は土師器である。42は鍋である。調整は内外面ともロクロナデである。43は椀である。44～49は須恵器である。44・45は無台杯である。46是有台杯である。47・48は杯蓋である。49は壺の胴上部である。

S D05 (第38・39図、図版15)

50～54は土師器である。50は椀である。51・52は壺の口縁部である。53・54は壺の胴部である。55～63は須恵器である。55～59は無台杯である。60は杯蓋である。つまみはボタン状である。61～63は壺の胴部である。

S D06 (第39図、図版15)

64は須恵器の有台杯の底部である。底部は回転ヘラ切り後高台を貼付ける。高台は外下方へやや延びる。

S D07 (第39図、図版15)

65～69は須恵器である。65は無台杯である。66是有台杯である。67は杯の口縁部である。68・69は杯蓋である。

田島1・2・3 (第39図、図版15)

71は須恵器の杯蓋である。72は土師器の壺である。73は須恵器の杯蓋である。時期は8世紀末～9世紀前半である。

P 1・P 2 (第39図、図版15)

74・75は土師器の壺である。74は口縁内部にカキメを施す。75の調整は内外面ともロクロナデである。

表土・包含層 (第39図、図版15)

76は須恵器の無台杯である。77は土師器の壺の頭部から胴上部にかけてのものである。

(岡田一広)

3 院林遺跡4地区の概要

(1) 地形と基本層序 (第5・6図)

院林遺跡は、旅川と山田川に挟まれた河岸段丘上に立地する。標高は、56~58mを測る。4地区は院林遺跡の南西端部に位置する。平成19年に調査した3区と東接し、平成20年に調査した5区と南接する。

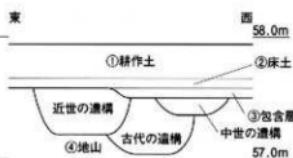
基本層序は、①耕作土（黒褐色細粒砂質シルトを基本とする）、②床土（褐灰色細粒砂質シルトを基本とする）、③包含層（黒色細粒砂質シルトを基本とする）、④地山（褐灰色細粒砂質シルトを基本とする）である。遺物包含層は、調査区の主に西半部に堆積し、東半部は、耕作土の下が地山となっている。また、地山は、東端部および南西端部では疊層となっている。田面から地山までは約50cmである。

(2) 遺構の概要 (第24~35図、図版5~14)

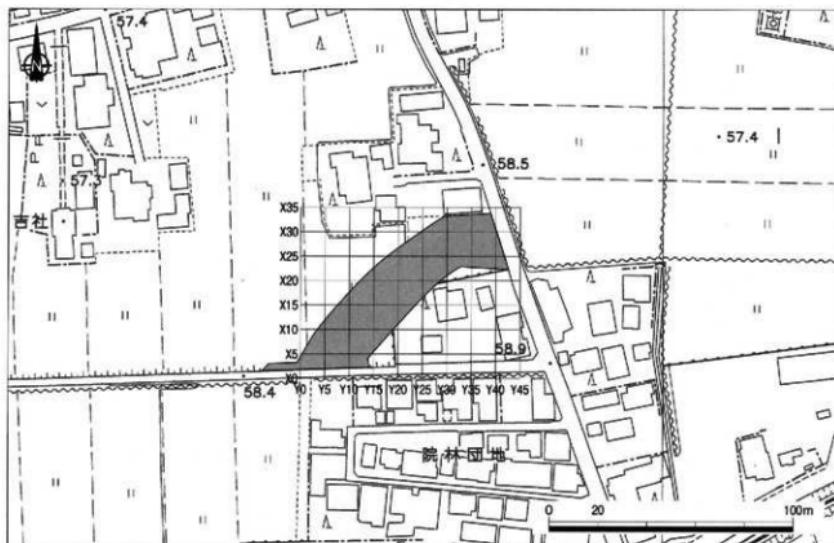
本地区では、横1条、掘立柱建物5棟、井戸2基、溝、土坑、柱穴が検出された。

S A01-S D14-15 (第26~28図、図版7)

調査区の南西側X 5~8、Y 5~17に位置する。東西方向に延びる構で、東側は調査区外へ延びる。規模は長さが23.0m以上を測り、柱穴9基以上からなる。掘立柱建物S B04・05を切り、溝S D14・15に切られる。柱穴の平面形は、南北方向の隅丸長方形ないし梢円形である。平面形が梢円形の柱穴も、隅丸長方形が崩落によって梢円形になったものと推察できるので、平面形は隅丸長方形を基調として掘削されたものと推定できる。柱穴の規模は、長軸1.9~3.5m、短軸1.5~2.2m、深さ72~120cmを測る。出土遺物は土師器、須恵器である。遺構の時期は、9世紀~10世



第5図 院林遺跡4地区の基本層序



第6図 院林遺跡4地区の調査区割 (S = 1 : 2,000)

紀である。S D14・15はS A01が撤去され、土坑群が埋められた後に同一地点に掘削された溝である。遺構の時期は10世紀以降である。

S B01 (第28・29図、図版8)

調査区の北側、X 28~32、Y 26~64に位置する。桁行3間(12.5m)×梁行2間(6.8m)の側柱建物である。主軸は東から4.3度北に振っている。北西側は調査区外に延びている。南東側の柱穴は確認できなかった。柱間は、桁行が東から4.5m・4.5m・3.5m、梁行が南から4.0m・2.8mである。S D01を切る。柱穴は、平面形が梢円形ないし不整形で、規模が長軸0.8~5.2m、短軸は0.6~2.5m、深さ32~92cmを測る。柱穴からの出土遺物は、須恵器、土師器、肥前、伊万里である。建物の時期は、17世紀後半~18世紀である。S B01との位置関係や出土遺物から、S K07・08・31はこの建物に付随する土坑と推測できる。

この建物は、砺波地方の民家の間取り(富山県教委1980)から広間型の間取りと推定でき、P 4-P 8-P 13より東側が土間、西側が居間となる。S K31はヒロマのナンド側の日常空間にあたり、イロリを構築した場所と推測できる。P 2-3-7-6の位置は、ザシキと推測できる。この位置には約80cm西へ張出しが確認でき、仏壇を設置するツツマの可能性がある。

S B02 (第30図、図版8)

調査区の北側、X 25~28、Y 26~30に位置する。桁行3間(7.3m)×梁行3間(5.6m)の側柱建物である。主軸は、東から7.6度北に振っている。S D02を切る。南側は試掘トレンチで切られる。柱間は、桁行が東から2.4m・2.2m・2.7m、北から2.0m・1.9m・1.7mである。柱穴の平面形は、梢円形ないし不整形で、規模は長軸0.3~1.2m、短軸0.2~0.8、深さ13~34cmを測る。出土遺物は土師器、須恵器である。遺構の時期は、周辺の遺物などから17世紀後半~18世紀のものと推定できる。

S B03 (第31図、図版9)

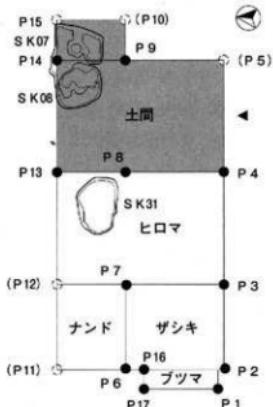
調査区の北西側、X 15~18、Y 10~13に位置する。桁行1間以上(2.4m以上)×梁行2間(5.2m)の側柱建物である。主軸は、北から35度西に振っている。北側は調査地区外へ延びている。柱間は、桁行が2.4m、梁行が2.6m均等である。柱穴の平面形は隅丸方形で、規模は一辺0.8~1.2m、深さ36~48cmを測る。P 4・5に柱穴がある。出土遺物は土師器である。遺構の時期は、掘り方や周辺の遺構などから8世紀後半~9世紀前半に位置付けできる。

S B04 (第32図、図版10)

調査区の南側、X 6~11、Y 13~18に位置する。桁行2間以上(5.2m以上)×梁行2間(5.2m)の側柱建物である。主軸は、北から32度西に振っている。南側は調査地区外へ延びている。柱間は、桁行・梁行ともが2.6m均等である。S B05を切り、S A01・S D14に切られる。柱穴の平面形は隅丸方形で、規模は一辺0.8~1.2m、深さ30~60cmを測る。P 1・2・6に柱穴がある。遺物は出土していない。遺構の時期は、掘り方や周辺の遺構などから8世紀後半~9世紀前半に位置付けできる。

S B05 (第33・34図、図版11)

調査区の南側、X 6~11、Y 14~19に位置する。桁行3間(6.0m)×梁行2間(4.5m)の側柱建物である。主軸は、北から31度西に振っている。柱間は、桁行が2.0m均等、梁行2.2m均等である。S A01・S B04・S D14に切られる。柱穴の平面形は隅丸方形で、規模は一辺0.8~1.2m、深さ30~60cmを測る。P 2・7に柱穴がある。P 2は柱



第7図 S B01間取り復元模式図

の抜き取り穴を持つ。遺物は出土していない。遺構の時期は、掘り方や周辺の遺構などから8世紀後半～9世紀前半に位置付けできる。

S E01 (第25図、図版8・12)

調査区の北側、X 26・27、Y 31・32に位置する。平面形は不整橢円形で、規模は長軸2.7m、短軸2.0m、深さ118cmを測る。井戸側は確認できなかった。出土遺物は、須恵器、肥前、伊万里である。遺構の時期は、17世紀後半～18世紀である。

S E02 (第25図、図版12)

調査区の南側、X 3・4、Y 10・12に位置する。平面形は方形で、規模は長軸2.8m、短軸2.6m、深さ125cmを測る。井戸側は確認できなかったが、井戸の西側では黒褐色シルトと褐色シルトが互層に堆積しているため、井戸側を設置した際の覆土と推定できる。そのため、井戸側は廃棄の際抜き取られた可能性が高い。出土遺物は、須恵器、土師器である。遺構の時期は、9世紀～10世紀である。

S K02 (第34図、図版12)

調査区の東側、X 24・25、Y 36・37に位置する。平面形は不整形で、規模は長軸2.2m、短軸2.4m、深さ95cmを測る。出土遺物は、土師器、須恵器である。遺構の時期は、10世紀である。

S K23 (第34図、図版13)

調査区の中央、X 20、Y 17に位置する。平面形は不整形で、規模は長軸1.3m以上、短軸1.2m、深さ23cmを測る。

S D22を切り、南側は暗渠に切られる。出土遺物は、土師器、炭化米である。遺構の時期は、9世紀である。

S K77 (第34図、図版12)

調査区の北西側、X 18、Y 15に位置する。平面形は隅丸方形で、規模は一边1.2m、深さ26cmを測る。出土遺物は、土師器、須恵器、炭化米である。遺構上面には焼土が薄く堆積している。遺構の時期は、9世紀である。

S D01・02・03 (第35図、図版14)

S D01は調査区の東側を南東～北西方向に流れる流路である。規模は、長さ8.8m以上、幅0.8～1.5m、深さ54cmを測る。出土遺物は土師器、須恵器である。S D02はS D01から分岐する流路である。規模は、長さ6.4m以上、幅0.8～1.3m、深さ52cmを測る出土遺物は土師器、須恵器である。S D03はS D01に切られる流路である。遺構の時期は、S B03～05と共に通すことから、8世紀後半～9世紀と推定できる。

S D05・13・16 (第35図、図版13・14)

調査区の北西側を南東～北西方向に流れる流路である。S D05は長さ7.3m以上、幅2.3～3.5m、深さ30～100cmを測る。出土遺物は、土師器、須恵器、灰釉陶器、肥前、越中瀬戸である。S D05には暗渠が多数掘削されており、近世遺物は混入したものと考えられる。S D05とS D16は連続する流路であるが、その間には地山が小橋状に高まっている。S D13は長さ5.4m以上、幅1.8m、深さ27～59cmである。いずれも遺構の時期は8世紀後半～9世紀である。

(3) 遺物の概要

S A01 (第40図、図版16)

1～5は土師器である。1は楕の口縁部である。2～5は楕の底部である。底部は回転糸切りである。6～11は須恵器である。6は双耳瓶の胴上部である。7は甕の頭部から胴上部にかけてのものである。8～11は甕の胴部である。いずれも9世紀のものである。

S B01 (第40・41図、図版16)

12～13は土師器である。12は楕の口縁部である。13は楕の底部である。14は甕の口縁部である。15～19は須恵器で

ある。15~17は無台杯である。18は高台杯である。19は杯蓋である。8世紀後半~9世紀にかけてのものである。また、細片のため図示できなかったが、肥前、伊万里も出土している。

S B 02 (第41図、図版16)

20は壺の底部である。底部は回転糸切りである。

S E 01 (第41図、図版16)

21は土師器の非ロクロ成形の皿である。口縁外部は2段ナデを施す。12世紀後半のものである。22は伊万里の碗である。18世紀後半のものである。

S E 02 (第41図、図版16)

23~24は土師器の壺の底部である。底部は回転糸切りである。

S K 02 (第41図、図版16)

25~26は土師器である。25は土師器の碗の口縁部である。26はロクロ成形の皿である。底部は回転糸切りである。27~33は須恵器である。27~28は無高台の杯の底部である。29~31は杯蓋である。29は垂みが大きい。32は短頸壺の口縁部である。33は瓶類の底部である。9世紀~10世紀前半のものである。

S K 04・23 (第41図、図版16)

S K 04は34が出土した。34は須恵器の無台杯である。S K 23は35が出土した。35は土師器の壺の底部である。

S K 72 (第41図、図版16)

36~39は土師器である。36は内面黒色処理された碗の口縁部である。37は内面黒色処理された碗の底部である。外下方へやや延びる高台を持つ。36~37は10世紀後半のものである。38~39は碗の底部である。底部は回転糸切りである。40は須恵器の有台杯である。

S K 77 (第42図、図版17)

41~46は土師器である。41~45は碗である。41~42の底部は回転糸切りである。46は皿の高台である。47~48は須恵器の壺の胴部である。内外面にタキ痕がある。いずれも9世紀のものである。

S D 01・02 (第42図、図版17)

S D 01は49~51が出土した。49は土師器の非ロクロ成形の皿である。13世紀前半のものである。50~51は須恵器である。50は無高台の杯の底部である。底部は回転糸切りである。51は高台杯の底部である。S D 02は52が出土した。52は高台杯である。9世紀後半~10世紀初頭のものである。

S D 04 (第42図、図版17)

53は土師器の壺の底部である。54~55は須恵器である。54は有台杯である。55は壺の口縁部である。56は青磁の碗である。龍泉窯系のものであり、12世紀後半のものである。57は株洲の壺の胴部である。58は八尾の壺の胴部である。

S D 05 (第43~45図、図版17~18)

59~69は土師器である。59は碗であり、底部は回転糸切りである。60は内面黒色処理された碗である。61は内面黒色処理、外面赤彩された有台杯である。62~63は有高台の碗の底部である。64~66は壺である。64は壺の口縁部から胴上部である。胴上部はカキメ、胴下部外面は格子状タタキを施し、内面に同心円痕がある。65は壺の口縁部である。66は壺の底部である。外面はケズリを施す。67~68は鍋である。69は口縁部の造りが須恵器蓋と共通することから蓋としたが、熔接のような浅い鍋の可能性もある。70~101は須恵器である。70~75は無台杯である。76~84は有台杯である。85は双耳杯である。86~99は杯蓋である。100~101は双耳瓶である。102は広口壺の口縁部である。103~104は灰釉陶器である。103は碗である。104は壺の頭部から口縁部にかけてのものである。内面はカキメで、灰釉を施す。暗窓の可能性もある。105は肥前の碗である。暗窓などからの混入の可能性が高い。106は正面窓である。海と

勝を分ける有堤式（檜崎1982）である。円形とM字状の邊かしが4箇所ずつ持つ。107・108は鉄滓である。模型滓で、磁力を帯びておらず鐵治滓である。105以外は、8世紀後半～9世紀のものである。

S D 06 (第45図、図版19)

109・110は土師器の椀である。底部は回転糸切りである。111～113は須恵器である。111は杯の口縁部である。112は蓋の口縁部である。113は瓶類の腹部である。内面にはシボリ痕があり、横瓶の可能性もある。

S D 07 (第46図、図版19)

114～117は土師器である。114・115はロクロ成形の皿である。114は底部が回転糸切りである。115は底部が摩滅している。12世紀後半のものである。116・117は椀の底部である。底部は回転糸切りである。118～125は須恵器である。118は無台杯である。119～123は有台杯である。119の口縁部には油煙が付着する。124は杯蓋である。125は広口壺の口縁部である。

S D 08 (第46図、図版19)

126は土師器の椀の口縁部である。127は須恵器の短頸壺の口縁部である。焼成は悪い。

S D 11 (第46図、図版19)

128・129は須恵器である。128は壺の口縁部である。口縁部外面に波状文を施す。129は広口瓶の口縁部である。

S D 13 (第46図、図版19)

130は土師器の椀である。底部は回転糸切りである。131・132は須恵器である。131は無台杯である。132は有台杯である。いずれも8世紀後半～9世紀前半のものである。

S D 14・22 (第46図、図版19)

133はS D 14出土の土師器の皿である。底部は摩滅している。10世紀前半のものである。134はS D 22出土の土師器の椀である。

S D 16 (第47図、図版19・20)

135・136は土師器である。135は鍋である。胴上部外面と口縁部内面はカキメ、胴下部外面はケズリ、胴下部内面はハケメである。136は壺の底部である。底部は回転糸切りである。137～144は須恵器である。137～141は無台杯である。137・139・141の口縁部内面には油煙が付着する。142・143是有台杯である。144は壺の颈部から胴上部である。いずれも8世紀後半から9世紀前半のものである。

P 1・カクラン (第47図、図版20)

145はP 1出土の土師器の椀である。カクランからは146・147が出土した。146は土師器の椀である。147は肥前の椀であり、陶胎染付を施す。

表土・包含層 (第48・49図、図版20)

148は繩文土器である。外面に条痕文を施す。149～156は土師器である。149は内面黒色処理された高台付の椀である。150は皿であり、10世紀前半のものである。151は高盤の杯部である。内外面に赤彩を施す。152はロクロ成形の皿であり、13世紀前半のものである。153・154は非ロクロ成形の皿である。13世紀前半のものである。155は瓶の取手である。156は鍋である。口縁部内面はカキメ、胴上部内面はハケメを施す。157～168は須恵器である。157～159は無台杯である。160～164是有台杯である。165・166は杯蓋である。167は長頸瓶の底部である。底部は回転糸切り後高台を貼付け、胴下部外面にはロクロケズリを施す。168は瓶類の颈部から胴上部にかけてのものである。169は灰釉陶器の椀の底部である。高台は欠損している。170～172は珠洲である。170・171は壺の口縁部である。172は擂鉢であり、12世紀後半のものである。173は肥前の灯明皿である。174は圓面鏡である。透かしを8箇所持つ。175は滑石製の石鍋を温石として再利用したものである。176は石鉢の底部である。緑色凝灰岩製である。 (岡田一広)

IV 自然科学分析

1 院林遺跡から出土したイネ炭化果実（炭化米）について

（1）試料と同定結果

試料は南砺市院林遺跡の土坑から出土した炭化物である。SK77とSK23（奈良・平安時代）からの出土で、サンプリングと水洗選別までを発掘担当者がおこない、その後の処理を筆者がおこなった。遺構掘削中から炭化米が肉眼で判別できていた。試料は遺構毎にフィルムケース各1本ずつに入れられており、乾燥した状態であった。

観察の結果、イネ炭化果実が同定された。形態は橢円形を呈し、下端の胚の部分はややくぼむ。表面には縱方向に数条の溝が走る。イネ炭化果実は穎（穂）のない状態の個体が大半を占めており、穎を伴う個体は試料中から2個体のみが確認されたにすぎなかった。また、イネ炭化果実の中で一部分が膨らんでいる焼き膨れの個体はほとんど無く、全体が膨らんだ焼き太りの個体が少量みられた。イネ炭化果実以外の穀実遺体は確認されず、イネの果実以外の部位についても確認されなかった。試料の中には、イネ炭化果実とはほぼ同等の人気さの炭化粒（樹木が多いと思われる）が含まれていた。イネ炭化果実については遺構毎に任意に100個体ずつ、合計200個体について抽出し、計測をおこなう、表2にまとめた。表の中の粒形を粒長／粒幅で、粒の大きさを粒長×粒幅で示している。また、遺構毎に粒長と粒幅については散布図（第7・8図）を、粒形については分布図（第9・10図）をそれぞれ示した。

（2）所見

イネ炭化果実の計測値から、粒長の最大値は5.7mm、最小値は3.4mm、平均値は4.7mm、粒幅の最大値は3.5mm、最小値は2.2mm、平均値は2.8mm、粒厚の最大値は2.5mm、最小値は1.6mm、平均値は2.0mmである。また、粒形の最大値は2.2、最小値は1.2、平均値は1.7、粒の大きさの最大値は17.5、最小値は8.8、平均値は13.1となっている。粒長と粒幅の散布図ではSK23とSK77のどちらも粒長4.0～5.5mm、粒幅は2.0～3.5mmの間にそのほとんどが分布していることが分かる。このことは、これらのイネ炭化果実がまとまりのある一群であることを示している。

イネ炭化果実（炭化米）については佐藤の研究（佐藤1988）があり、佐藤の基準に準拠して検討してみる。まず、粒形の分布図をみると、SK23、SK77とともに正規分布を示している。SK23では円粒（～1.4）は1個体、短粒（1.4～2.0）は92個体、長粒（2.0～）は7個体で、そのほとんどが短粒の範囲内におさまる。粒の大きさについては極小粒（8～12）は29個体、小粒（12～16）は69個体、中粒（16～20）は2個体となっている。これは、極小粒～小粒に多く分布する傾向にある。SK77についてもSK23とはほぼ同様な傾向が得られた。円粒（～1.4）は2個体、短粒（1.4～2.0）は89個体、長粒（2.0～）は9個体である。粒の大きさについては極小粒（8～12）は13個体、小粒（12～16）は84個体、中粒（16～20）は3個体となっている。

同定されたイネ炭化果実の中には焼き太りしている個体がみられた。このことは、イネ炭化果実が堆積前に被熱し、炭化したことが考えられる。

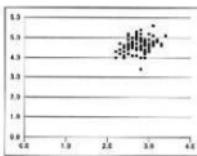
（島田亮仁）

参考文献

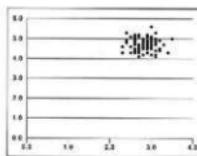
- 佐藤敏也 1988 「弥生のイネ」『弥生文化の研究 第2巻』 雄山閣
佐田雅和・辻誠一郎 1996 「横江庄遺跡出土の炭化米・穂について」『東大寺領横江庄遺跡II』 石川県松任市教育委員会

第2表 華林遺跡出土のイネ炭化果実計測値一覧

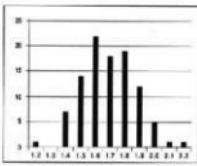
年	月	日	晴	雨	風	露	氣	水	地	物	候
1	4	23	2.0	2.0	2.0	1.9	16.1				
1	4	24	3.2	3.2	3.1	1.1	16.5				
1	4	25	3.9	3.9	2.4	1.6	14.7				
1	4	26	3.9	3.9	2.0	2.0	14.2				
1	4	27	3.9	3.9	2.0	2.0	14.2				
1	4	28	3.1	3.1	2.0	1.8	15.7				
1	4	29	3.2	3.2	1.8	1.5	15.7				
1	4	30	2.6	2.6	2.5	1.8	12.0				
1	5	1	2.5	2.5	2.6	1.4	12.0				
1	5	2	2.0	2.0	1.9	1.0	14.1				
1	5	3	2.1	2.1	1.9	1.0	14.1				
1	5	4	3.0	3.0	2.1	1.4	13.9				
1	5	5	3.7	3.7	2.0	1.2	12.7				
1	5	6	3.6	3.6	2.1	1.5	13.2				
1	5	7	2.8	2.8	1.8	1.2	12.4				
1	5	8	2.9	2.9	1.8	1.2	12.4				
1	5	9	2.9	2.9	1.8	1.2	12.4				
1	5	10	4.2	4.2	3.2	1.1	15.9				
1	5	11	4.8	4.8	3.9	1.5	12.8				
1	5	12	4.5	4.5	3.7	1.7	14.0				
1	5	13	4.5	4.5	3.7	1.7	14.0				
1	5	14	4.8	4.8	3.8	1.6	13.2				
1	5	15	4.5	4.5	3.5	1.6	13.0				
1	5	16	4.0	4.0	3.1	1.6	12.8				
1	5	17	4.0	4.0	3.2	1.7	12.8				
1	5	18	4.0	4.0	3.2	1.7	12.8				
1	5	19	4.0	4.0	3.2	1.7	12.8				
1	5	20	4.0	4.0	3.2	1.7	12.8				
1	5	21	4.0	4.0	3.2	1.7	12.8				
1	5	22	4.0	4.0	3.2	1.7	12.8				
1	5	23	4.0	4.0	3.2	1.7	12.8				
1	5	24	4.0	4.0	3.2	1.7	12.8				
1	5	25	4.0	4.0	3.2	1.7	12.8				
1	5	26	4.0	4.0	3.2	1.7	12.8				
1	5	27	4.0	4.0	3.2	1.7	12.8				
1	5	28	4.0	4.0	3.2	1.7	12.8				
1	5	29	4.0	4.0	3.2	1.7	12.8				
1	5	30	4.0	4.0	3.2	1.7	12.8				
1	5	31	4.0	4.0	3.2	1.7	12.8				
1	6	1	4.0	4.0	3.2	1.7	12.8				
1	6	2	4.0	4.0	3.2	1.7	12.8				
1	6	3	4.0	4.0	3.2	1.7	12.8				
1	6	4	4.0	4.0	3.2	1.7	12.8				
1	6	5	4.0	4.0	3.2	1.7	12.8				
1	6	6	4.0	4.0	3.2	1.7	12.8				
1	6	7	4.0	4.0	3.2	1.7	12.8				
1	6	8	4.0	4.0	3.2	1.7	12.8				
1	6	9	4.0	4.0	3.2	1.7	12.8				
1	6	10	4.0	4.0	3.2	1.7	12.8				
1	6	11	4.0	4.0	3.2	1.7	12.8				
1	6	12	4.0	4.0	3.2	1.7	12.8				
1	6	13	4.0	4.0	3.2	1.7	12.8				
1	6	14	4.0	4.0	3.2	1.7	12.8				
1	6	15	4.0	4.0	3.2	1.7	12.8				
1	6	16	4.0	4.0	3.2	1.7	12.8				
1	6	17	4.0	4.0	3.2	1.7	12.8				
1	6	18	4.0	4.0	3.2	1.7	12.8				
1	6	19	4.0	4.0	3.2	1.7	12.8				
1	6	20	4.0	4.0	3.2	1.7	12.8				
1	6	21	4.0	4.0	3.2	1.7	12.8				
1	6	22	4.0	4.0	3.2	1.7	12.8				
1	6	23	4.0	4.0	3.2	1.7	12.8				
1	6	24	4.0	4.0	3.2	1.7	12.8				
1	6	25	4.0	4.0	3.2	1.7	12.8				
1	6	26	4.0	4.0	3.2	1.7	12.8				
1	6	27	4.0	4.0	3.2	1.7	12.8				
1	6	28	4.0	4.0	3.2	1.7	12.8				
1	6	29	4.0	4.0	3.2	1.7	12.8				
1	6	30	4.0	4.0	3.2	1.7	12.8				
1	6	31	4.0	4.0	3.2	1.7	12.8				
1	7	1	4.0	4.0	3.2	1.7	12.8				
1	7	2	4.0	4.0	3.2	1.7	12.8				
1	7	3	4.0	4.0	3.2	1.7	12.8				
1	7	4	4.0	4.0	3.2	1.7	12.8				
1	7	5	4.0	4.0	3.2	1.7	12.8				
1	7	6	4.0	4.0	3.2	1.7	12.8				
1	7	7	4.0	4.0	3.2	1.7	12.8				
1	7	8	4.0	4.0	3.2	1.7	12.8				
1	7	9	4.0	4.0	3.2	1.7	12.8				
1	7	10	4.0	4.0	3.2	1.7	12.8				
1	7	11	4.0	4.0	3.2	1.7	12.8				
1	7	12	4.0	4.0	3.2	1.7	12.8				
1	7	13	4.0	4.0	3.2	1.7	12.8				
1	7	14	4.0	4.0	3.2	1.7	12.8				
1	7	15	4.0	4.0	3.2	1.7	12.8				
1	7	16	4.0	4.0	3.2	1.7	12.8				
1	7	17	4.0	4.0	3.2	1.7	12.8				
1	7	18	4.0	4.0	3.2	1.7	12.8				
1	7	19	4.0	4.0	3.2	1.7	12.8				
1	7	20	4.0	4.0	3.2	1.7	12.8				
1	7	21	4.0	4.0	3.2	1.7	12.8				
1	7	22	4.0	4.0	3.2	1.7	12.8				
1	7	23	4.0	4.0	3.2	1.7	12.8				
1	7	24	4.0	4.0	3.2	1.7	12.8				
1	7	25	4.0	4.0	3.2	1.7	12.8				
1	7	26	4.0	4.0	3.2	1.7	12.8				
1	7	27	4.0	4.0	3.2	1.7	12.8				
1	7	28	4.0	4.0	3.2	1.7	12.8				
1	7	29	4.0	4.0	3.2	1.7	12.8				
1	7	30	4.0	4.0	3.2	1.7	12.8				
1	7	31	4.0	4.0	3.2	1.7	12.8				
1	8	1	4.0	4.0	3.2	1.7	12.8				
1	8	2	4.0	4.0	3.2	1.7	12.8				
1	8	3	4.0	4.0	3.2	1.7	12.8				
1	8	4	4.0	4.0	3.2	1.7	12.8				
1	8	5	4.0	4.0	3.2	1.7	12.8				
1	8	6	4.0	4.0	3.2	1.7	12.8				
1	8	7	4.0	4.0	3.2	1.7	12.8				
1	8	8	4.0	4.0	3.2	1.7	12.8				
1	8	9	4.0	4.0	3.2	1.7	12.8				
1	8	10	4.0	4.0	3.2	1.7	12.8				
1	8	11	4.0	4.0	3.2	1.7	12.8				
1	8	12	4.0	4.0	3.2	1.7	12.8				
1	8	13	4.0	4.0	3.2	1.7	12.8				
1	8	14	4.0	4.0	3.2	1.7	12.8				
1	8	15	4.0	4.0	3.2	1.7	12.8				
1	8	16	4.0	4.0	3.2	1.7	12.8				
1	8	17	4.0	4.0	3.2	1.7	12.8				
1	8	18	4.0	4.0	3.2	1.7	12.8				
1	8	19	4.0	4.0	3.2	1.7	12.8				
1	8	20	4.0	4.0	3.2	1.7	12.8				
1	8	21	4.0	4.0	3.2	1.7	12.8				
1	8	22	4.0	4.0	3.2	1.7	12.8				
1	8	23	4.0	4.0	3.2	1.7	12.8				
1	8	24	4.0	4.0	3.2	1.7	12.8				
1	8	25	4.0	4.0	3.2	1.7	12.8				
1	8	26	4.0	4.0	3.2	1.7	12.8				
1	8	27	4.0	4.0	3.2	1.7	12.8				
1	8	28	4.0	4.0	3.2	1.7	12.8				
1	8	29	4.0	4.0	3.2	1.7	12.8				
1	8	30	4.0	4.0	3.2	1.7	12.8				
1	8	31	4.0	4.0	3.2	1.7	12.8				
1	9	1	4.0	4.0	3.2	1.7	12.8				
1	9	2	4.0	4.0	3.2	1.7	12.8				
1	9	3	4.0	4.0	3.2	1.7	12.8				
1	9	4	4.0	4.0	3.2	1.7	12.8				
1	9	5	4.0	4.0	3.2	1.7	12.8				
1	9	6	4.0	4.0	3.2	1.7	12.8				
1	9	7	4.0	4.0	3.2	1.7	12.8				
1	9	8	4.0	4.0	3.2	1.7	12.8				
1	9	9	4.0	4.0	3.2	1.7	12.8				
1	9	10	4.0	4.0	3.2	1.7	12.8				
1	9	11	4.0	4.0	3.2	1.7	12.8				
1	9	12	4.0	4.0	3.2	1.7	12.8				
1	9	13	4.0	4.0	3.2	1.7	12.8				
1	9	14	4.0	4.0	3.2	1.7	12.8				
1	9	15	4.0	4.0	3.2	1.7	12.8				
1	9	16	4.0	4.0	3.2	1.7	12.8				
1	9	17	4.0	4.0	3.2	1.7	12.8				
1	9	18	4.0	4.0	3.2	1.7	12.8				
1	9	19	4.0	4.0	3.2						



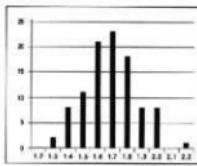
第8図 SK23粒長と粒幅の散布図



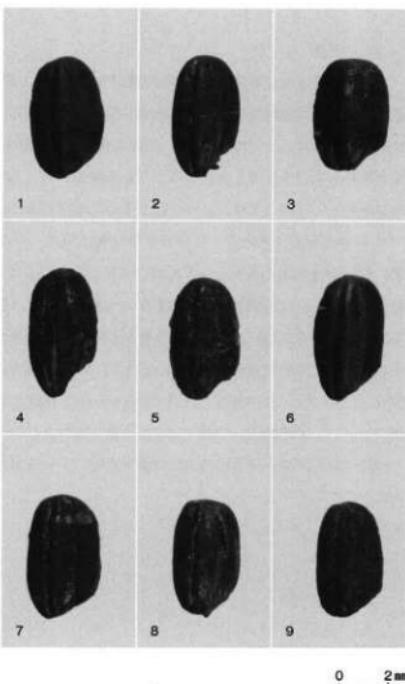
第9図 SK77粒長と粒幅の散布図



第10図 SK23粒長／粒幅の分布図



第11図 SK77粒長／粒幅の分布図



第12図 院林遺跡出土のイネ炭化果実

2 寺家廃寺跡の花粉化石

(1) はじめに

旅川右岸のやや小高い場所に立地している寺家廃寺跡において行われた平成20年度の発掘調査で、奈良・平安時代（8世紀後半～9世紀前半）にかけての清や平安・鎌倉時代（11世紀後半～12世紀前半）の大溝が確認されている。

以下には大溝遺構より採取された土壤試料について行った花粉分析の結果を示し、遺跡周辺の古植生について検討した。

(2) 試料と分析方法

試料は大溝遺構 S D01より採取された7試料（試料番号1～7）である。各試料について、試料1、2（7層）は黒褐色の砂質粘土質シルト（旧表上）で、その上位は盛土である。試料3（8層）は暗褐色の砂質粘土質シルトで、レキが認められる。試料4（13層）は黒褐色の砂質シルト質粘土で、レキが点在している。試料5（17層）は暗青灰色の砂質シルト質粘土で、レキが点在している。試料6（22層）は灰褐色のシルト質細粒砂で、レキが点在～散在している。試料7（23層）は暗青灰色のシルト質細粒砂で、地山である。なお、試料4～6がS D01の覆土で、時期は13層（試料4）が中世中葉

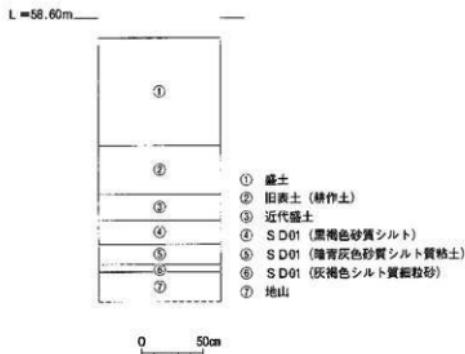
（14世紀頃）、17層（試料5）が中世前業（12世紀後半～13世紀）、22層（試料6）が古代（8世紀後半～9世紀）と考えられている。これら7試料について以下の手順にしたがって花粉分析を行った。

試料（湿重約5～6g）を遠沈管に採り、10%水酸化カリウムを加え20分湯煎する。水洗後、0.5mm目の篩にて植物遺体などを取り除き、傾斜法を用いて粗粒砂分を除去する。次ぎに46%フッ化水素酸処理を行い水洗する。水洗後、重液分離（臭化亜鉛溶液：比重2.1を加え遠心分離）を行い、浮遊物を回収する。水洗後、酢酸処理、続けてアセトトリシス処理（無水酢酸9：1濃硫酸の混液を加え3分間湯煎）を行い、水洗する。この残渣にグリセリンを滴下し保存用とする。検鏡はこの残渣より適宜プレパラートを作製して行い、その際サフラニンにて染色を施した。

(3) 分析結果

検出された花粉・胞子の分類群数は樹木花粉27、草本花粉30、形態分類を含むシダ植物胞子5の総計62である。これら花粉・シダ植物胞子の一覧を表3に、またそれらの分布を第14図に示したが、試料5～7の3試料については得られた花粉化石数が非常に少なく分布図として示すことが出来なかった。なお分布図について、樹木花粉は樹木花粉总数を、草本花粉・シダ植物胞子は全花粉胞子总数を基数として百分率で示してある。また、図および表においてハイフン（-）で結んだ分類群はそれら分類群間の区別が困難なものを示し、クワ科、バラ科、マメ科の花粉は樹木起源と草本起源のものとがあるが、各々に分けることが困難なため便宜的に草本花粉に括して入れてある。

先に記したように下部3試料においては得られた花粉化石数が少なかったことから上位4試料についてその特徴を示す。



第13図 寺家廃寺跡、花粉採取地点土層柱状図

検鏡の結果、試料4においてはニレ属-ケヤキ属が最も多く検出されているが、上部に向かい急減している。反対にハンノキ属は上部に向かい急増している。コナラ属コナラ亜属も多く、試料2、3では出現率30%前後を示し最優占している。その他では針葉樹のマツ属複雜管束亞属（アカマツやクロマツなどのいわゆるニヨウマツ類）やスギが10%前後を、落葉広葉樹のクマシテ属-アサダ属やブナが5%前後を示しており、常緑広葉樹のコナラ属アガシ亜属も若干観察されている。草本類ではイネ科が非常に多く、出現率は50~70%を示している。その他はいずれも低率で、その中ではアブラナ科が上部に向かい漸増しており、最上部試料1では約10%を示している。またソバ属が試料4で3%の出現率を示すなど、連続して検出されている。低率ではあるが水生植物のオモダカ属やミズアオイ属多くの試料で観察されている。

なお試料5ではスギが、試料6ではコウヤマキ属が樹木花粉では最も多く得られており、草本類ではイネ科が観察されている。

（4）遺跡周辺の古植生

上記した花粉分析結果から守家廃寺跡周辺の植生変遷について記す。

古代（8世紀後半～9世紀：試料6）や中世前葉（12世紀後半～13世紀：試料5）、地山層堆積物（試料7）の積生については得られた花粉化石数が非常に少なく言及できないと考えるが、古代においてはスギが、古代～中世はコウヤマキ属やスギなどが生育していたと推測されよう。

中世中葉（14世紀頃：試料4）の遺跡周辺丘陵部ではニレ属-ケヤキ属を中心的にコナラ亜属、クマシテ属-アサダ属などが生育する落葉広葉樹林が広く成立していたとみられる。その後、ニレ属-ケヤキ属は急速にその分布域を狭め、代わってコナラ亜属が優勢となったようである。その要因については不明であるが、ニレ属あるいはケヤキ属が有用材としてこの時期盛んに使われ、その跡地にコナラ亜属が侵入して分布を拡大した可能性が考えられる。これについては本遺跡や周辺遺跡における木材利用を検討することでその様相をみることができるのでないかと思われる。

この時期の遺跡周辺丘陵部では上記落葉広葉樹林の他、ニヨウマツ類やスギなどの針葉樹林も一部に成立していたものと推測され、こうした様相は3層堆積期まで大きく変わることなく続いたと推察される。

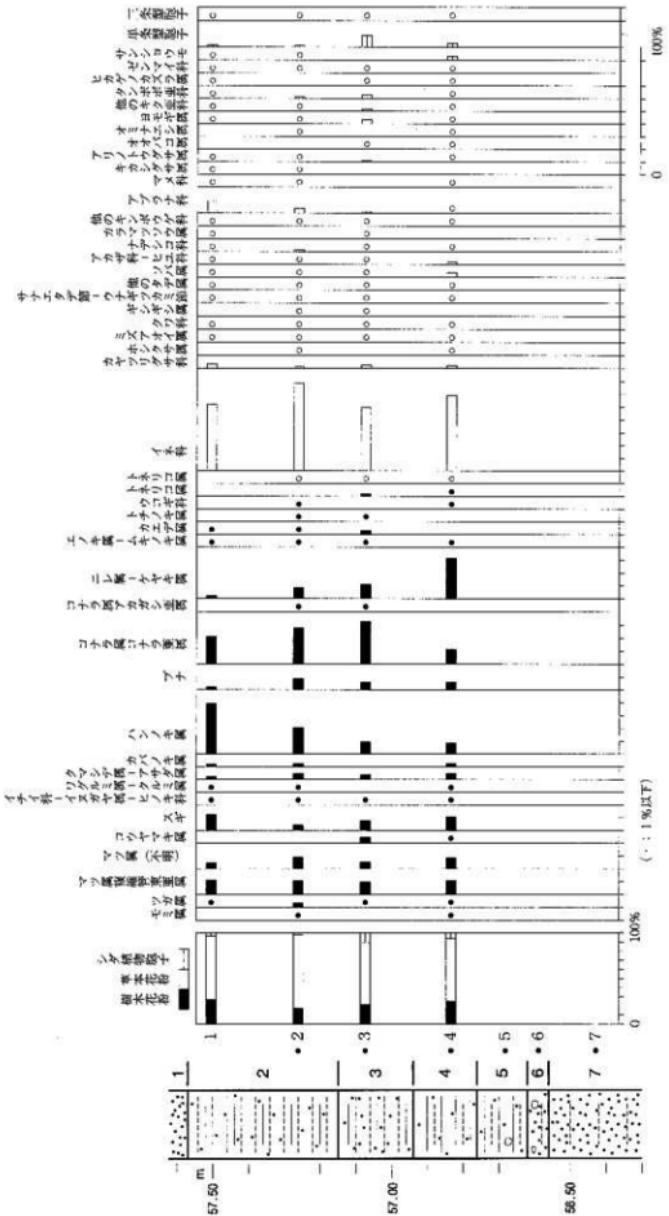
一方低地部では河川の影響も少なくなり、河畔林・湿地林要素のハンノキ属が大湧周辺に分布を拡大したとみられる。またこの時期の低地部では水田稲作が行われていたと推測され、この水田内にはオモダカ属（オモダカ、ウリカワなど）やミズアオイ属（コナギなど）といった水田雜草類が生育していたとみられる。さらに試料4ではソバ属が多量に検出されていることから、遺跡周辺にソバの畑も存在したことが推測される。ソバ属はその上位にかけて連続して検出されており、水田稲作とともにソバの栽培も継続して行われていたと推察される。また、アブラナ科も試料1においてやや多く検出されており、いわゆるアブラナやダイコンなどのアブラナ科の野菜類も栽培されていた可能性が考えられる。しかしながら現時点において花粉形態でこれらを区別することはできず、これについては今後の課題である。

なお試料6、7（22層、23層）においては砂が卓越していることから、多くの花粉は流失している可能性を考えられる。また試料5（17層）も粘土分が多いものの砂やレキも認められ、試料6、7同様に流失してしまっている可能性が推察される。

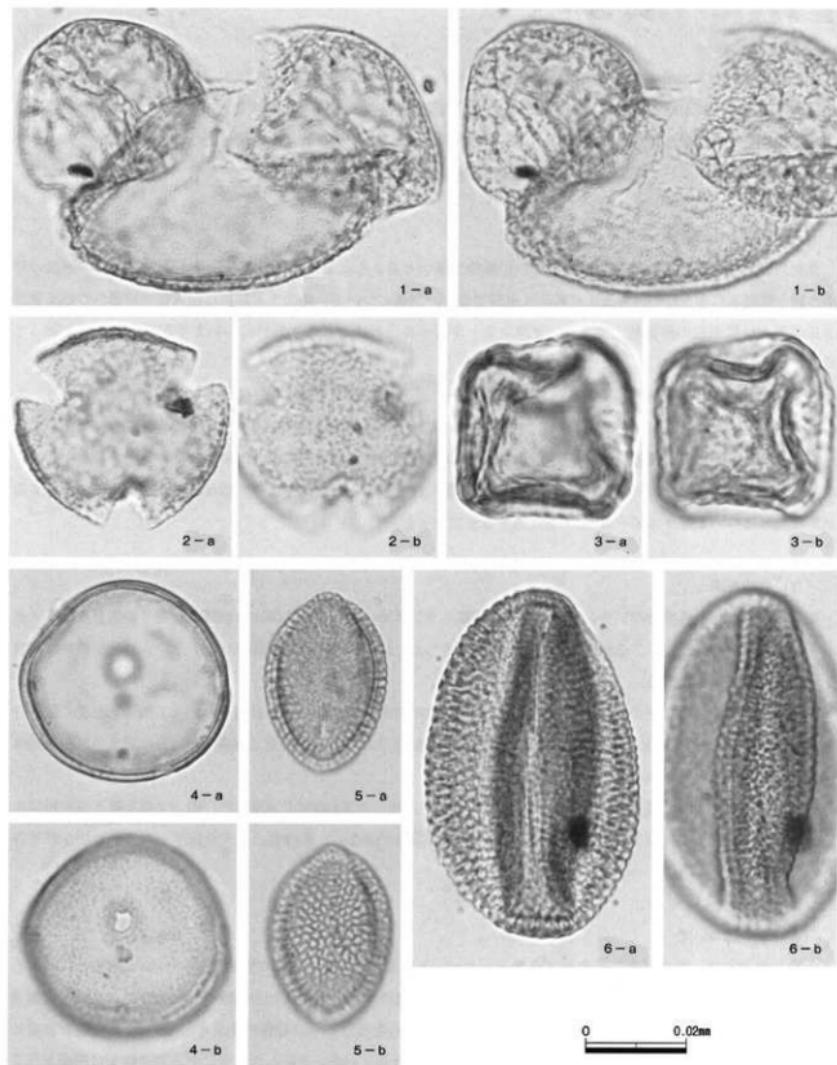
（鈴木 茂）

第3表 産出花粉化石一覧表

種名	学名	1	2	3	4	5	6	7
樹木								
モミ属	<i>Abies</i>	-	1	-	1	-	-	-
ツガ属	<i>Tsuga</i>	2	5	1	1	-	1	-
トウヒ属	<i>Picea</i>	-	-	1	-	-	-	-
マツ属(雄蕊管束系属)	<i>Pinus</i> subgen. <i>Haploxyylon</i>	-	-	1	1	-	-	-
マツ属(雄蕊管束系属)	<i>Pinus</i> subgen. <i>Diploxyylon</i>	22	20	11	22	-	-	-
マツ属(不明)	<i>Pinus</i> (Unknown)	9	17	6	18	-	2	-
コウヤマキ属	<i>Sciadopitys</i>	-	-	5	1	-	4	-
スギ	<i>Cryptomeria japonica</i> D. Don	26	9	9	22	6	2	-
イチイ-イヌガヤ科-ヒノキ科	Taxaceae-Cephalotaxaceae-Cupressaceae	2	1	1	2	1	-	-
ヤナギ属	<i>Salix</i>	-	1	-	-	-	-	-
サワグルミ属-クルミ属	<i>Pterocarya - Juglans</i>	1	1	-	2	-	-	-
クマシダ属-アサガホ属	<i>Carpinus - Ostrya</i>	5	8	4	9	-	-	-
カバノキ属	<i>Betula</i>	4	4	-	5	1	-	-
ハンノキ属	<i>Alnus</i>	83	42	11	17	-	-	-
ブナ	<i>Fagus crenata</i> Blume	5	17	6	11	-	-	-
コナラ属コナラ亜種	<i>Quercus</i> subgen. <i>Lepidobalanus</i>	45	57	37	24	-	2	-
コナラ属アカガシ亜種	<i>Quercus</i> subgen. <i>Cyclobalanopsis</i>	-	2	1	-	-	-	-
クリ属	<i>Castanea</i>	1	-	-	-	-	-	-
ニレ属-ケヤキ属	<i>Ulmus - Zelkova</i>	5	17	12	65	1	-	-
エゾノキ属-ムクノキ属	<i>Celtis - Aphananthe</i> cf. <i>Daphniphyllum</i>	1	2	1	1	-	-	-
ニシキギ属	<i>Celastraceae</i>	-	-	1	-	-	-	-
カニヂ属	<i>Acer</i>	1	1	3	-	-	-	-
トチノキ属	<i>Aesculus</i>	-	1	1	-	-	-	-
ウコギ科	<i>Araliaceae</i>	-	-	1	1	-	-	-
トネリコ属	<i>Fraxinus</i>	-	-	2	2	-	-	-
スイカズラ属	<i>Lonicera</i>	1	-	-	-	-	-	-
草本								
オモダカ属	<i>Sagittaria</i>	-	3	4	1	-	-	-
スプル属-ミズオバコ属	<i>Blyxa - Ottelia</i>	-	1	-	-	-	-	-
イネ科	Gramineae	423	877	276	478	19	7	-
カヤフリグサ科	<i>Cyperaceae</i>	31	22	17	10	-	3	-
ホシクサ属	<i>Eriocaulon</i>	-	1	-	2	-	-	-
ツユクサ属	<i>Commelinaceae</i>	-	-	1	-	-	-	-
イボクサ属	<i>Anemone</i>	1	-	-	-	-	-	-
ミズアツキ属	<i>Monochoria</i>	2	4	2	-	-	-	-
ヒガンバタ属近似種	cf. <i>Lycoris</i>	-	-	-	-	-	1	-
クワ科	<i>Moraceae</i>	1	3	4	1	-	-	-
ギンザギ属	<i>Rumex</i>	-	1	1	-	-	-	-
サナエタケ属-ウナギフカミ節	<i>Polygonum</i> sect. <i>Persicaria</i> - <i>Echinocaulon</i>	1	1	1	2	-	-	-
他のタデ属	other <i>Polygonum</i>	-	1	2	1	-	-	-
ソバ属	<i>Fragopyrum</i>	2	10	1	25	-	-	-
アカザ属-ヒエ科	<i>Chenopodiaceae</i> - <i>Amaranthaceae</i>	5	11	4	11	-	-	-
ナシコ科	<i>Caryophyllaceae</i>	2	13	4	3	-	-	-
コウホクサ属	<i>Nuphar</i>	-	-	-	-	1	-	-
カラマツソウ属	<i>Thalictrum</i>	3	-	1	-	-	1	-
他のランボウゲ科	other <i>Ranunculaceae</i>	1	4	2	2	-	-	-
アブラナ科	<i>Cruciferace</i>	77	53	7	7	-	1	-
バラ科	<i>Rosaceae</i>	-	-	2	-	-	-	-
マメ科	<i>Leguminosae</i>	1	1	-	1	-	-	-
キカンジサ属	<i>Rotala</i>	2	2	-	-	-	-	-
アリノトウガサ属	<i>Haloragis</i>	2	1	6	8	-	-	-
ソシ科	<i>Lavistae</i>	1	-	-	-	-	-	-
オバコ属	<i>Plantago</i>	-	-	2	1	-	-	-
オミナエシ属	<i>Patrinia</i>	-	2	-	1	-	-	-
ヨモギ属	<i>Artemisia</i>	8	6	18	6	1	4	-
他のキク科植物	other <i>Tubuliflorae</i>	1	3	12	1	-	1	-
タンポポ属	<i>Liguliflorae</i>	3	13	14	8	-	-	-
シダ植物								
ヒカゲノカズラ属	<i>Lycopodium</i>	2	-	2	3	-	-	-
ゼンマイ科	<i>Osmundaceae</i>	1	6	1	4	-	-	-
サンショウモ	<i>Salvinia natans</i>	3	1	-	18	-	-	-
單子葉類孢子	Monolete spore	13	18	49	18	12	28	5
三絆型胞子	Trilete spore	5	3	5	3	2	2	-
樹木花粉	ArboREAL pollen	214	207	114	206	9	11	0
草木花粉	Nonarboreal pollen	567	1033	381	569	21	19	0
シダ植物孢子	Spores	24	28	57	46	14	30	5
花粉・胞子混生	Total Pollen & Spores	805	1268	552	821	44	60	5
不明花粉	Unknown pollen	18	28	24	3	8	6	0



第14図 寺家廃寺跡SD01の主要花粉化石分布図



1 : マツ属複管束型
PCLSS 4705 試料 2
2 : コナラ属コナラ亜属
PCLSS 4706 試料 2
3 : ニレ属 - ケヤキ属
PCLSS 4707 試料 4

4 : イネ科
PCLSS 4704 試料 2
5 : アブラナ科
PCLSS 4703 試料 2
6 : ソバ属
PCLSS 4708 試料 4

第15図 寺家庵寺跡の花粉化石

3 寺家廃寺跡のプラント・オパール

(1)はじめに

富山県南砺市寺家に所在する寺家廃寺跡において行われた平成20年度の発掘調査で、奈良・平安時代（8世紀後半～9世紀前半）にかけての溝や平安・鎌倉時代（11世紀後半～12世紀前半）の大溝が確認され、奈良・平安時代の溝は農業に関する遺構と推測されている。以下には耕作土直下より採取された土壤試料について行ったプラント・オパール分析の結果を示し、寺家廃寺跡におけるイネ科植物について検討した。

(2) 試料と分析方法

分析用試料は、耕作面は確認されていないが耕作土直下と考えられる地山土3点（田畠1～3）とこの田畠の用排水路と推測されるSD03溝覆土1点の計4試料である。土相について、地山土3試料は褐灰色～黒褐色の粘土質砂、SD03覆土は黒褐色の砂質粘土である。プラント・オパール分析はこれら4試料について下記の方法にしたがって行った。

秤量した試料を乾燥後再び秤量する（絶対乾燥重量測定）。別に試料約1g（秤量）をトールビーカーにとり、約0.02gのガラスピース（直径約0.04mm）を加える。これに30%の過酸化水素水を約20～30cc加え、脱有機物処理を行う。処理後、水を加え、超音波ホモジナイザーによる試料の分散後、沈降法により0.01mm以下の粒子を除去する。この残渣よりグリセリンを用いて適宜プレパラートを作製し、検証した。同定および計数は機動細胞珪酸体に由来する植物珪酸体についてガラスピースが300個に達するまで行った。

(3) 分析結果

同定・計数された各植物のプラント・オパール個数とガラスピース個数の比率から試料1g当たりの各プラント・オパール個数を求め（表4）、それらの分布を第16図に示した。以下に示す各分類群のプラント・オパール個数は試料1g当たりの検出個数である。

検証の結果、全試料よりイネのプラント・オパールが検出され、個数的にはSD03のみ10,000個以上と多く観察され、田畠1も5,000個を越えているが、他の2試料は2,000個強であった。また穎（穂殻）の部分に形成される珪酸体の破片がSD03から得られている。

イネ以外ではクマザサ属型が最も多く検出されているが、多くてSD03の7,400個で、10,000個を越える試料はない。キビ族も全試料で観察されたが、個数的には2,000個前後と少ない。その他、ネザサ節型やウシクサ族が若干得られている。

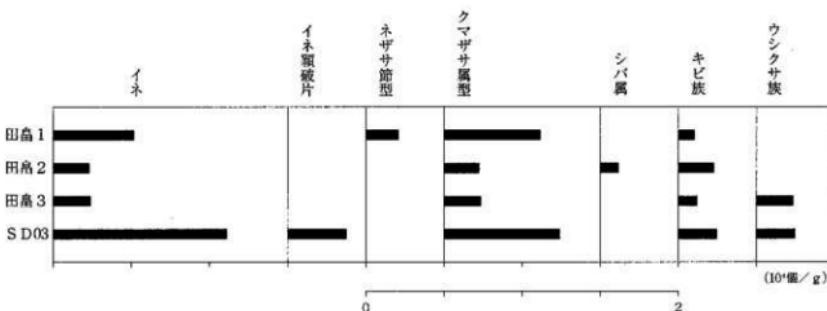
(4) イネについて

上記したように、全試料からイネのプラント・オパールが検出された。ここで検出個数について示すと、イネのプラント・オパールが試料1g当たり5,000個以上検出された地点から推定された水田址の分布範囲と、実際の発掘調査とよく対応する結果が得られている（藤原、1984）。こうしたことから、稲作の検証としてこの5,000個を目安に、プラント・オパールの産出状態や遺構の状況をふまえて判断されている。上記したように寺家廃寺跡では田畠1とSD03の2試料においてこの5,000個を越えるイネのプラント・オパールが検出されており、これら2地点において検出個数のみからは稲作が行われていた可能性は高いと判断される。しかしながらSD03試料は溝の覆土であることから溝内の稲作は考えられず、イネのプラント・オパールは溝周辺の稲作地からの流れ込んだことが推測されよう。

また水田1は地山土であることから上位の水田層より混入したことが考えられ、他の2試料においても同様のこと

第4表 試料1 gあたりのプラント・オバール個数

試料番号	イネ (個/g)	イネ類破片 (個/g)	ネザサ節型 (個/g)	クマザサ属型 (個/g)	シバ属 (個/g)	キビ族 (個/g)	ウシクサ族 (個/g)	不明 (個/g)
田島1	5.100	0	2,000	6,100	0	1,000	0	0
田島2	2,200	0	0	2,200	1,100	2,200	0	1,100
田島3	2,300	0	1,200	2,300	0	1,200	2,300	0
S D03	11,000	3,700	0	7,400	0	2,500	2,500	3,700



第16図 プラント・オバール分布図

が推測されよう。一方で時期は不明であるが地山層堆積期においても稻作が行われていた可能性が考えられ、これについて遺構・遺物の有無等、発掘状況など総合的に判断されることが望まれる。

(5) 遺跡周辺のイネ科植物

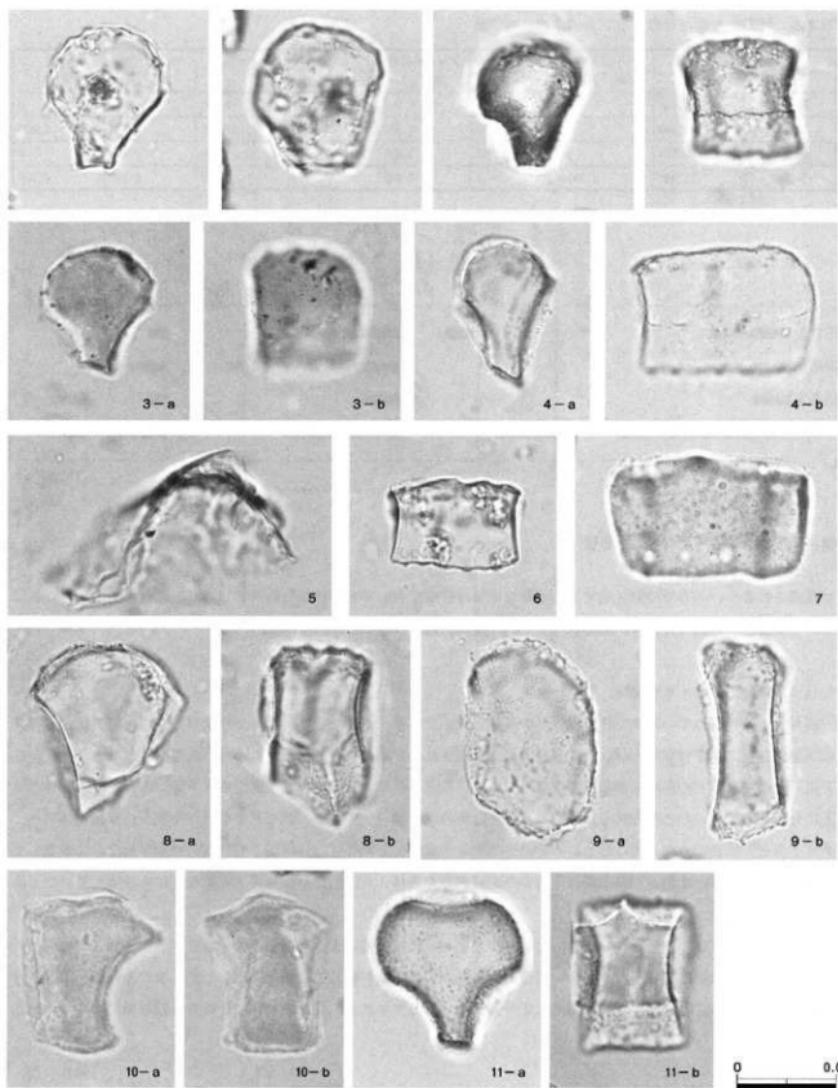
最も多く検出されているクマザサ属型のササ類（チシマザサ、チマキザサ、ミヤコザサなど）については主に森林の下草的存在での生育が考えられる。SD01より採取された試料について花粉分析が行われており、コナラ亜属やニレ属・ケヤキ属などの落葉広葉樹林が成立していたと推測されている。クマザサ属型のササ類はこういった森林の林下に分布を広げていたとみられる。一方、ネザサ節型のササ類（ケネザサ、ゴキダケなど）やウシクサ族（スキ、チガヤなど）は日のあたる開けたところでの生育が考えられ、上記森林の林縁部や遺跡周辺の空き地などに分布していたと推測される。またシバ属も同様の所での生育が考えられ、上記した稻作地周辺の畦などにも分布していたと思われる。

キビ族についてはその形態からアワ、ヒエ、キビといった栽培種によるものか、エノコログサ、スズメノヒエ、イヌビエなどの雑草類によるものかについて現時点においては分類が難しく不明である。しかしながら同試料よりイネが検出されていることから、水田雑草として普通にみられるタイヌビエなどの稻作にともなう雑草類ではないかと思われる。

（鈴木 茂）

参考文献

藤原宏志（1984）プラント・オバール分析法とその応用－先史時代の水田址探査－、考古学ジャーナル、227、2-7。



1～4：イネ（a：断面、b：側面）
 〔1：田畠1、2：田畠2、3：田畠3、4：SD03〕
 5：イネ頸部破片〔SD03〕
 6・7：キビ族（側面）〔6：田畠1、7：田畠3〕

8：ネザサ節型（a：断面、b：側面）〔田畠1〕
 9：クマザサ属型（a：断面、b：側面）〔SD03〕
 10：ウシクサ族（a：断面、b：側面）〔田畠3〕
 11：シバ属（断面）〔田畠2〕

第17図 寺家廃寺跡のプラント・オパール

Vまとめ

寺家廃寺跡2地区

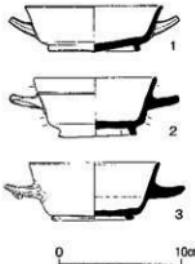
- ・今回調査した2地区は、8世紀後半から9世紀にかけての溝6条（S D01～05・07・08）とそれに囲まれる田畠3基・ピット2基、12世紀後半～13世紀にかけての大溝（S D01）と区画溝（S D06）をそれぞれ検出した。
- ・大溝（S D01）は平成19年度に調査した1地区的続きである。S D01の下層からは8世紀後半～9世紀にかけての土師器・須恵器が出土しており、8世紀後半以降の遺構であることが判明した。
- ・田畠1～3の地表面直下とS D03からは、イネのプラント・オバールを検出した。このことから、田畠である可能性が高くなった。本調査区は狭いため、今後周辺の調査から遺構の性格を判断する必要がある。

院林遺跡4地区

- ・今回調査した4地区は、8世紀後半～9世紀の槽1条（S A01）・掘立柱建物3棟（S B03～05）・井戸1基（S E02）・溝6条（S D01・02・05・13・16・22）・土坑（SK23・77）・柱穴、12世紀後半～13世紀の溝3条（S D07・14・15）、17世紀後半～18世紀の掘立柱建物2棟（S B01・02）、井戸1基（S E01）、土坑、柱穴を検出した。
- ・S B03～05は方形の柱穴をもつ掘立柱建物で8世紀後半から9世紀前半の建物である。S B05はS B04に柱穴が切られていることから、S B05からS B04へ建て替えられたものと推測できる。また、S B05よりS B04の方が桁行の間隔が長く、S B03はS B04と桁行の長さが共通していることから、S B03とS B04が同時期に存在したと推定できる。建物方位は南東～北西方向が軸である。
- ・S D05・16からは8世紀後半から9世紀にかけての遺物がまとめて出土した。これらの遺物の中に、双耳杯・灰釉陶器・円面鏡がある。双耳杯は東海地方の影響を受けた器種とされ（西井1990）、富山県では砺波市福山1号窯、高岡市東木津遺跡で出土している。灰釉陶器は器種は碗・盃があり、いずれも黒磁90号窯式のものである。円面鏡は2点出土しており、小型のものである。転用鏡は出土しなかった。
- ・S A01はS B04・05の柱穴を切っていることから、9世紀以降に設置された槽である。S A01の南側にはS E02があり、輪をそろえていることから同時期のものと推定できる。S A01を撤去した後、S D14・15が同一箇所に掘削される。このS D14・15からは10世紀前半の土師器皿が出土していることから、これ以後に槽から区画溝へ変化したと推定できる。当遺跡では12世紀後半～13世紀に大規模な区画溝が構築されるため、S D14・15が区画溝としての時期はこの時期になる可能性が高い。
- ・S B01は、17世紀後半から18世紀にかけての掘立柱建物で、ヒロマ型の間取りの建物と推定できる。

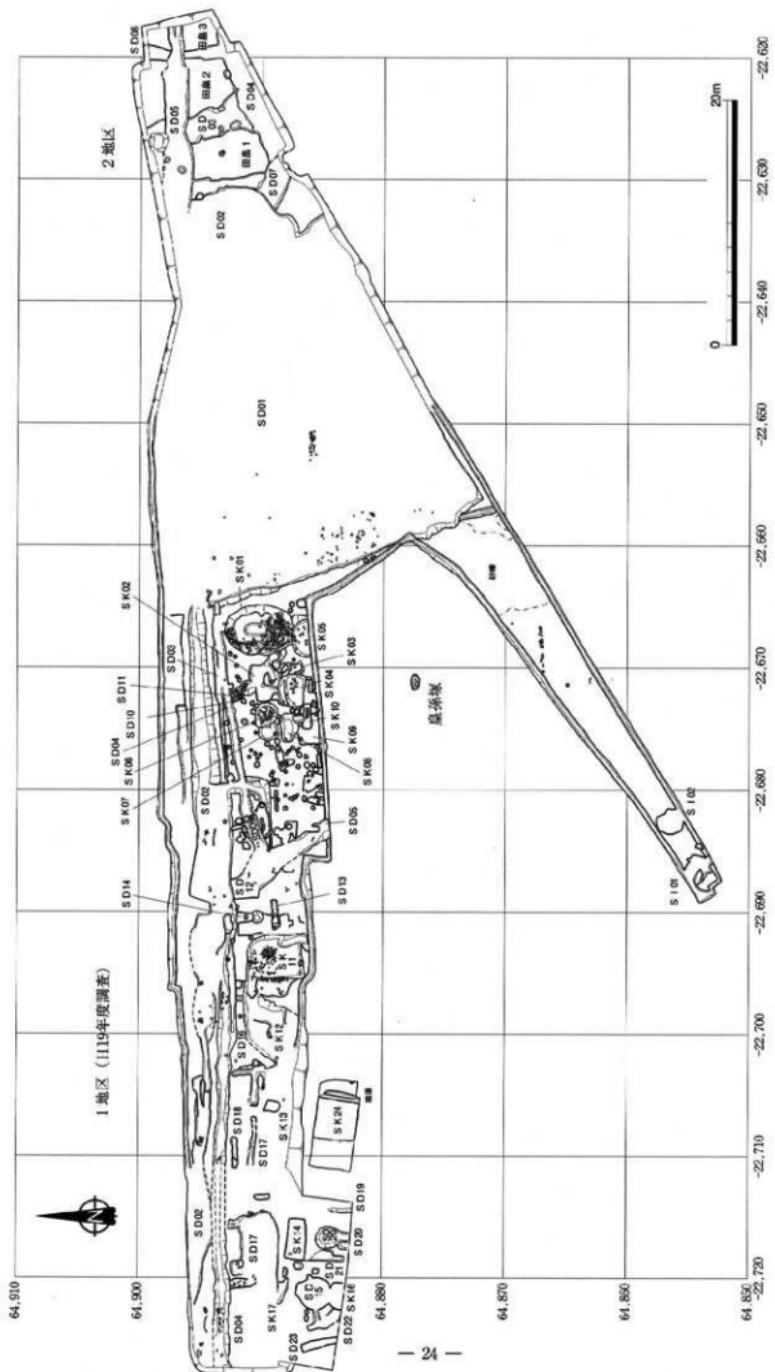
総括

寺家廃寺跡と院林遺跡を平成18年より調査した結果、12世紀後半から13世紀にかけての区画溝が計画的に掘削されていることが判明した。第20図は、旧地割りおよび小字と発掘調査で判明した当該期の遺構を合せた図面である。この遺構群に1町（1辺106m）の方画地割をあわせると、区画溝がほぼ合致する。また、地頭屋敷（鶴原屋敷）とされる常願寺はこの1町分の区画を有し、寺家廃寺跡から常願寺へのびる東西の区画の両側に政所・公文所の小字がある。この東西区画から、北へ旅川が区画に沿って直線的に延びることも注目できる。1171年以前に院林郷が円宗寺領（創建1070年）になったとされ（長島他1964）、方画地割が成立する時期とほぼ重なる。莊所の位置など今後の課題はあるが、中世前期の莊園遺跡として良好な遺跡となるであろう。（岡田一広）

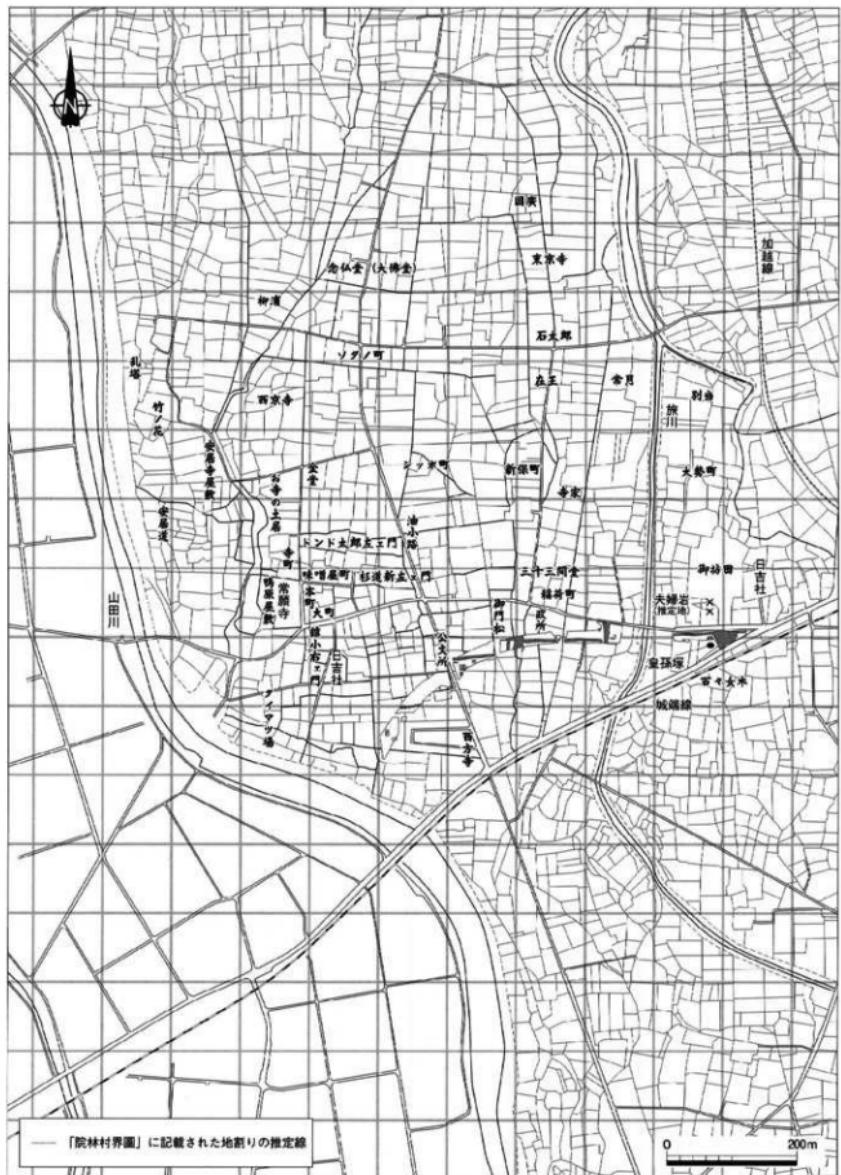


第18図 富山県下の双耳杯

(S=1:4)



第19圖 寺家庵寺跡遺構全體圖 (S=1:400)



第20図 寺家廃寺跡・院林遺跡の12世紀後半～13世紀の遺構と方画地割想定図（S=1:7,500）

参考文献

- 青山 晃加 1999 「越中における須恵器貯蔵具の様相」『北陸古代土器研究 第8号』 北陸古代土器研究会
浅川滋男 2001 「埋もれた中世の住まい」 同成社
井口 清志 1924 「院林神社考」『広塚村誌』 広塚尋常高等学校
池野正男 1986 「石名山廻跡発掘調査報告」 大門町教育委員会
池野 正男 1997 「越中における9世紀代の土器様相」『北陸古代土器研究 第6号』 北陸古代土器研究会
池野正男 2000 「開墾大泥遺跡・地崎遺跡発掘調査報告」 富山県文化振興財团埋蔵文化財調査事務所
伊藤雅和 2007 「院林遺跡I」 南砺市教育委員会
上野 章也 1991 「小杉流通業務団地内遺跡群 第6次緊急発掘調査概要」 富山県教育委員会
上野 章也 1991 「上野南遺跡群発掘調査報告」 小杉町教育委員会
内田重紀子 1997 「越中における古代土器の編年予察」『埋蔵文化財調査概要 -平成8年度-』
富山県文化振興財团埋蔵文化財調査事務所
内田重紀子 1999 「富山県の古代施釉陶器」『富山考古学研究 第2号』 富山県文化振興財团埋蔵文化財調査事務所
内田重紀子 2000 「越中婦負郡の古代土師器煮炊具 -婦中町中名I・V・VI遺跡の堅穴住居資料を中心に-」
「富山考古学研究 第3号」 富山県文化振興財团埋蔵文化財調査事務所
宇野 隆夫 1989 「考古資料に見る古代と中世の歴史と社会」 真陽社
宇野隆夫 1994 「珠洲寺跡カバタケ窯」 珠洲市教育委員会・富山大学考古学研究室
宇野 隆夫 1996 「古代莊園園研究と考古学」『日本古代莊園』 東京大学出版社
宇野 隆夫 2001 「莊園の考古学」 青木書店
岡田一広 2007 「矢張下島遺跡調査報告」 南砺市教育委員会
片田並紀雄 2001 「在房遺跡I」 福光町教育委員会
斎藤 隆吉 1991 「南中田D遺跡発掘調査報告書」 富山県埋蔵文化財センター
斎藤 孝正 2000 「越州窯青磁と緑釉・灰釉陶器」『日本の美術』No.409 至文堂
佐藤聖子 2007 「宗守遺跡I・久戸遺跡I・梅原胡摩堂遺跡I・神成遺跡IV」 南砺市教育委員会
佐藤聖子 2008 「院林遺跡II・寺家魔寺跡II」 南砺市教育委員会
沢村 仁也 1970 「富山県の民家」 富山県教育委員会
特保孝造 1997 「任海宮田遺跡発掘調査報告書II」 富山県埋蔵文化財センター
武田健次郎 2007 「任海宮田遺跡発掘調査報告II」 富山県文化振興財团埋蔵文化財調査事務所
長島勝正 1964 「福野町史」 福野町役場
中村雅治 1980 「富山県の民家」 富山県民家緊急調査報告書 富山県教育委員会
樋崎 彰一 1958 「愛知県旗投山西南龍古窯址群」 愛知県教育委員会
樋崎 彰一 1959 「愛知県旗投山西南龍古窯址群」 愛知県教育委員会
樋崎 彰一 1982 「日本古代の陶器 とくに分類について」『考古学論考 小林行雄博士古稀記念論文集』 平凡社
西川 浩美 1986 「土器様式の成立とその背景」 西弘海遺稿集刊行会
西井 龍儀 1990 「福山窯跡」『砺波市史 資料編 I 古代・中世』 砺波市
林 喜太郎 1931 「石黒莊内圓宗寺の變遷につきて」『富山縣史蹟名勝天然記念物調査報告 第拾壹號』 富山縣
林 喜太郎 1932 「石黒莊内圓宗寺領の史蹟につきて」『富山縣史蹟名勝天然記念物調査報告 第拾貳號』 富山縣
林 浩明 1989 「寺家新星敷館跡II」 福野町教育委員会
林 浩明 1997 「福野町埋蔵文化財分部調査報告書II 平成8年度」 福野町教育委員会
北陸中世考古学研究会 2004 「掘立柱建物から礎石建物へ」
森 隆 2006 「富山県における古代末・中世の回転台土器（資料編）」『富山考古学研究 第9号』
富山県文化振興財团埋蔵文化財調査事務所
山口辰一 2001 「石塚遺跡・東木津遺跡調査報告」 高岡市教育委員会
山本正敏 1996 「梅原胡摩遺跡発掘調査報告（追付編）」 富山県文化振興財团埋蔵文化財調査事務所
山本正敏 1996 「梅原加賀坊遺跡・久戸遺跡・梅原安九遺跡・田尻遺跡発掘調査報告」
富山県文化振興財团埋蔵文化財調査事務所
横田賢次郎 1978 「太宰府出土の輸入中国陶磁器について」『九州歴史資料館研究論集4』 九州歴史資料館普及会
吉岡 康暢 1994 「中世須恵器の研究」 吉川弘文館

第5表 寺家磨寺跡2地区、土器類計測表

No	造形	種類	器種	法量(cm)			胎 土			釉調	焼成	口縁部残存率 () 底部残存率
				口径	器高	底径	色調	密度				
1	S D01	土師器	椀	15.1	6.1	5.6	灰黃褐色	密		良	0.7/12	
2	S D01	土師器	椀	14.2	4.7	6.4	灰黃褐色	密		良	3.0/12	
3	S D01	土師器	椀	17.6	(3.2)		黃橙色	密		良	1.5/12	
4	S D01	土師器	甕	19.2	(8.4)		黃橙色	密		良	1.1/12	
5	S D01	土師器	甕	17.3	(5.8)		黃褐色	密		良	0.5/12	
6	S D01	須恵器	杯A	11.8	(2.7)	8.5	青灰色	密		やや良	1.7/12	
7	S D01	須恵器	杯A	11.6	2.9	8.4	青灰色	密		やや良	0.6/12	
8	S D01	須恵器	杯A	11.3	3.4	8.0	青灰色	密		やや良	2.3/12	
9	S D01	須恵器	杯A	11.2	3.4	6.6	青灰色	密		やや良	4.0/12	
10	S D01	須恵器	杯A	10.8	4.0	7.2	青灰色	密		良	1.8/12	
11	S D01	須恵器	杯A	11.2	2.6	6.1	青灰色	密		良	0.8/12	
12	S D01	須恵器	杯A		(2.4)	7.7	青灰色	密		やや良	(5.5)/12	
13	S D01	須恵器	杯B	11.2	3.9	6.4	青灰色	密		良	0.1/12	
14	S D01	須恵器	杯B	11.0	3.6	5.8	青灰色	密		良	0.5/12	
15	S D01	須恵器	杯B			1.9	青灰色	密		良	(2.1)/12	
16	S D01	須恵器	杯B		(4.5)	6.8	青灰色	密		良		
17	S D01	須恵器	杯	11.9	(3.3)		青灰色	密		良	1.6/12	
18	S D01	須恵器	杯	11.8	(3.0)		青灰色	密		良	1.0/12	
19	S D01	須恵器	杯蓋	15.5	(2.5)		青灰色	密		良	1.2/12	
20	S D01	須恵器	杯蓋	13.6	(1.4)		青灰色	密		良	1.5/12	
21	S D01	須恵器	杯蓋	11.4	(1.6)		青灰色	密		良	4.0/12	
22	S D01	須恵器	杯蓋		(3.2)		青灰色	密		やや良		
23	S D01	須恵器	杯蓋		(2.0)		青灰色	密		良		
24	S D01	須恵器	杯蓋		(2.2)		青灰色	密		良		
25	S D01	須恵器	直口壺	10.7	(11.4)		青灰色	密		良	1.0/12	
26	S D02	須恵器	杯A		(2.6)	7.7	青灰色	密		良	(8.0)/12	
27	S D02	須恵器	杯B		(2.1)	6.2	青灰色	密		良	(12.0)/12	
28	S D02	須恵器	杯B		(1.2)	5.6	青灰色	密		良	(6.0)/12	
29	S D02	須恵器	杯B		(1.8)	5.6	青灰色	密		良	(6.9)/12	
30	S D02	須恵器	杯	11.8	(3.3)		青灰色	密		良	1.0/12	
31	S D02	須恵器	杯蓋	11.6	(1.5)		青灰色	密		良	2.2/12	
32	S D02	須恵器	杯蓋		(2.0)		青灰色	密		良		
33	S D03	土師器	甕	22.6	(7.0)		黃橙色	密		良	0.2/12	
34	S D03	土師器	甕		(13.6)		黃橙色	密		良		
35	S D03	土師器	甕		(2.9)	5.8	黃橙色	密		良	(12.0)/12	
36	S D03	須恵器	杯A	11.2	3.4	7.9	青灰色	密		良	12.0/12	
37	S D03	須恵器	杯B		(4.1)	7.0	青灰色	密		良	(2.2)/12	
38	S D03	須恵器	杯B		(1.5)	6.2	青灰色	密		良	(12.0)/12	
39	S D03	須恵器	杯蓋	11.2	2.8		青灰色	密		良	1.8/12	
40	S D03	須恵器	杯蓋	12.4	1.5		青灰色	密		良	2.0/12	
41	S D03	須恵器	鉢形壺	13.1	(3.9)		青灰色	密		良	1.0/12	
42	S D04	土師器	椀	35.4	11.2		黃橙色	密		やや良	2.0/12	
43	S D04	土師器	椀	13.4	(3.3)		黃橙色	密		良	1.6/12	
44	S D04	須恵器	杯A	11.2	3.0	7.2	青灰色	密		良	6.1/12	
45	S D04	須恵器	杯A	11.8	3.5	7.0	青灰色	密		良	3.2/12	
46	S D04	須恵器	杯B		(3.8)	6.0	青灰色	密		良	(4.5)/12	
47	S D04	須恵器	杯蓋	17.5	(2.0)		青灰色	密		良	1.4/12	
48	S D04	須恵器	杯蓋	11.8	(1.8)		青灰色	密		良	2.5/12	
49	S D04	須恵器	甕		(8.0)		青灰色	密		良		
50	S D05	土師器	椀	12.8	4.4	5.0	黃橙色	密		良	1.1/12	

No	遺構	種類	器種	法量(cm)			胎土		釉調	焼成	口縁部残存率 〔 〕底部残存率
				口径	器高	底径	色調	密度			
51	S D05	土師器	壺	18.0	(3.0)		黄橙色	密		良	0.6 / 12
52	S D05	土師器	壺	17.2	(3.5)		黄橙色	密		良	0.7 / 12
53	S D05	土師器	壺		(8.2)		黄橙色	密		良	
54	S D05	土師器	壺		(6.1)		黄橙色	密		良	
55	S D05	須恵器	杯	12.2	(2.4)		青灰色	密		良	1.1 / 12
56	S D05	須恵器	杯A	12.0	2.9	8.4	青灰色	密		良	0.7 / 12
57	S D05	須恵器	杯A	11.7	3.7	7.9	青灰色	密		やや良	0.5 / 12
58	S D05	須恵器	杯A	11.3	3.3	7.9	青灰色	密		やや良	4.6 / 12
59	S D05	須恵器	杯A		(2.0)	6.6	青灰色	密		良	[2.8] / 12
60	S D05	須恵器	杯蓋	16.4	2.6		青灰色	密		良	6.0 / 12
61	S D05	土師器	壺		(10.4)		黄橙色	密		良	
62	S D05	土師器	壺		(6.9)		黄橙色	密		良	
63	S D05	須恵器	壺		(18.5)		青灰色	密		良	
64	S D06	須恵器	杯B		(2.1)	6.7	青灰色	密		良	[4.6] / 12
65	S D07	須恵器	杯A		(1.5)	8.0	青灰色	密		良	[2.1] / 12
66	S D07	須恵器	杯B		(2.4)	6.2	青灰色	密		良	[4.0] / 12
67	S D07	須恵器	杯	11.8	3.6		青灰色	密		良	1.4 / 12
68	S D07	須恵器	杯蓋	12.0	(1.6)		青灰色	密		良	0.6 / 12
69	S D07	須恵器	杯蓋	12.4	(2.1)		青灰色	密		良	0.1 / 12
70	S D08	土師器	壺	11.1	(3.7)		灰黃褐色	密		良	2.2 / 12
71	田畠 1	須恵器	杯蓋	11.2	(2.3)		青灰色	密		良	2.2 / 12
72	田畠 2	土師器	壺	17.6	(4.8)		黄橙色	密		やや良	0.8 / 12
73	田畠 3	須恵器	杯蓋	12.2	(2.1)		青灰色	密		良	2.1 / 12
74	S P01	土師器	壺	12.0	(3.4)		黄橙色	密		良	0.8 / 12
75	S P02	土師器	壺	11.5	(4.7)		黄橙色	密		良	0.2 / 12
76	表土	須恵器	杯A	12.8	2.9	8.5	青灰色	密		良	0.3 / 12
77	X12, Y10	土師器	壺		(5.3)		黄橙色	密		良	

第6表 院林遺跡4地区、土器類計測表

No.	遺構	種類	器種	法量(cm)			胎土		釉調	焼成	口縁部残存率 〔〕底部残存率
				口径	器高	底径	色調	密度			
1	SA01 P 8	土師器	椀	13.8	(3.1)		黄橙色	密		やや良	1.2/12
2	SA01 P 6	土師器	椀		(2.4)	6.3	黄橙色	密		良	[6.0]/12
3	SA01 P 5	土師器	椀		(2.2)	6.4	黄橙色	密		良	[3.5]/12
4	SA01 P 3	土師器	椀		(1.2)	5.8	黄橙色	密		良	[12.0]/12
5	SA01 P 5	土師器	椀		(1.5)	4.6	黄橙色	密		良	[12.0]/12
6	SA01 P 5	須恵器	双耳瓶		(9.2)		青灰色	密		良	
7	SA01 P 9	須恵器	甕		(5.3)		青灰色	密		良	
8	SA01 P 4	須恵器	甕		(8.3)		青灰色	密		良	
9	SA01 P 7	須恵器	甕		(10.1)		青灰色	密		良	
10	SA01 P 9	須恵器	甕		(7.0)		青灰色	密		良	
11	SA01 P 8	須恵器	甕		(10.0)		青灰色	密		良	
12	SB01 P 4	土師器	椀	14.8	(4.3)		黄橙色	密		良	2.5/12
13	SB01 P 13	土師器	椀		(0.9)	4.9	黄橙色	密		良	[11.0]/12
14	SB01 P 13	土師器	甕	25.2	(3.7)		黄橙色	密		良	1.5/12
15	SB01 P 13	須恵器	杯	13.9	(3.7)		青灰色	密		良	0.9/12
16	SB01 P 13	須恵器	杯B	10.8	(3.5)		青灰色	密		良	1.3/12
17	SB01 P 8	須恵器	杯A	10.8	3.3	6.8	浅黄綠色	密		良	1.1/12
18	SB01 P 13	須恵器	杯B	14.8	6.1	6.4	青灰色	密		良	3.8/12
19	SB01 P 13	須恵器	杯蓋	15.9	(1.1)		青灰色	密		良	2.5/12
20	SB02 P 3	土師器	甕		(2.7)	6.5	黄橙色	密		良	[6.1]/12
21	SE01	土師器	皿	14.7	(3.8)		黄橙色	密		良	1.1/12
22	SE01	伊万里	椀	10.1	4.9	3.9	灰白色	密	灰白色	良	3.0/12
23	SE02	土師器	椀		(1.9)	6.3	黄橙色	密		良	[2.6]/12
24	SE02	土師器	椀		(1.4)	5.1	黄橙色	密		良	[12.0]/12
25	SK02	土師器	椀	13.8	(3.6)		黄橙色	密		良	1.0/12
26	SK02	土師器	皿	11.9	2.7	6.1	黄橙色	密		良	4.6/12
27	SK02	須恵器	杯A		(2.7)	9.1	黄橙色	密		不良	[12.0]/12
28	SK02	須恵器	杯A		(2.2)	7.4	青灰色	密		やや良	[5.5]/12
29	SK02	須恵器	杯蓋	18.6	(3.7)		青灰色	密		良	1.0/12
30	SK02	須恵器	杯蓋	11.7	(1.2)		青灰色	密		良	1.3/12

No	遺構	種類	器種	法量(cm)			胎土		釉調	焼成	口縁部残存率 (%) 底部残存率
				口径	器高	底径	色調	密度			
31	SK02	須恵器	杯蓋	12.6	(2.2)		青灰色	密		良	1.8 / 12
32	SK02	須恵器	蓋	27.7	(4.6)		青灰色	密		良	1.1 / 12
33	SK02	須恵器	瓶頸		(4.6)	8.8	青灰色	密		良	[2.8] / 12
34	SK04	須恵器	杯	10.8	(2.9)		青灰色	密		良	0.8 / 12
35	SK23	土師器	碗		(3.0)	5.9	黄橙色	密		良	[12.0] / 12
36	SK72	土師器	碗	13.8	(4.7)		黄橙色	密		良	2.2 / 12
37	SK72	土師器	碗		(1.5)	5.7	黄橙色	密		良	[12.0] / 12
38	SK72	土師器	碗		(1.6)	7.2	黄橙色	密		良	[3.2] / 12
39	SK72	土師器	碗		(1.1)	5.8	黄橙色	密		良	[8.9] / 12
40	SK72	須恵器	杯B		(1.4)	7.9	青灰色	密		良	[4.5] / 12
41	SK77	土師器	碗	12.9	4.0	5.7	黄橙色	密		良	9.0 / 12
42	SK77	土師器	碗	12.4	4.0	4.8	黄橙色	密		良	4.0 / 12
43	SK77	土師器	碗	14.8	(3.9)		黄橙色	密		良	2.6 / 12
44	SK77	土師器	碗	12.7	(3.1)		黄橙色	密		良	1.1 / 12
45	SK77	土師器	杯	12.2	(3.7)		黄橙色	やや密		良	2.6 / 12
46	SK77	土師器	皿		(1.7)	5.9	黄橙色	密		良	[5.5] / 12
47	SK77	須恵器	蓋		(5.4)		青灰色	密		良	
48	SK77	須恵器	甕		(8.1)		青灰色	密		良	
49	SD01	土師器	皿	8.8	2.2	3.6	黄橙色	密		良	3.1 / 12
50	SD01	須恵器	杯A		(1.3)	6.9	青灰色	密		良	[3.0] / 12
51	SD01	須恵器	杯B		(1.4)	7.8	青灰色	密		良	[2.8] / 12
52	SD02	須恵器	杯B	16.8	6.1	8.8	青灰色	密		良	1.5 / 12
53	SD04	土師器	甕		(2.4)	6.3	黄橙色	密		良	[11.9] / 12
54	SD04	須恵器	杯B	10.0	4.7	6.4	青灰色	密		良	2.0 / 12
55	SD04	須恵器	甕		(4.4)		青灰色	密		良	
56	SD04	青磁	碗	13.7	(3.8)		青灰色	密	緑灰色	良	0.5 / 12
57	SD04	珠洲	甕		(7.3)		青灰色	密		良	
58	SD04	八尾	甕		(9.5)		褐色	密		良	
59	SD05	土師器	碗	11.8	3.9	5.2	黄橙色	密		良	6.0 / 12
60	SD05	土師器	碗		(1.8)	5.8	黄橙色	密		良	[2.5] / 12
61	SD05	土師器	杯B		(3.7)	7.3	黄橙色	密		良	[12.0] / 12
62	SD05	土師器	碗		(2.1)	8.4	浅黄橙色	密		良	[1.3] / 12
63	SD05	土師器	碗	7.9	(2.4)		黄橙色	密		良	[4.0] / 12
64	SD05	土師器	甕	19.5	(19.4)		黄橙色	密		良	3.0 / 12
65	SD05	土師器	甕	13.4	(1.8)		黄橙色	密		良	1.4 / 12
66	SD05	土師器	甕		(3.1)	5.4	黄橙色	密		良	[12.0] / 12
67	SD05	土師器	甕	39.1	(3.7)		浅黄橙色	密		良	0.5 / 12
68	SD05	土師器	鍋	31.8	(7.5)		黄橙色	密		良	2.5 / 12
69	SD05	土師器	甕	19.5	(4.1)		黄橙色	密		良	1.0 / 12
70	SD05	須恵器	杯A	12.2	3.4	8.6	青灰色	密		良	4.6 / 12
71	SD05	須恵器	杯A	12.0	3.2	7.4	青灰色	密		良	0.9 / 12
72	SD05	須恵器	杯A	11.8	3.6	9.1	青灰色	密		良	3.5 / 12
73	SD05	須恵器	杯A	11.6	3.2	8.4	青灰色	密		良	5.2 / 12
74	SD05	須恵器	杯A	11.2	3.1	8.3	青灰色	密		良	5.9 / 12
75	SD05	須恵器	杯A	10.8	3.0	7.1	青灰色	密		良	3.0 / 12
76	SD05	須恵器	杯B	16.1	(5.4)		青灰色	密		良	0.7 / 12
77	SD05	須恵器	杯B	15.8	7.5	8.1	青灰色	密		やや良	6.5 / 12
78	SD05	須恵器	杯B	14.2	7.0	8.5	青灰色	密		良	1.0 / 12
79	SD05	須恵器	杯B		(5.3)	9.8	青灰色	密		良	[3.6] / 12
80	SD05	須恵器	杯B	11.3	7.4	5.2	青灰色	密		良	10.5 / 12
81	SD05	須恵器	杯B	10.8	4.6	5.4	青灰色	密		良	2.0 / 12
82	SD05	須恵器	杯B	10.4	4.0	5.1	青灰色	密		良	1.6 / 12

No	造構	種類	器種	法量(cm)			胎土			釉調	焼成	口縁部残存率 ()底部残存率
				口径	器高	底径	色調	密度				
83	S D05	須恵器	杯B	9.5	4.2	5.4	青灰色	密			良	0.8/12
84	S D05	須恵器	杯B	9.4	4.2	5.2	青灰色	密			良	1.5/12
85	S D05	須恵器	双耳杯	10.5	4.8	5.7	青灰色	密			良	6.0/12
86	S D05	須恵器	杯蓋	15.4	3.6		青灰色	密			良	3.5/12
87	S D05	須恵器	杯蓋	14.6	3.5		青灰色	密			良	1.7/12
88	S D05	須恵器	杯蓋	12.3	3.6		青灰色	密			良	4.8/12
89	S D05	須恵器	杯蓋	12.2	2.3		青灰色	密			良	7.0/12
90	S D05	須恵器	杯蓋	11.7	3.0		青灰色	密			良	3.8/12
91	S D05	須恵器	杯蓋	11.5	2.4		青灰色	密			良	4.5/12
92	S D05	須恵器	杯蓋	11.0	2.5		青灰色	密			良	5.3/12
93	S D05	須恵器	杯蓋	11.1	2.6		青灰色	密			良	8.8/12
94	S D05	須恵器	杯蓋	10.6	2.5		青灰色	密			良	6.8/12
95	S D05	須恵器	杯蓋	14.6	(1.9)		青灰色	密			良	1.0/12
96	S D05	須恵器	杯蓋	12.3	(1.7)		青灰色	密			良	4.0/12
97	S D05	須恵器	杯蓋	11.1	(2.0)		青灰色	密			良	4.5/12
98	S D05	須恵器	杯蓋		(4.0)		青灰色	密			良	
99	S D05	須恵器	杯蓋		(1.8)		青灰色	密			良	
100	S D05	須恵器	瓶	13.1	(10.3)		青灰色	密			良	5.0/12
101	S D05	須恵器	双耳瓶		(5.1)		青灰色	密			良	
102	S D05	須恵器	瓶	27.0	(6.1)		青灰色	密			良	0.8/12
103	S D05	灰釉陶器	椀	14.7	(3.5)		青灰色	密	オリーブ灰色		良	1.4/12
104	S D05	灰釉陶器	壺		(5.9)		青灰色	密	緑灰色		良	
105	S D05	肥前	椀		2.2	4.7	青灰色	密	緑灰色		良	(9.0)/12
106	S D05	土製品	円皿硯	24.1	6.7		青灰色	密			良	6.2/12
109	S D06	土師器	椀	11.4	4.3	4.8	黄橙色	密			良	11.9/12
110	S D06	土師器	椀		(1.7)	5.3	黄橙色	密			良	(12.0)/12
111	S D06	須恵器	杯	11.8	(4.8)		青灰色	密			良	1.0/12
112	S D06	須恵器	杯蓋	11.7	(1.5)		青灰色	密			良	1.8/12
113	S D06	須恵器	瓶		(12.8)		青灰色	密			良	
114	S D07	土師器	皿	9.4	2.2	4.7	黄橙色	密			良	2.1/12
115	S D07	土師器	皿	8.7	1.1	6.6	黄橙色	密			良	0.9/12
116	S D07	土師器	椀		(1.3)	7.9	黄橙色	密			良	(3.5)/12
117	S D07	土師器	椀		(1.9)	6.8	黄橙色	密			良	(7.0)/12
118	S D07	須恵器	杯A	10.4	3.0	6.4	青灰色	密			良	4.0/12
119	S D07	須恵器	杯B	11.8	4.5	8.0	青灰色	密			良	1.2/12
120	S D07	須恵器	杯B		(4.7)	9.5	青灰色	密			良	(5.5)/12
121	S D07	須恵器	杯B		(3.1)	7.1	青灰色	密			良	(4.0)/12
122	S D07	須恵器	杯B		(3.3)	7.4	青灰色	密			良	(3.2)/12
123	S D07	須恵器	杯B		(4.3)	6.8	青灰色	密			良	(1.8)/12
124	S D07	須恵器	杯蓋	11.9	(1.6)		青灰色	密			良	1.5/12
125	S D07	須恵器	壺	18.6	(7.1)		青灰色	密			良	0.8/12
126	S D08	土師器	椀	13.8	(3.2)		黄橙色	密			良	0.9/12
127	S D08	須恵器	壺	19.2	(4.3)		黄橙色	密			不良	1.1/12
128	S D11	須恵器	甕	44.3	(2.4)		青灰色	密			良	0.1/12
129	S D11	須恵器	甕	21.8	(1.2)		青灰色	密			良	0.8/12
130	S D13	土師器	椀	11.8	3.5	6.0	黄橙色	密			良	1.1/12
131	S D13	土師器	杯A	11.8	(3.2)	9.1	黄橙色	密			良	1.2/12
132	S D13	須恵器	杯B	11.6	4.3	7.8	青灰色	密			良	6.7/12
133	S D14	土師器	皿	11.6	2.3	5.2	黄橙色	密			良	2.5/12
134	S D22	土師器	椀	13.3	(4.9)		黄橙色	密			良	1.0/12
135	S D16	土師器	鍋	35.1	(11.3)		浅黄橙色	密			やや良	1.0/12
136	S D16	土師器	椀		(1.8)	5.5	黄橙色	密			良	(12.0)/12

No	造構	種類	器種	法量(cm)			胎土		釉調	焼成	山縁部残存率 〔 〕底部残存率
				口径	器高	底径	色調	密度			
137	S D16	須恵器	杯A	12.1	3.4	9.0	青灰色	密		良	4.0/12
138	S D16	須恵器	杯A	12.0	3.2	7.4	青灰色	密		良	3.6/12
139	S D16	須恵器	杯A	12.0	3.5	7.4	青灰色	密		良	3.8/12
140	S D16	須恵器	杯A	11.6	3.5	8.6	青灰色	密		良	4.0/12
141	S D16	須恵器	杯A	11.0	3.2	7.9	青灰色	密		良	2.5/12
142	S D16	須恵器	杯B	15.0	6.0	8.9	青灰色	密		良	1.1/12
143	S D16	須恵器	杯B	(1.9)		5.0	青灰色	密		良	[12.0]/12
144	S D16	須恵器	甕		(10.0)		青灰色	密		良	
145	P 1	土師器	碗	11.8	(2.7)		黄褐色	密		良	1.0/12
146	擾乱	土師器	碗		(3.1)	6.5	黄褐色	密		良	[3.0]/12
147	擾乱	肥前	碗		(4.7)	4.7	青灰色	密	綠灰色	良	[4.0]/12
148	X25, Y26	鶴文土器	深鉢		(5.4)		褐色	やや粗		良	
149	X20, Y25	土師器	碗		(3.4)	8.1	黄褐色	密		良	[1.5]/12
150	X12, Y14	土師器	皿	12.5	1.8	5.9	灰白色	密		やや良	1.5/12
151	X20, Y25	土師器	高杯		(2.3)		浅黄褐色	密		良	
152	X28, Y26	須恵器	皿	9.1	2.0	4.3	黄褐色	密		良	9.2/12
153	X20, Y25	土師器	皿	9.7	1.5	8.8	黄褐色	密		良	2.6/12
154	X13, Y16	土師器	皿	8.7	1.3	7.3	黄褐色	密		良	1.5/12
155	X24, Y21	土師器	甕		(7.3)		黄褐色	密		良	
156	X20, Y27	土師器	鍋	39.3	(5.4)		黄褐色	密		良	0.4/12
157	X20, Y25	須恵器	杯A	12.1	3.9	8.1	青灰色	密		やや良	0.1/12
158	X20, Y25	須恵器	杯A	11.8	(3.2)	8.9	青灰色	密		良	2.2/12
159	表上	須恵器	杯A	11.1	3.5	8.3	青灰色	密		やや良	3.5/12
160	X21, Y24	須恵器	杯B	15.8	6.8	9.0	青灰色	密		良	1.8/12
161	X21, Y24	須恵器	杯B	14.7	6.1	7.4	青灰色	密		良	1.1/12
162	X19, Y19	須恵器	杯B	10.8	4.2	5.9	青灰色	密		良	1.5/12
163	X20, Y25	須恵器	杯B	10.1	4.2	5.8	青灰色	密		良	5.5/12
164	X19, Y19	須恵器	杯B		(2.5)	5.2	青灰色	密		良	[6.1]/12
165	X20, Y25	須恵器	蓋	19.1	3.3		青灰色	密		良	4.1/12
166	X20, Y25	須恵器	蓋	11.2	3.1		青灰色	密		良	0.1/12
167	X4, Y7	須恵器	長頸瓶		(4.8)	6.1	青灰色	密		良	[4.0]/12
168	X5, Y7	須恵器	瓶		(6.3)		青灰色	密		良	
169	X24, Y37	灰釉土器	皿		(2.5)	9.0	青灰色	密	オリーブ灰色	良	
170	表上	須恵器	甕		(3.2)		青灰色	密		良	0.1/12
171	X20, Y25	珠洲	甕		(3.5)		青灰色	密		良	0.1/12
172	X20, Y25	珠洲	擂鉢	37.0	(9.6)		青灰色	密			0.7/12
173	X6, Y7	肥前	灯明皿	8.5	2.5	4.4	黄褐色	やや密	灰白色	良	0.1/12
174	X19, Y21	土製品	円筒觀		(4.2)	15.5	青灰色	密		良	[3.0]/12

表7 院林遺跡4地区、鉄津・石製品計測表

No	造構	種類	器種	法量(cm)			備考		
				全長 (口径)	全幅 (器高)	全厚 (底径)			
107	S D05	鉄津	椀型盤	6.0	7.3	3.1	重量109g。磁気を帯びていない。		
108	S D05	鉄津	椀型盤	8.7	7.5	3.9	重量209g。磁気を帯びていない。		
175	X24, Y25	石製品	石鍋	6.1	3.4	1.4	滑石製。温石として再利用。石鍋の口径は31.0cm。		
176	X21, Y26	石製品	石鉢		(3.1)	12.3	緑色凝灰岩製。残存率0.5/12。		

遺構・遺物図版

図版凡例

〔造構〕



焼土

〔遺物〕



土師器断面



須恵器、珠洲、八尾断面



青磁断面



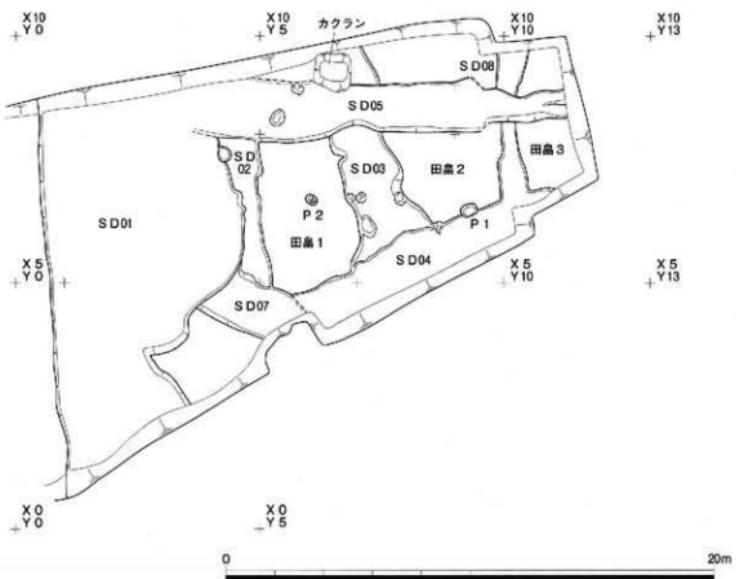
黒色処理部位



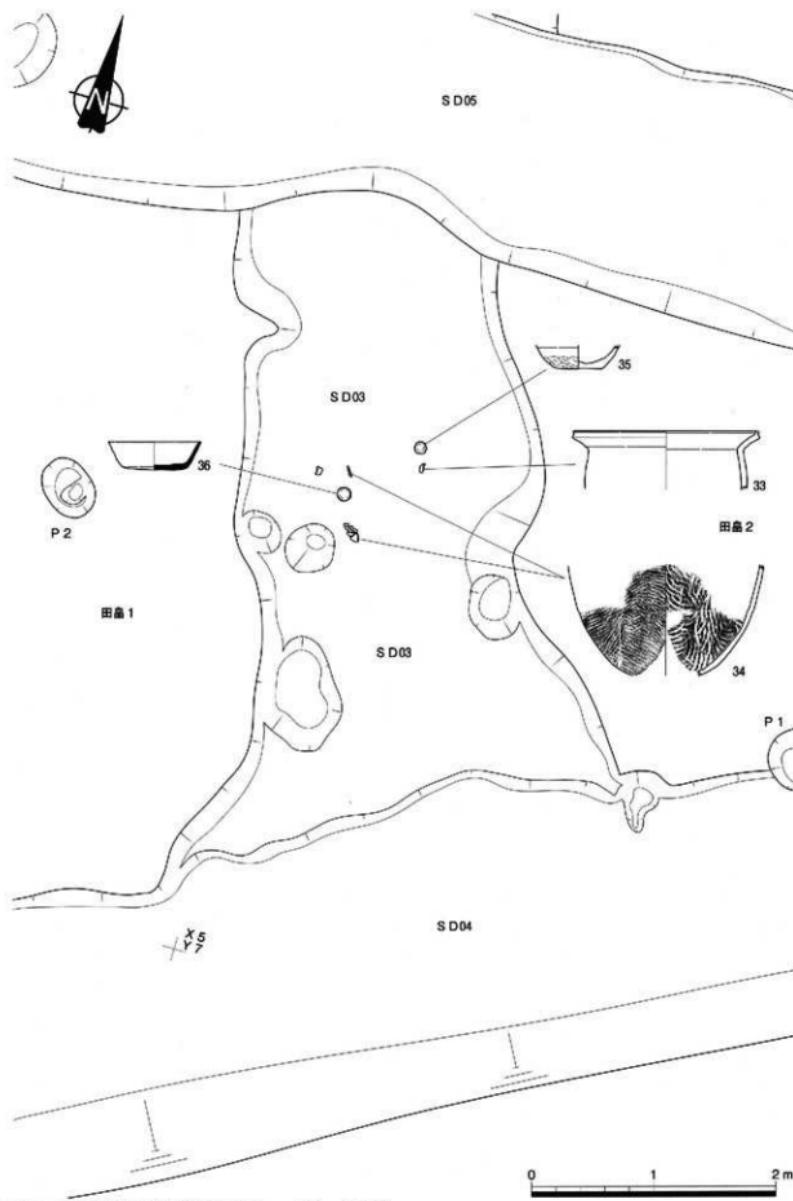
赤彩部位



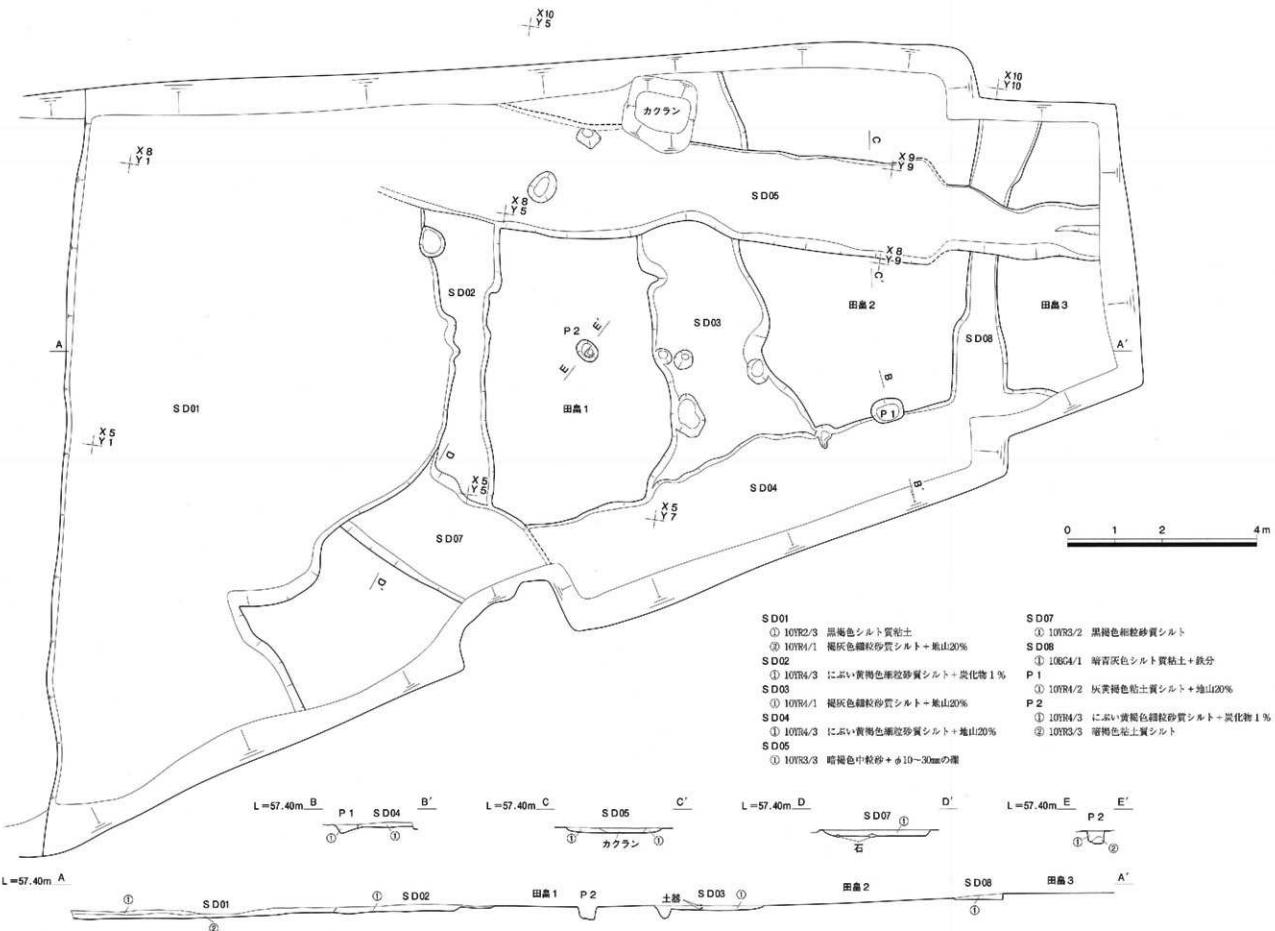
油煙付着部位



第21図 寺家庵寺跡2地区平面図 (S = 1 : 200)



第22図 寺家麻寺跡2地区の遺構 (1) (S = 1 : 40)

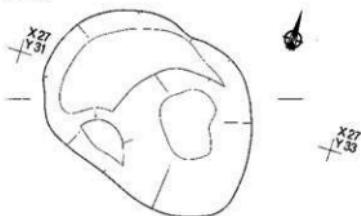


第23図 寺家廃寺跡2地区の造構（2）（S = 1 : 80）



第24図 駿林遺跡4地区平面図 (S = 1 : 200)

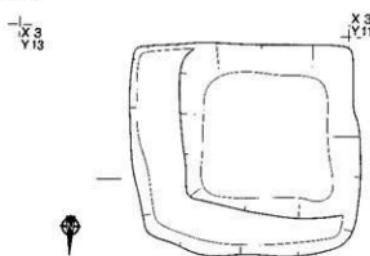
S E01



S E01

- ① 10T3/3 喙褐色細粒砂質シルト + 炭化物 2%
- ② 10T3/2 黒褐色粘土質シルト + ①40% + 炭化物 2%
- ③ 10T3/2 黑褐色粘土質シルト + 炭化物 2%
- ④ 10T3/3 喙褐色粘土質シルト + 炭化物 2%
- ⑤ 10E3/1 青灰色粘土質シルト + 炭化物 2%
- ⑥ 10G4/1 喙褐色細粒砂質シルト + 炭化物 2%
- ⑦ 10T2/2 黑褐色細粒砂質シルト + 炭化物 1%
- ⑧ 10T3/4 喙褐色細粒砂質シルト + 地山(20%) + 炭化物 2%
- ⑨ 10T3/3 喙褐色細粒砂質シルト + 地山(10%) + 炭化物 2%
- ⑩ 10T3/3 黑褐色細粒砂質シルト + 地山(10%)
- ⑪ 10E4/1 喙灰色粘土

S E02



S E02

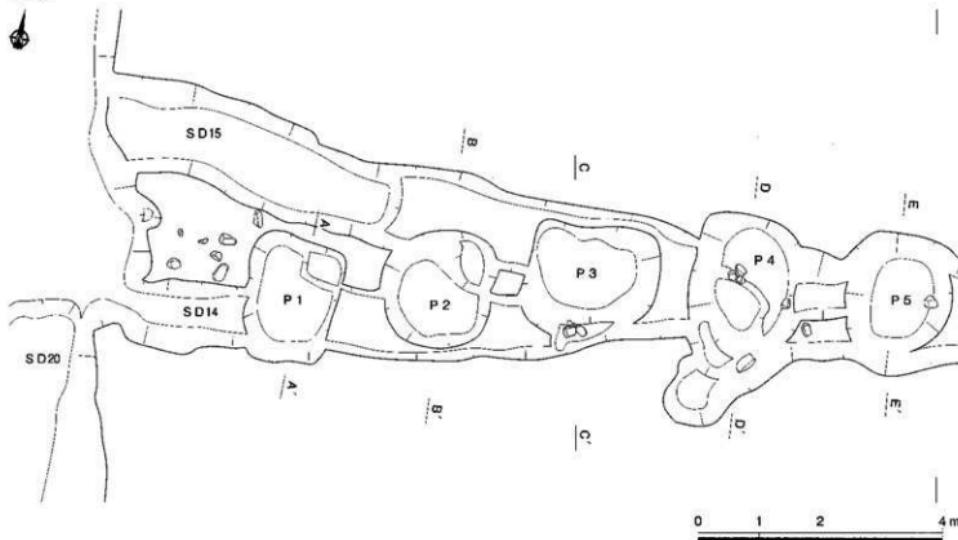
- ① 10T2/2 黑褐色細粒砂質シルト + 地山50%
- ② 10T4/1 暗灰色細粒砂質シルト + 地山(20%) + 鉄分
- ③ 10T4/1 暗灰色細粒砂質シルト + 地山40%
- ④ 10T4/4 暗褐色細粒砂質シルト + ③ 3% + ⑤ 10%
- ⑤ 10T4/2 黑褐色細粒砂質シルト
- ⑥ 10T4/4 暗褐色細粒砂質シルト

全て L=58.00m



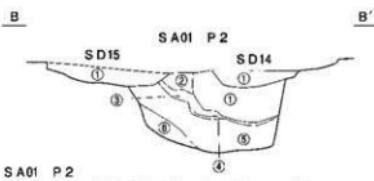
第25図 肥林遺跡4地区の遺構 (1) (S = 1 : 60)

SA01

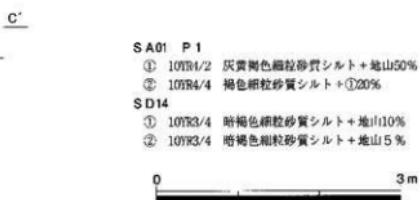
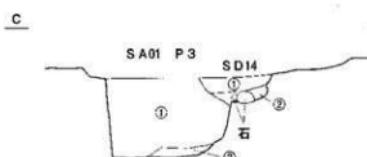


SA01 P1
① 10TR3/2 黒褐色細粒砂質シルト + 地山40%

A'

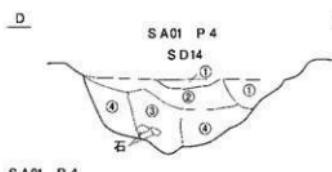
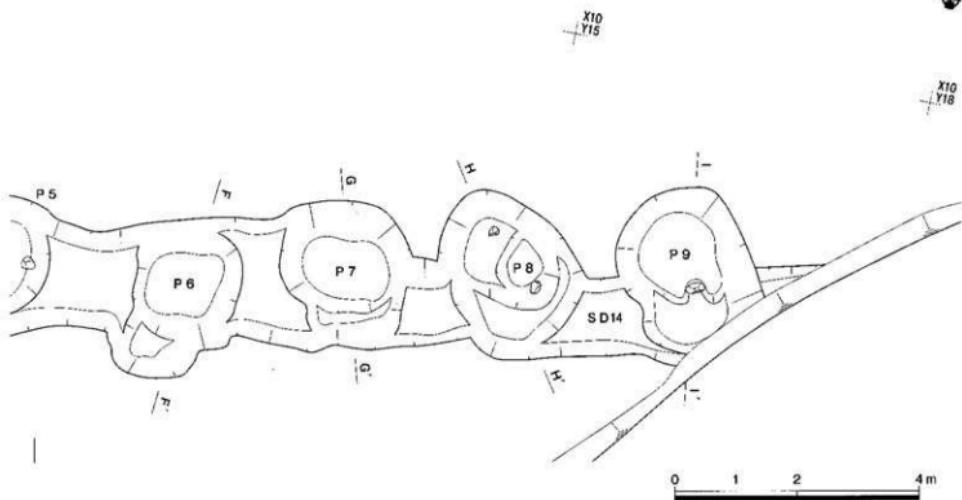


SA01 P2
① 10TR3/2 黒褐色細粒砂質シルト + 地山40% + 鉄分
② 10TR3/2 黒褐色細粒砂質シルト + 地山30%
③ 10TR3/2 黒褐色細粒砂質シルト + 地山50%
④ 10TR3/2 黑褐色細粒砂質シルト + 地山10%
⑤ 10TR4/4 黑褐色細粒砂質シルト + 地山12%
SD14
① 10TR3/4 暗褐色細粒砂質シルト + 地山10%
SD15
① 10TR3/4 暗褐色細粒砂質シルト + 地山10%



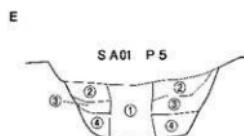
第26図 院林遺跡4地区の構造(2) (平面図 S = 1 : 80、断面図 S = 1 : 60)

SA01



- SA01 P 4**
- ① 10YR3/2 黒褐色細粒砂質シルト + 鉄分
 - ② 10YR3/2 黒褐色細粒砂質シルト + 地山20%
 - ③ 10YR3/3 黒褐色細粒砂質シルト + 地山15% + 鉄分
 - ④ 10YR3/3 黑褐色細粒砂質シルト + 地山50% + 鉄分

- S D14**
- ① 10YR3/4 黒褐色細粒砂質シルト + 地山10%



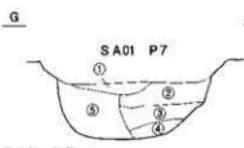
- SA01 P 5**
- ① 10YR3/2 黒褐色細粒砂質シルト - 地山20% + 鉄分
 - ② 10YR3/2 黒褐色細粒砂質シルト + 堆山10% + 鉄分
 - ③ 10YR3/2 黑褐色細粒砂質シルト + 地山40%
 - ④ 10YR3/2 黑褐色細粒砂質シルト + 地山50%

0 1 2 3 m



- SA01 P 6**
- ① 10YR3/1 黑褐色細粒砂質シルト + 地山25% + 鉄分
 - ② 10YR3/1 黑褐色細粒砂質シルト + 地山20% + 水化物1%
 - ③ 10YR3/1 黑褐色細粒砂質シルト + 地山30%
 - ④ 10YR6/2 灰褐色細粒砂質シルト + ③30%

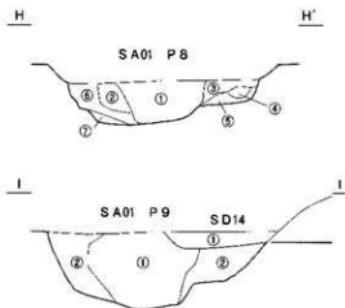
全て L = 50.00m



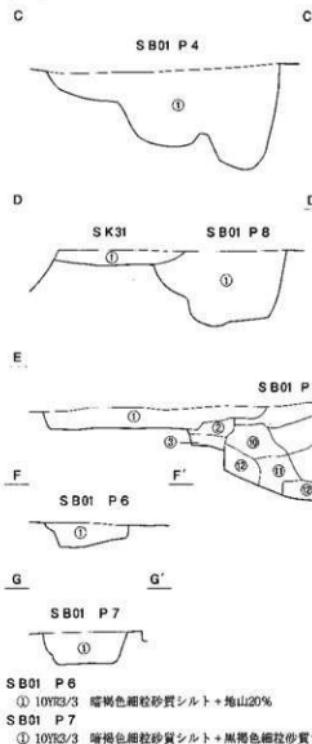
- SA01 P 7**
- ① 10YR3/2 黑褐色細粒砂質シルト + 地山20% + 鉄分
 - ② 10YR3/1 黑褐色細粒砂質シルト + 地山20%
 - ③ 10YR3/2 黑褐色細粒砂質シルト + 地山10%
 - ④ 10YR3/2 黑褐色細粒砂質シルト + 地山40%
 - ⑤ 10YR3/2 黑褐色細粒砂質シルト + 地山30%

第27図 院林遺跡4地区の造構(3) (平面図S=1:80、断面図S=1:60)

SA01



SB01



全て L = 58.00m

第28図 調査遺跡4地区の遺構 (4) (S=1:60)

SA01 P8

- (1) 10VR3/5 喀褐色細粒砂質シルト + 地山15%
- (2) 10VR3/1 黒褐色細粒砂質シルト + 地山10%
- (3) 10VR3/3 喀褐色細粒砂質シルト + 地山40%
- (4) 10VR5/2 灰青褐色細粒砂質シルト + 鉄分
- (5) 10VN2/2 黑褐色細粒砂質シルト + 地山50%
- (6) 10VR3/2 黑褐色細粒砂質シルト + 地山5%
- (7) 10VR3/2 黑褐色細粒砂質シルト + 地山50%

SA01 P9

- (1) 10VR3/3 喀褐色細粒砂質シルト + 地山30%
- (2) 10VR3/1 黑褐色細粒砂質シルト + 地山40%

SD14

- (1) 10VR3/2 黑褐色細粒砂質シルト + 地山50%

SA01 P4

- (1) 10VR3/2 喀褐色細粒砂質シルト + 炭化物 1 %

SB01 P8

- (1) 10VR3/3 喀褐色細粒砂質シルト + 地山30%

SK31

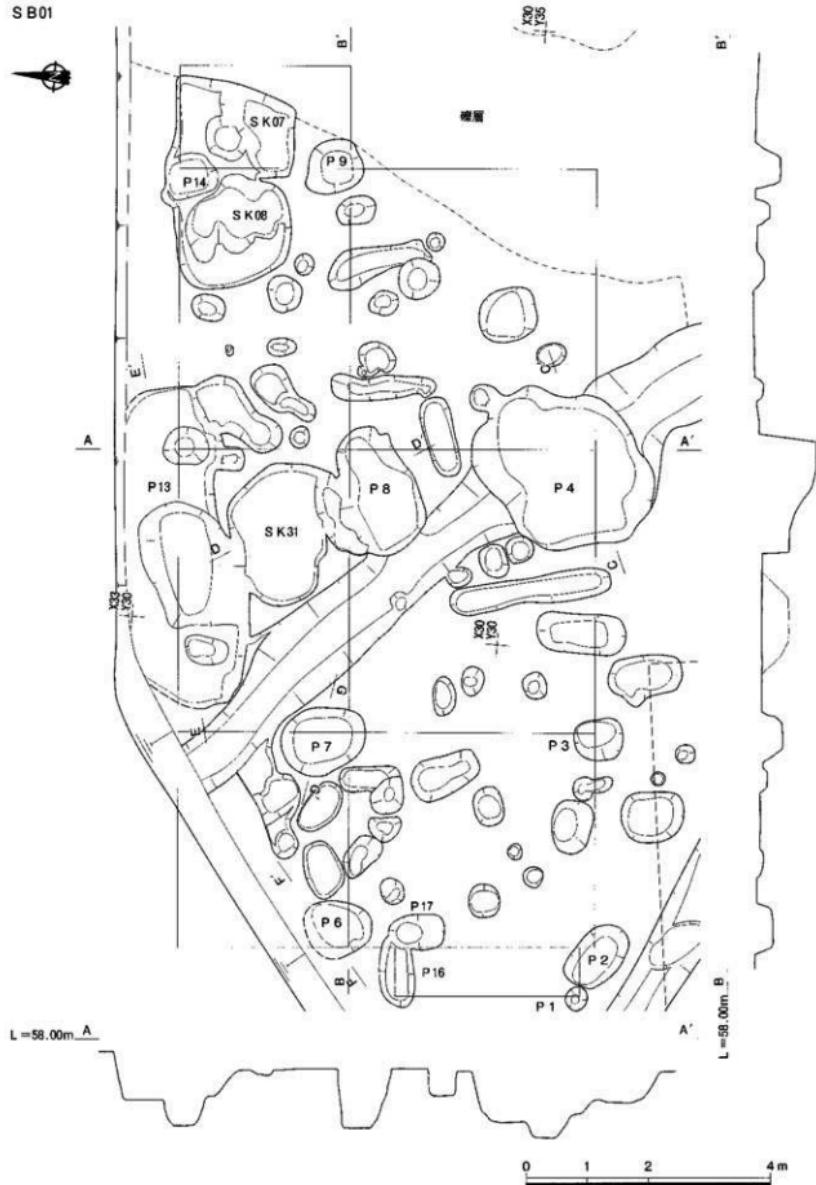
- (1) 10VR3/3 喀褐色細粒砂質シルト + 地山20%

SB01 P12

- (1) 10VR4/1 喀灰色細粒砂質シルト + 炭化物 1 %
- (2) 10VR4/4 喀褐色細粒砂質シルト + 地山 1 %
- (3) 10VR3/2 黑褐色細粒砂質シルト + 地山30%
- (4) 10VR3/1 黑褐色細粒砂質シルト + 地山30%
- (5) 10VR4/1 喀灰色細粒砂質シルト + 地山50%
- (6) 10VR3/3 喀褐色細粒砂質シルト + 地山 1 %
- (7) 10VR3/2 黑褐色細粒砂質シルト + 地山40%
- (8) 10VR4/1 喀灰色細粒砂質シルト + 地山30%
- (9) 10VR4/1 喀褐色細粒砂質シルト + 地山50%
- (10) 10VR4/1 喀灰色細粒砂質シルト + 地山50%
- (11) 10VR4/1 喀褐色細粒砂質シルト + 地山20%
- (12) 10VR4/1 喀灰色細粒砂質シルト + 地山50%

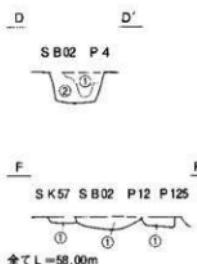
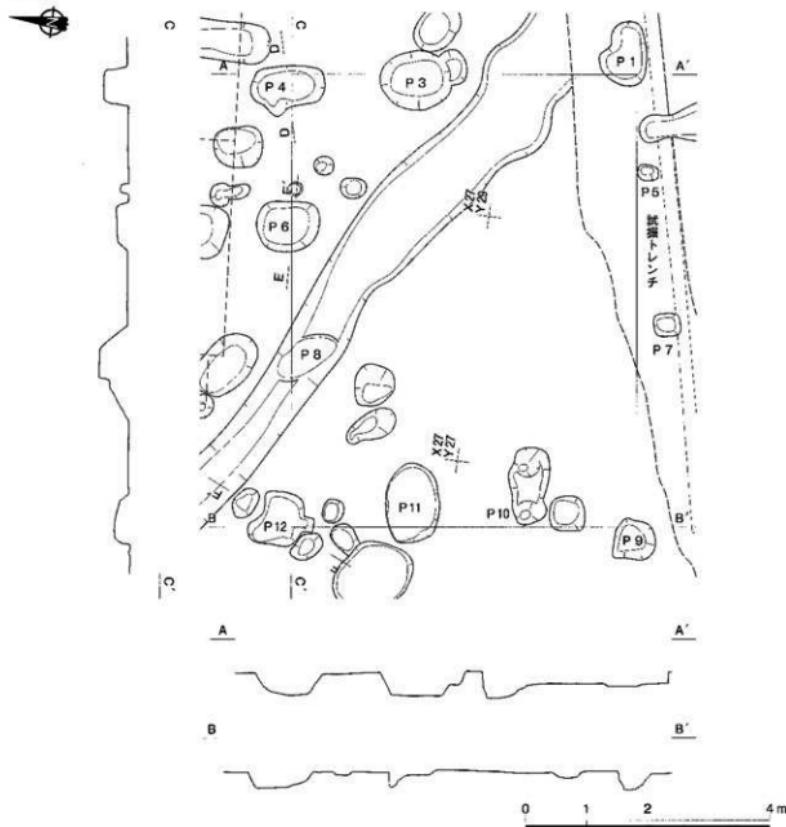
0 3m

SB01



第29図 院林遺跡4地区の遺構 (5) (S = 1 : 80)

SB02



第30図 胜林遺跡4地区の遺構(6) (平面図 S = 1 : 80、断面図 S = 1 : 60)

SB02 P4

- ① 10YR4/1 棕灰色細粒砂質シルト + 地山10%
- ② 10YR4/1 棕灰色細粒砂質シルト + 地山50%

SB02 P6

- ① 10YR4/1 棕灰色細粒砂質シルト + 地山50%

SB02 P12

- ① 10YR4/1 棕灰色細粒砂質シルト + 地山10%

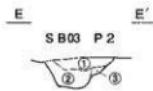
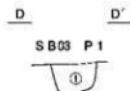
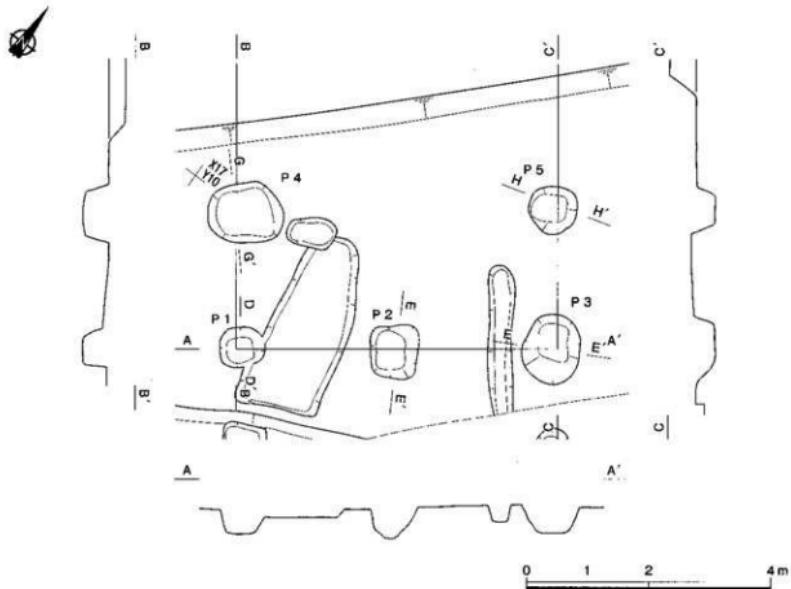
SK57

- ① 10YR4/1 棕灰色細粒砂質シルト + 地山50%

P125

- ① 10YR4/1 棕灰色細粒砂質シルト + 地山20%

SB03



SB03 P 1
① 10Y2/2 黒褐色細粒砂質シルト + 地山 5 %

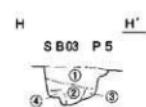
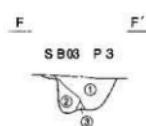
SB03 P 2
① 10Y2/2 黒褐色細粒砂質シルト + 地山 15 %
② 10Y2/2 黒褐色細粒砂質シルト + 地山 3 %
③ 10Y2/1 黒褐色細粒砂質シルト + 地山 50 %

SB03 P 3
① 10Y2/2 黒褐色細粒砂質シルト + 地山 15 %
② 10Y2/2 黑褐色細粒砂質シルト + 地山 10 %
③ 10Y2/4 黑褐色細粒砂質シルト + ② 5 %

SB03 P 4
① 10Y2/2 黑褐色細粒砂質シルト + 地山 3 %
② 10Y2/2 黑褐色細粒砂質シルト + 地山 10 %
③ 10Y2/2 黑褐色細粒砂質シルト
④ 10Y2/2 黑褐色細粒砂質シルト + 地山 50 %

SB03 P 5
① 10Y2/2 黑褐色細粒砂質シルト
② ① + 地山 20 %
③ ① + 地山 50 %

④ 10Y4/4 黑褐色細粒砂質シルト + ① 20 %

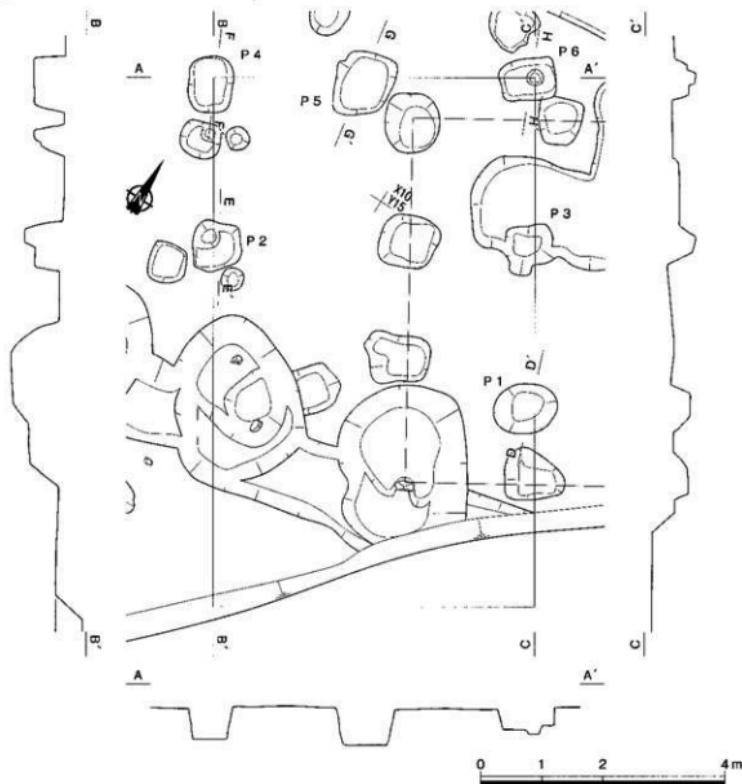


全て L = 58.00m

0 3 m

第31図 院林遺跡4地区の構造(7) (平面図 S = 1 : 80、断面図 S = 1 : 60)

SB04



SB04 P 1

① 10YR2/2 黒褐色細粒砂質シルト

② ①+地山40%

③ ①+堆山15%

④ ①+堆山40%

⑤ ①+堆山50%

SB04 P 2

① 10YR2/3 黒褐色細粒砂質シルト+地山30%

② 10YR2/1 黑褐色細粒砂質シルト+地山50%

③ 10YR2/1 黑褐色細粒砂質シルト+堆山40%

④ 10YR2/3 黑褐色細粒砂質シルト+地山30%

SB04 P 4

① 10YR2/2 黑褐色細粒砂質シルト+地山20%

SB04 P 5

① 10YR2/1 黑褐色細粒砂質シルト

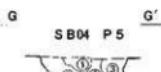
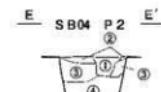
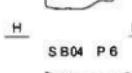
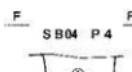
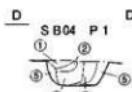
② ①+堆山10%

③ 10YR4/2 黄褐色細粒砂質シルト+地山50%

④ 10YR2/2 黑褐色細粒砂質シルト+地山30%

SB04 P 6

① 10YR2/2 黑褐色細粒砂質シルト+地山30%

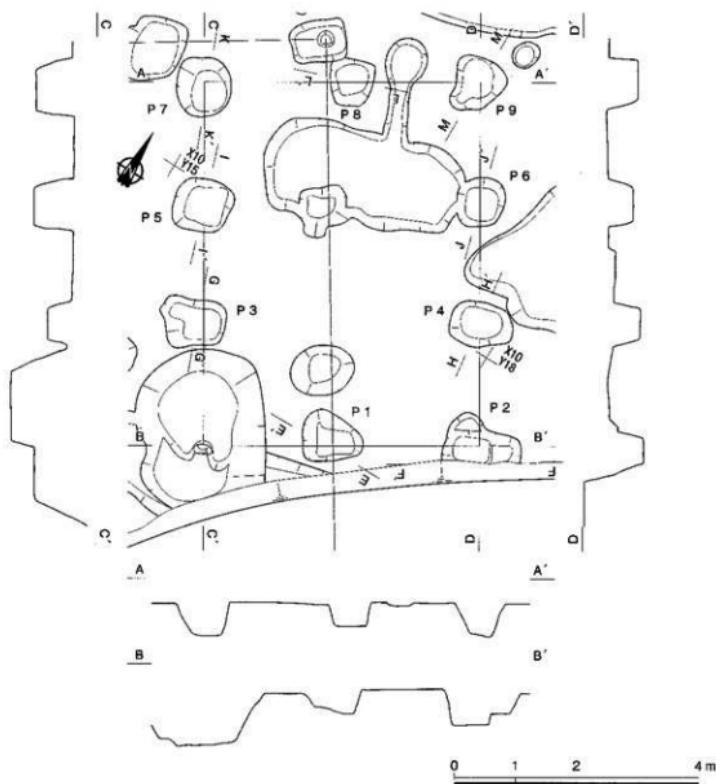


全て L = 58.00m

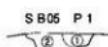
0 3m

第32図 脱林遺跡4地区の遺構(8) (平面図S=1:80、断面図S=1:60)

SB05



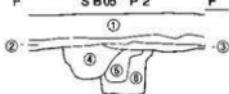
E E'



G G'



F F'



SB05 P 1

- ① 10YR2/1 黒褐色細粒砂質シルト + 地山10%
- ② 10YR2/1 黑褐色細粒砂質シルト + 地山40%

SB05 P 2

- ① 10YR3/1 黒褐色細粒砂質シルト + 鉄分
- ② 10W4/1 灰灰色細粒砂質シルト + 鉄分
- ③ 10YR2/1 黑色細粒砂質シルト + 地山5%
- ④ 10YR2/1 黑色細粒砂質シルト + 地山10%
- ⑤ 10YR2/1 黑色細粒砂質シルト + 地山30%
- ⑥ 10YR2/1 黑色細粒砂質シルト + 地山50%

SB05 P 3

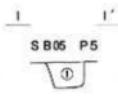
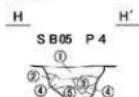
- ① 10YR2/1 黑色細粒砂質シルト + 地山5%
- ② 10W2/1 黑色細粒砂質シルト + 地山50%

全て L = 58.00m

0 3 m

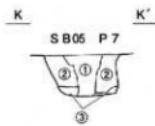
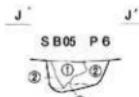
第33図 懐林遺跡4地区の造構(9) (平面図S=1:80、断面図S=1:60)

S B05



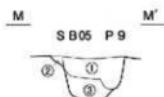
S B05 P 4

- ① 10YR2/2 黒褐色細粒砂質シルト
- ② ①+地山20%
- ③ ①+地山40%
- ④ 10YR4/4 緑色細粒砂質シルト + ①10%
- ⑤ 10YR2/1 黒色細粒砂質シルト + 地山10%



- S B05 P 5
- ① 10YR2/2 黒褐色細粒砂質シルト + 地山50%
- S B05 P 6
- ① 10YR2/2 黒褐色細粒砂質シルト
- ② ①+地山10%
- ③ ①+地山40%

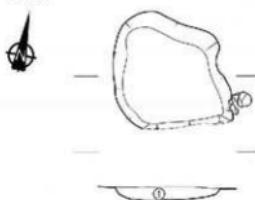
- S B05 P 7
- ① 10YR2/2 黒褐色細粒砂質シルト
- ② ①+地山20%
- ③ 10YR4/4 緑色細粒砂質シルト + ②20%



- S B05 P 8
- ① 10YR2/2 黒褐色細粒砂質シルト + 地山50%
- ② 10YR2/2 黒褐色細粒砂質シルト + 地山120%
- ③ 10YR4/4 緑色細粒砂質シルト + ②20%
- ④ 10YR2/2 黒褐色細粒砂質シルト + 地山40%

- S B05 P 9
- ① 10YR2/2 黒褐色細粒砂質シルト
- ② ①+地山20%
- ③ 10YR3/4 黒褐色細粒砂質シルト + 地山20%

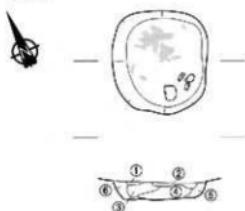
S K23



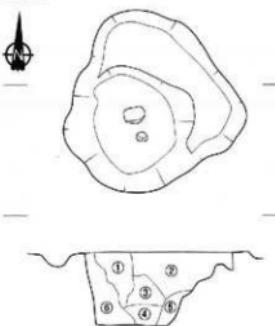
S K23

① 10YR3/1 黒褐色細粒砂質シルト + 漢化物50% + 地山20%

S K77



S K02



S K02

- ① 10YR2/3 暗褐色細粒砂質シルト
- ② 10YR2/4 暗褐色細粒砂質シルト + 地山20%
- ③ 10YR2/3 黒褐色細粒砂質シルト + 地山10%
- ④ 10YR3/3 暗褐色細粒砂質シルト + 地山5%
- ⑤ 10YR3/2 黒褐色シルト質粘土 + 地山20%
- ⑥ 10YR3/1 黒褐色細粒砂質シルト + 地山20%

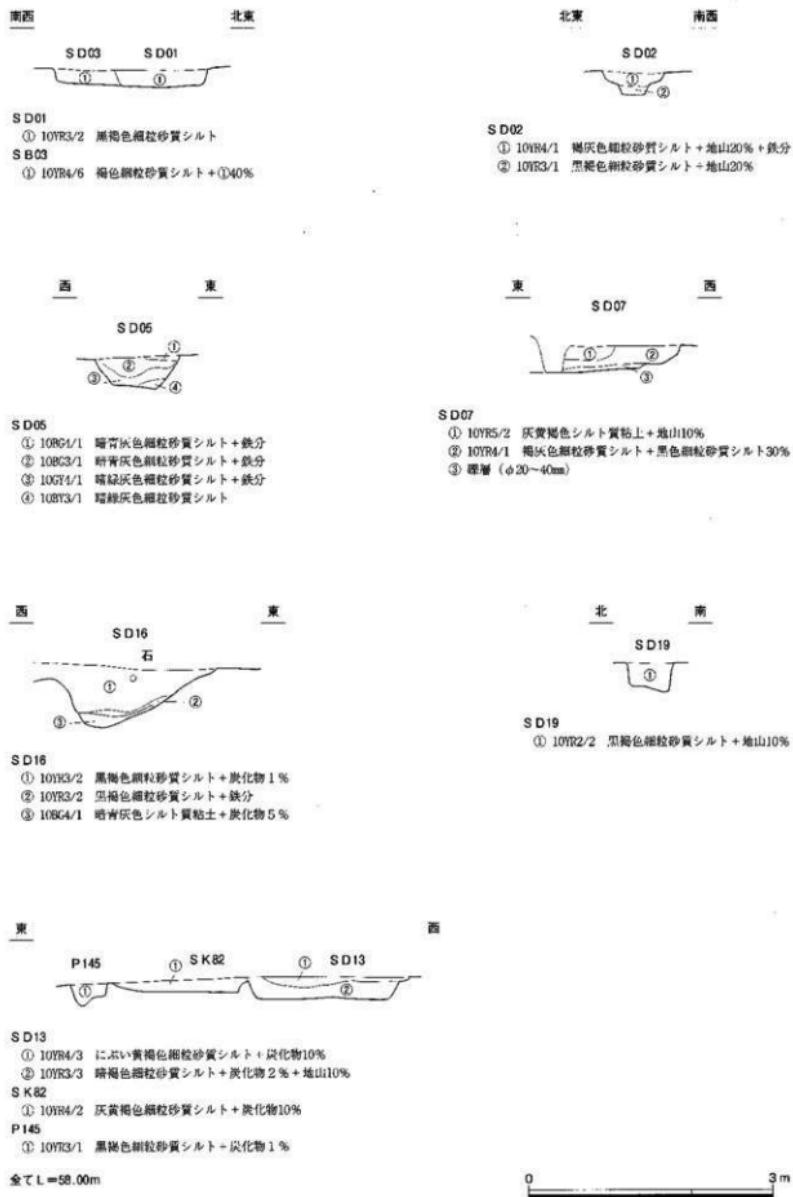
S K77

- ① 10YR2/1 黒色細粒砂質シルト + 漢土 - 崩化物10%
- ② 10YR2/2 黒褐色細粒砂質シルト - 崩化物10%
- ③ 10YR2/1 黑褐色細粒砂質シルト + 崩化物10%
- ④ 10YR2/2 黑褐色細粒砂質シルト + 崩化物10%
- ⑤ 10YR2/3 黑褐色細粒砂質シルト + 崩化物5% + 地山20%
- ⑥ 10YR2/2 黑褐色細粒砂質シルト + 崩化物20% + 地山20%

全で L = 58.00m

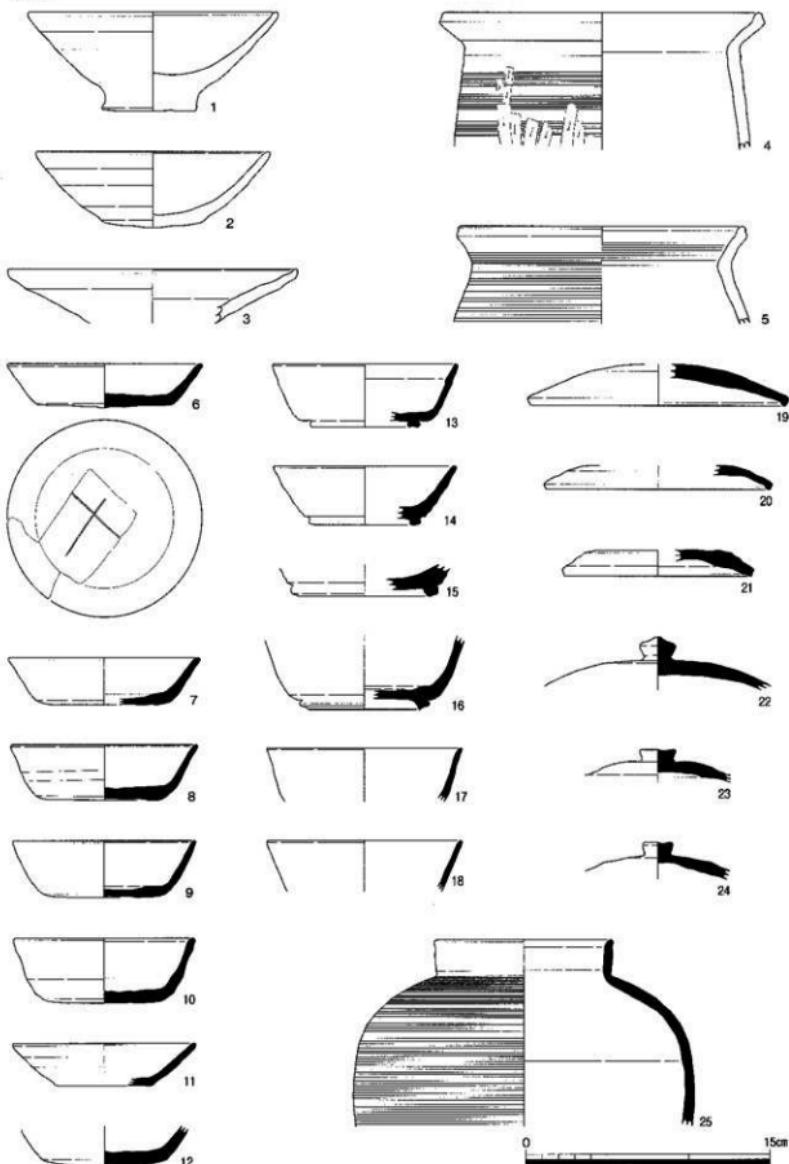


第34図 脳林遺跡4地区の構造 (10) (S = 1 : 60)



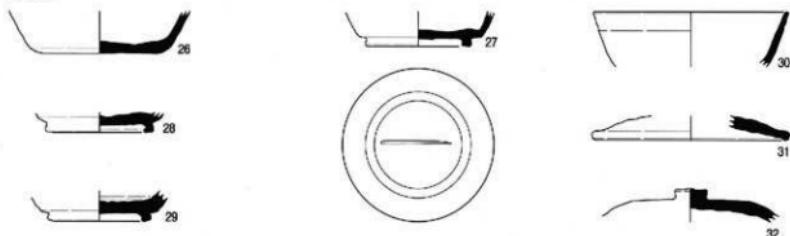
第35図 脱林遺跡4地区の遺構 (11) (S = 1 : 60)

SD01

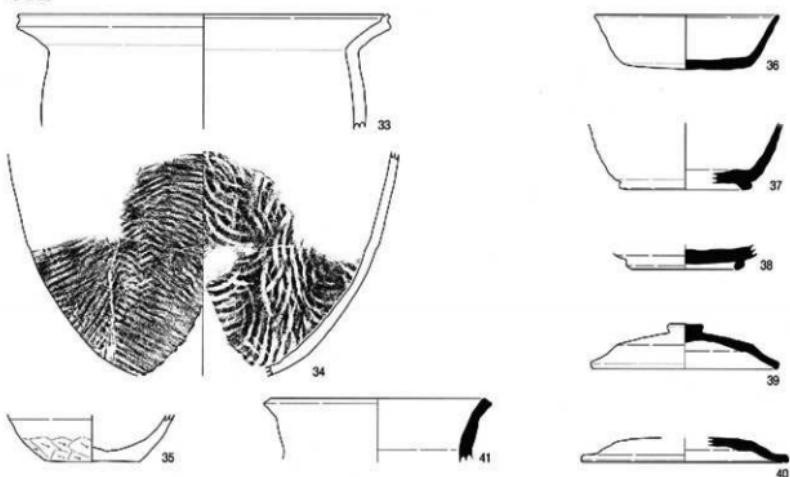


第36図 寺家廐寺跡2地区の遺物 (1) (S=1:3)

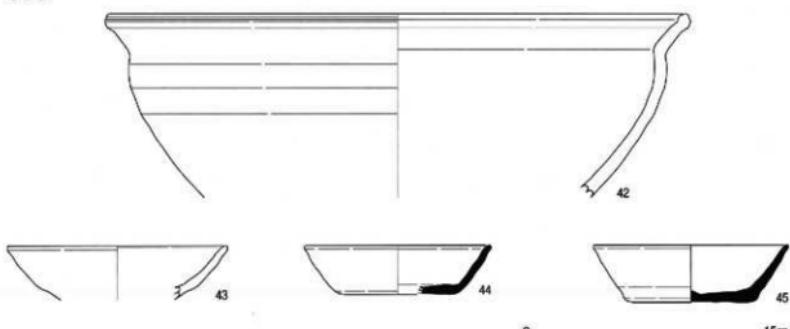
S D02



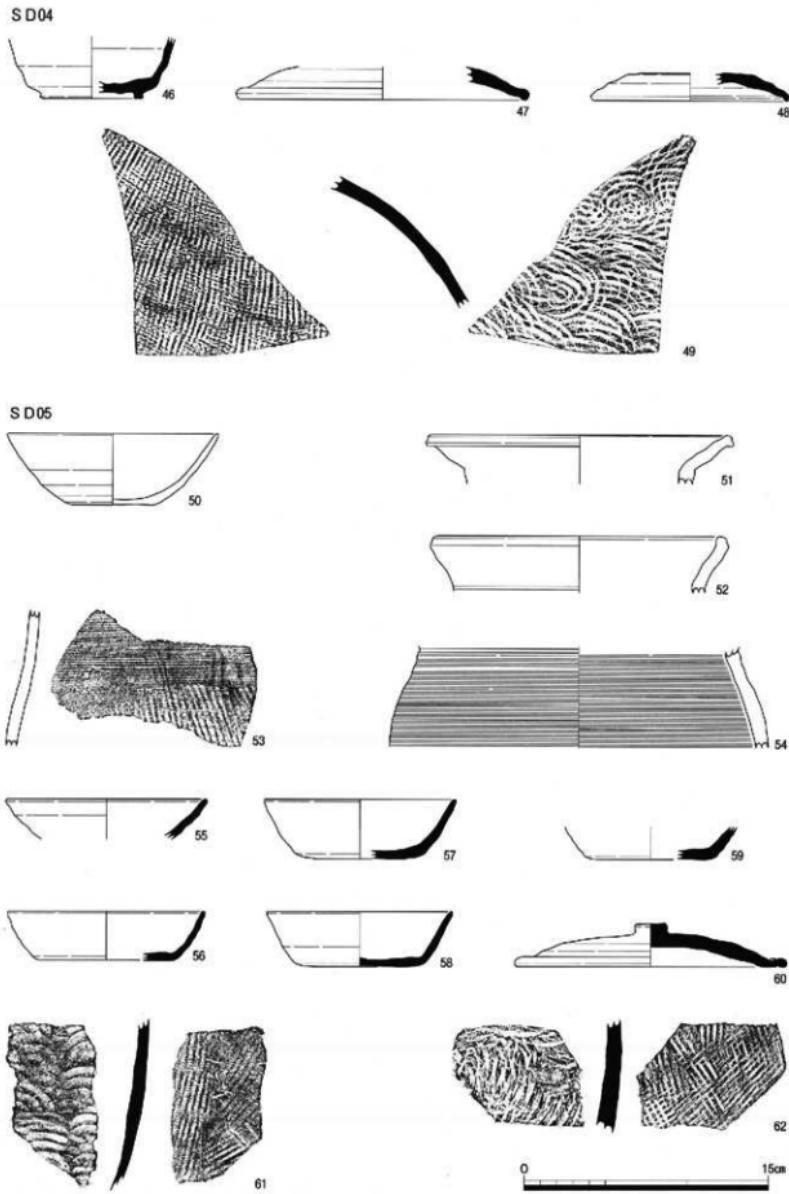
S D03



S D04



第37図 寺家廐寺跡2地区の遺物 (2) (S=1:3)



第38図 寺家廐寺跡2地区の遺物(3) (S=1:3)

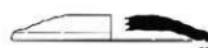
S D05



S D06



S D07



S D08



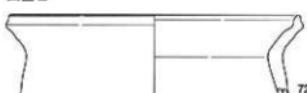
田畠 1



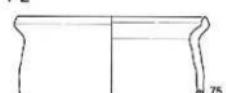
P 1



田畠 2



P 2



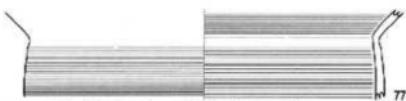
田畠 3



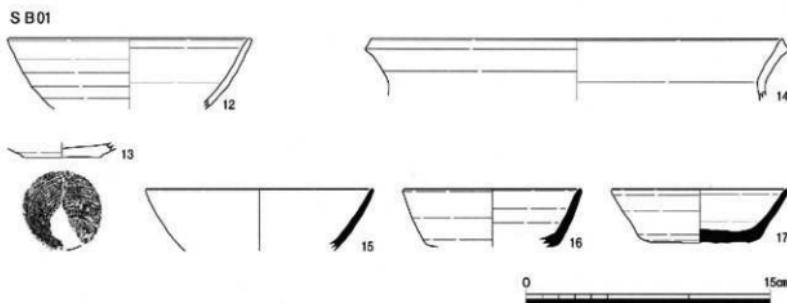
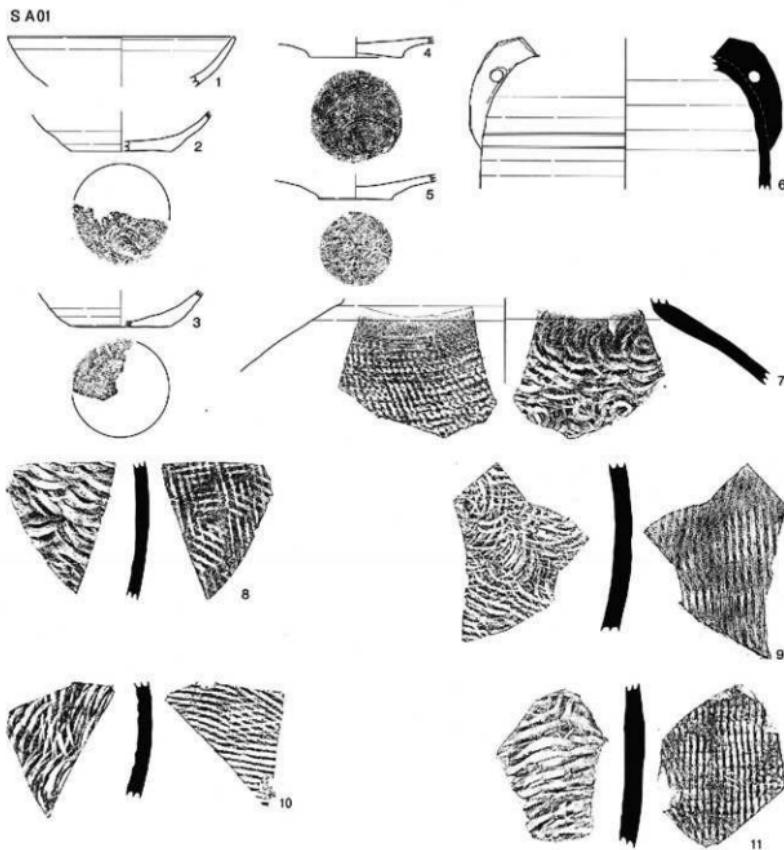
表土



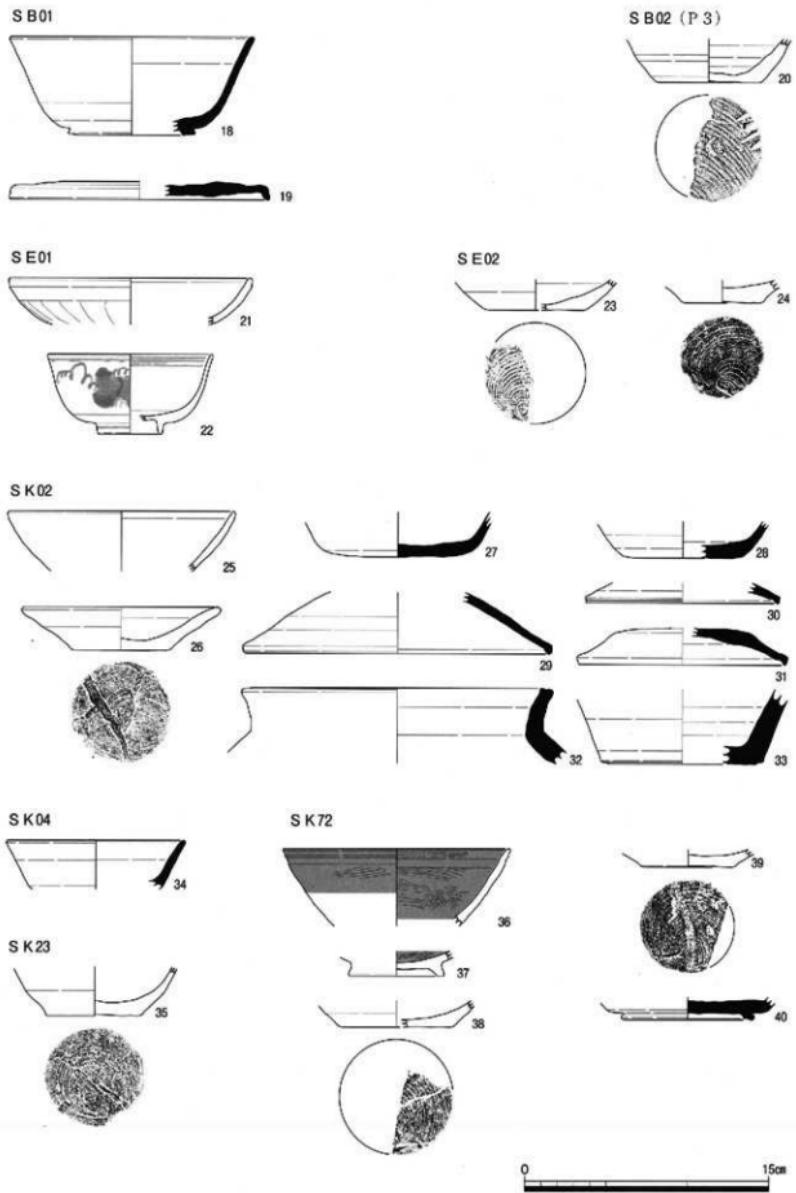
包含層



第39図 寺家廐寺跡2地区の遺物 (4) (S=1:3)

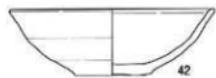
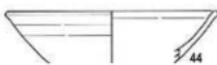
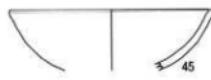
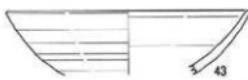


第40図 諏訪遺跡4地区の遺物 (1) (S=1:3)

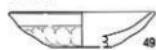


第41図 脱林遺跡4地区の遺物(2) (S=1:3)

SK77



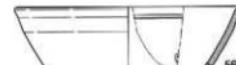
SD01



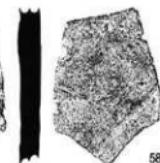
SD02



SD04



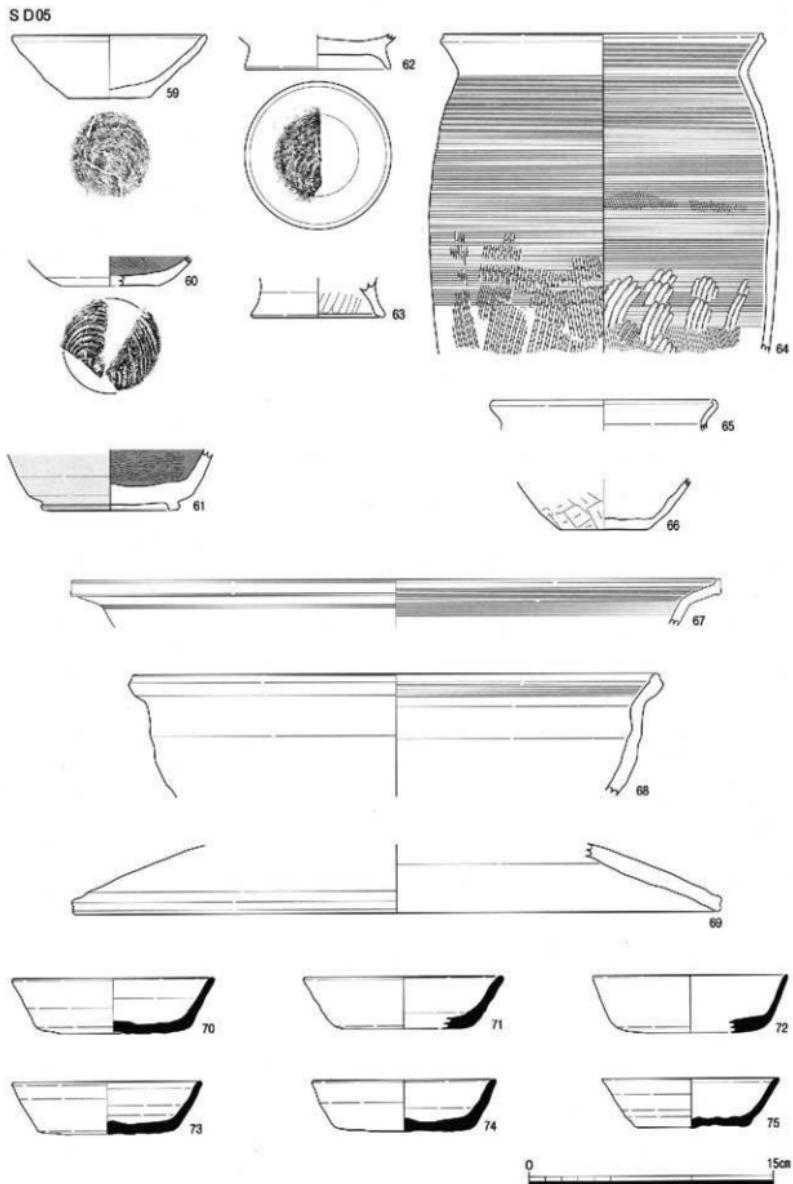
57



58

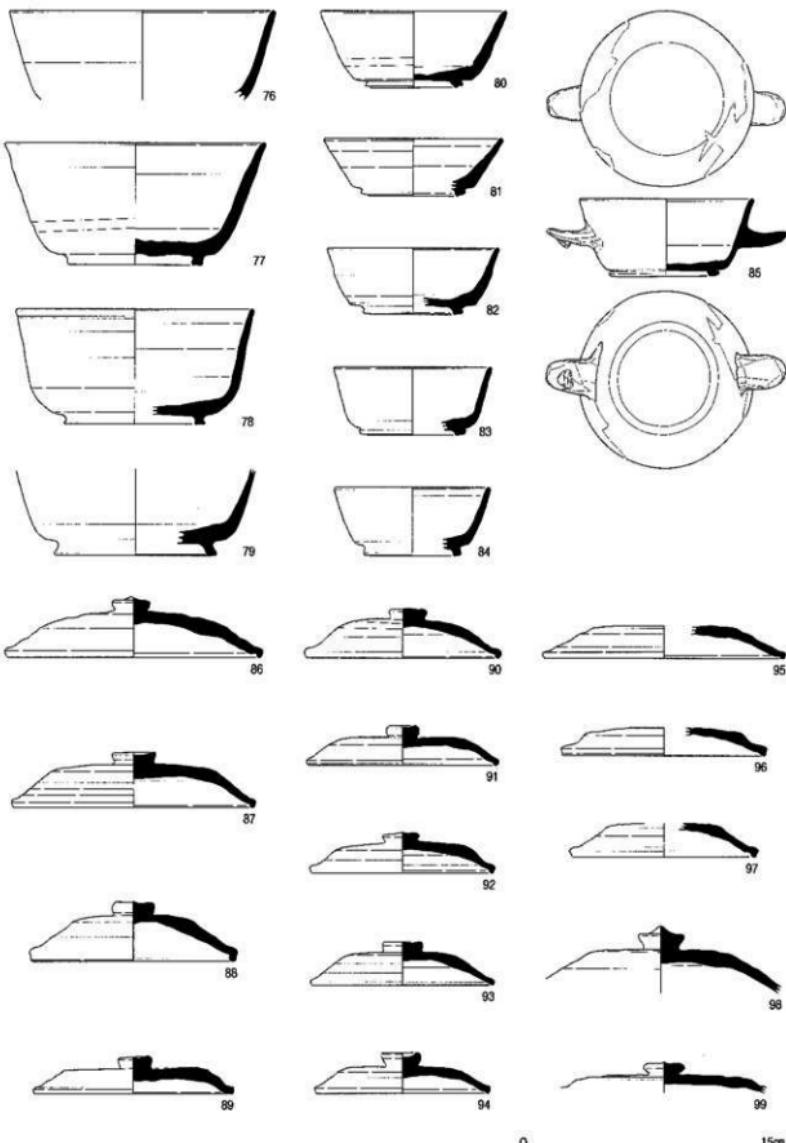


第42図 院林遺跡4地区の遺物(3) (S=1:3)



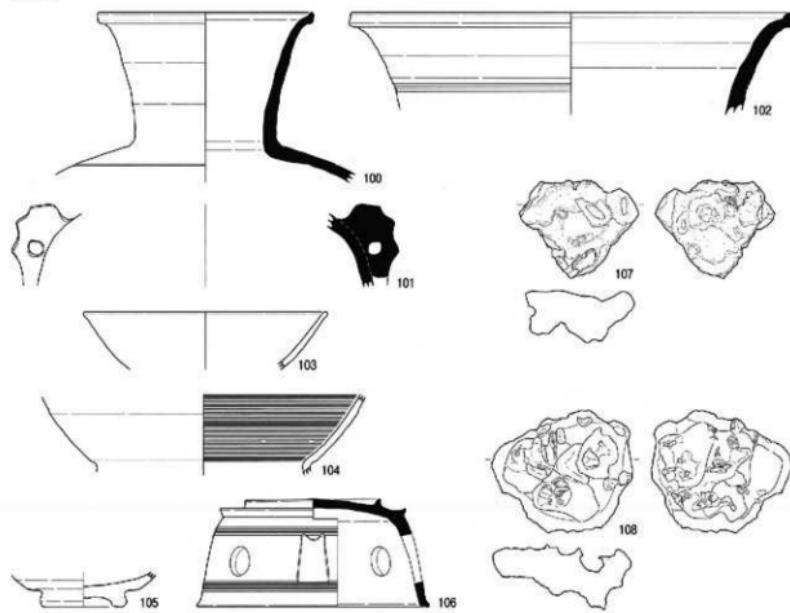
第43図 脱林遺跡 4 地区の遺物 (4) (S = 1 : 3)

S D 05

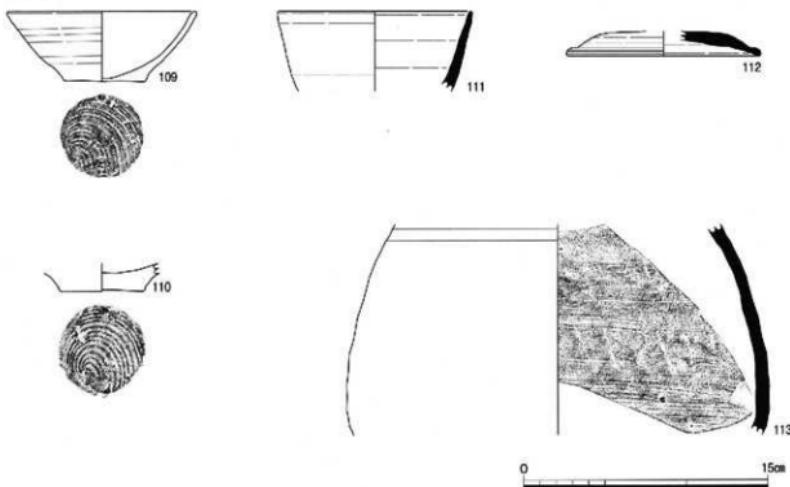


第44図 胥林遺跡 4地区の遺物 (5) (S = 1 : 3)

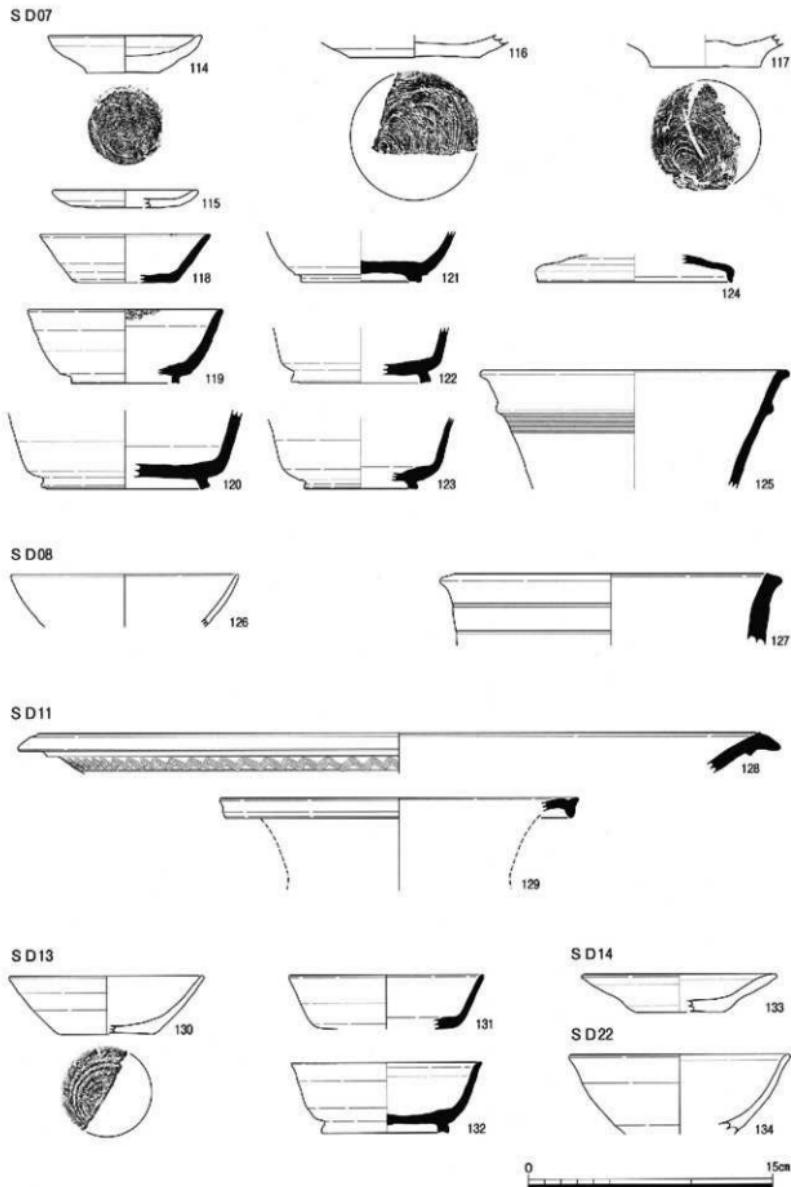
S D05



S D06

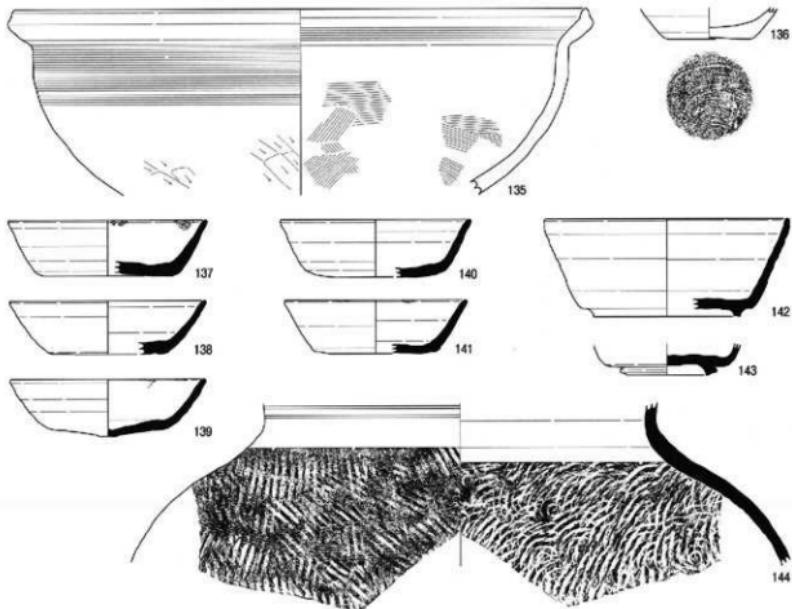


第45図 脱林遺跡4地区の遺物 (6) (S=1:3)



第46図 院林遺跡4地区の遺物(7) (S=1:3)

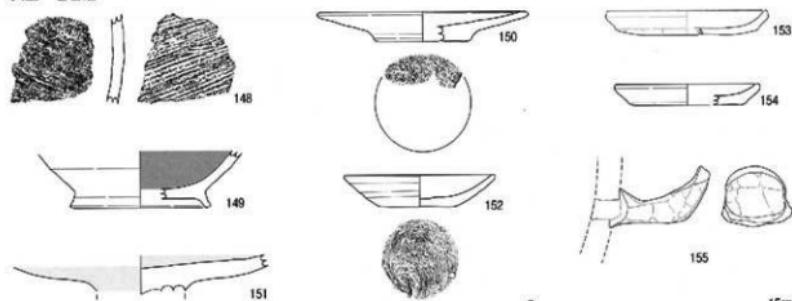
S D16



P 1

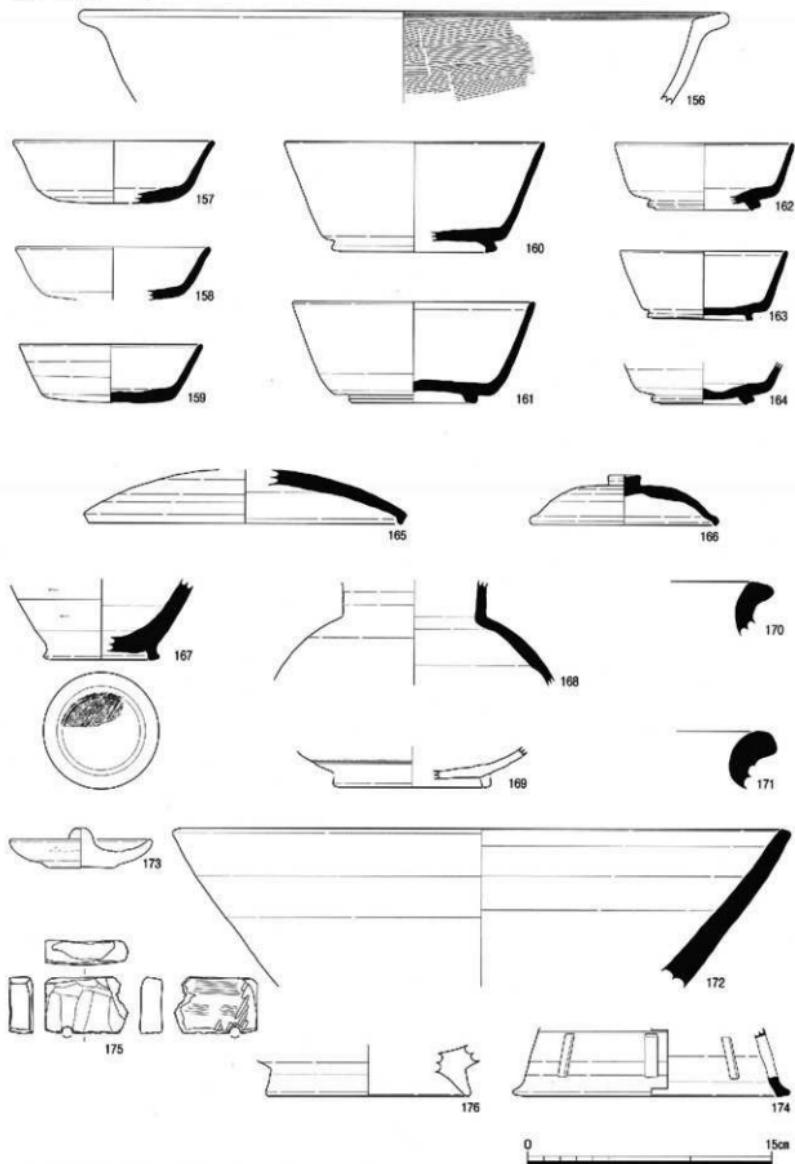


表土・包含層



第47図 脱林遺跡4地区の遺物 (8) (S=1:3)

表土・包含層



第48図 脱林遺跡4地区の遺物（9）（S=1:3）

写 真 図 版



「国土地理院撮影の空中写真（1968年撮影）」

図版1 寺家廃寺跡・院林遺跡空中写真



図版2 寺家廐寺跡2地区全景
①遠景（東から） ②全景（上方から）



図版3 寺家庵寺跡2地区の遺構（1）

①調査区全景（西から） ②田畠1・2全景（北西から）



図版4 寺家廐寺跡2地区の遺構（2）

- ①基本層序（南から） ②S D01土層（南から） ③S D03土層（南から） ④S D05土層（西から）
⑤P 1遺物出土状況（南西から） ⑥東側拡張部全景（西から） ⑦S D01遺物出土状況 ⑧S D03遺物出土状況



図版5 脳林遺跡4地区全景（1）
①遠景（西から） ②全景（西から）



①



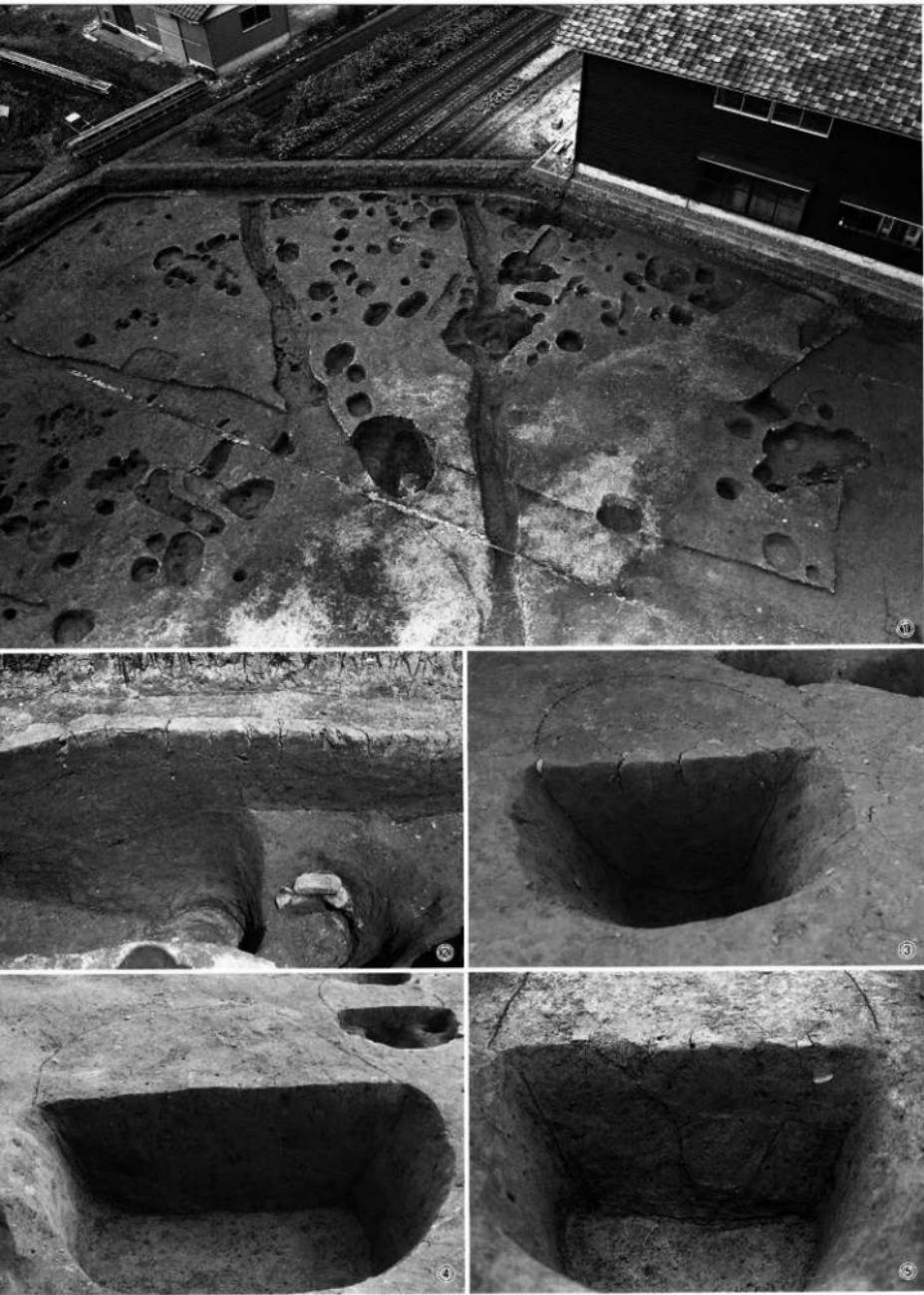
②

図版6 院林遺跡4地区全景（2）
①遠景（北西から） ②全景（上方から）



図版7 院林遺跡4地区の遺構（1）

- ①S A01、S B04・05、S E02全景（上方から） ②S A01全景（西から）
③S A01-P 9土層（西から） ④S A01-P 2土層（西から）



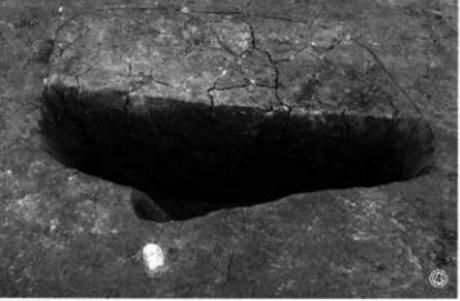
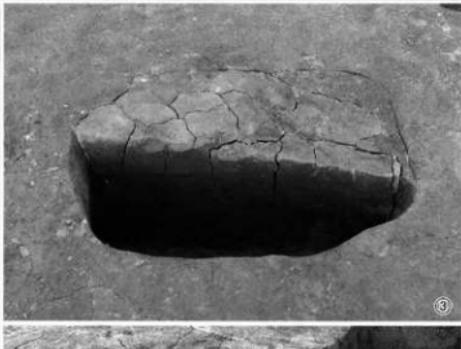
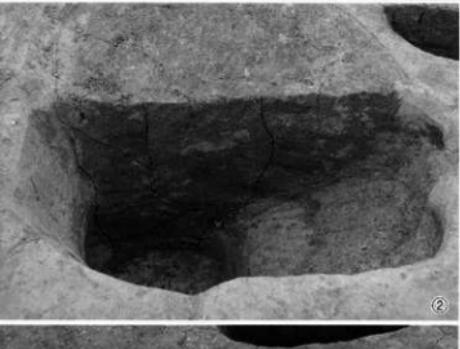
図版8 院林遺跡4地区の遺構(2)

- ①SB01・02、SE01全景(南から) ②SB01-P13土層(南から) ③SB01-P2土層(南東から)
④SB01-P7土層(北から) ⑤SB02-P4土層(南から)



図版9 脱林遺跡4地区の遺構(3)

①S B03全景(北から) ②S B03-P 2土層(西から) ③S B03-P 1土層(西から)
④S B03-P 5土層(南西から) ⑤S B03-P 4土層(南から)



図版10 院林遺跡4地区の遺構 (4)

- ①調査区南側全景 (北西から) ②S B04-P 2土層 (西から) ③S B04-P 4土層 (西から)
④S B04-P 5土層 (西から) ⑤S B04-P 6土層 (西から)



①



②



③



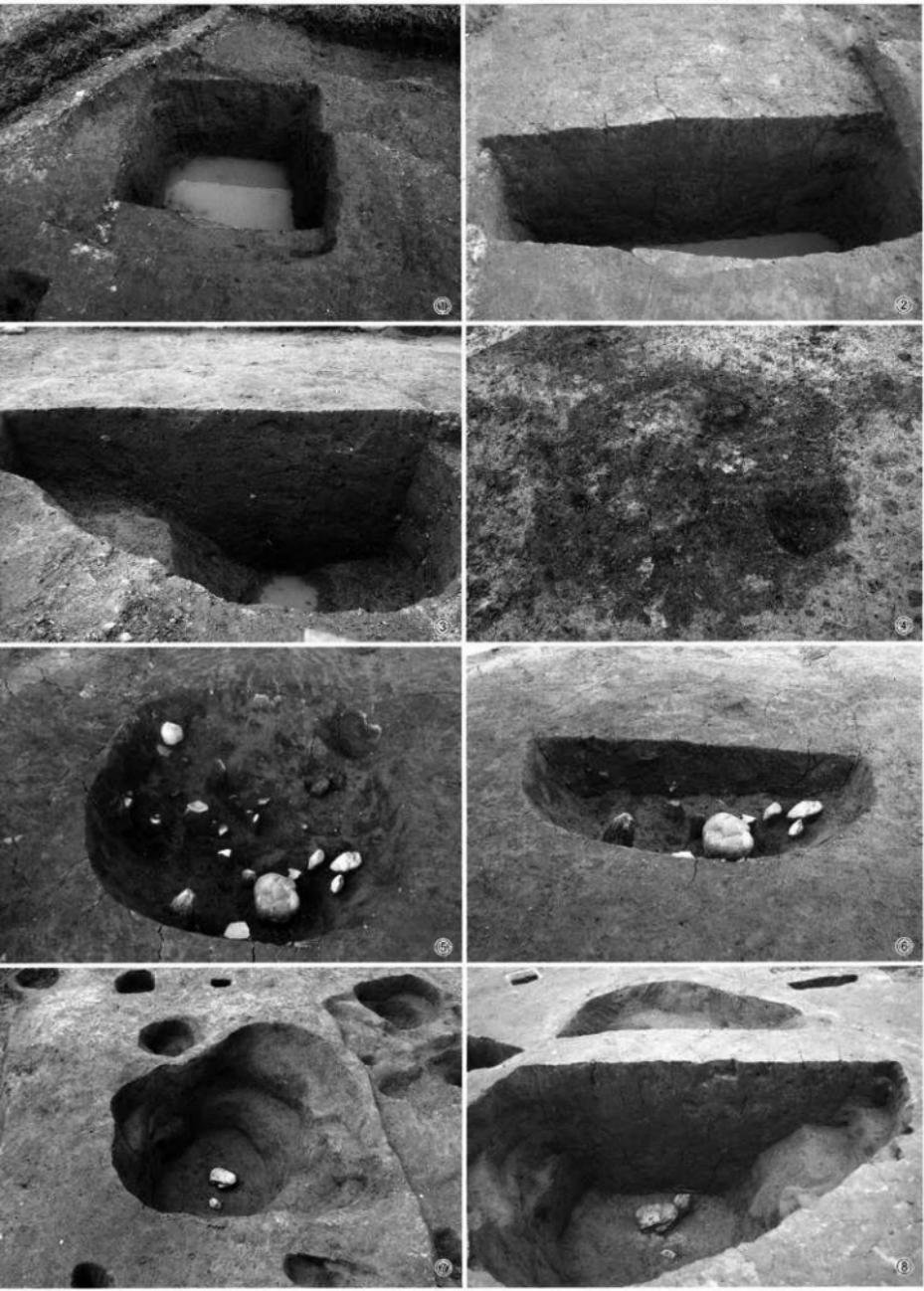
④



⑤

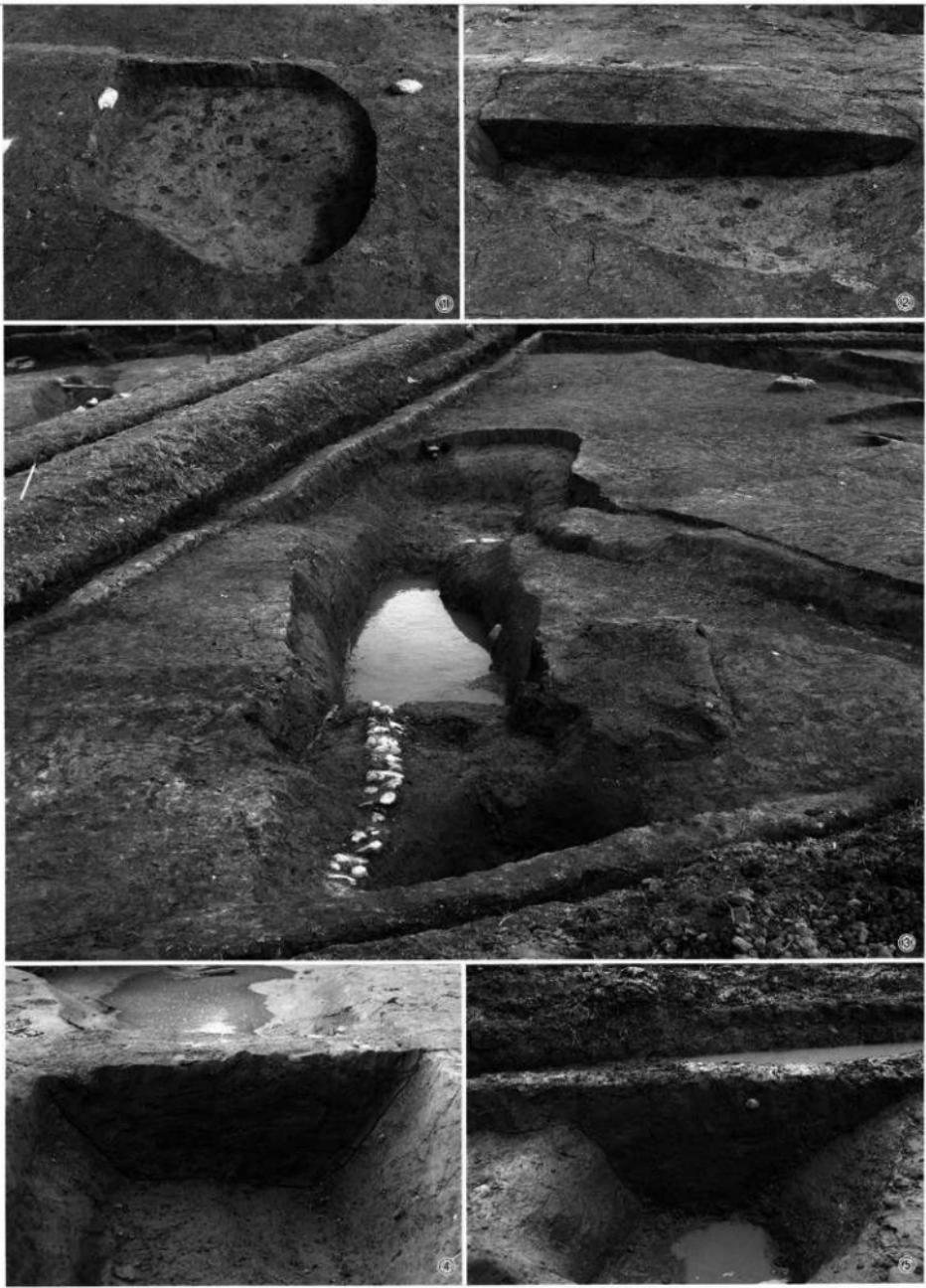
図版11 院林遺跡4地区の遺構（5）

- ①SB05全景（北西から） ②SB05-P5土層（西から） ③SB05-P2土層（北から）
④SB05-P1土層（西から） ⑤SB05-P8土層（西から）



図版12 観林遺跡4地区の遺構(6)

- ①SE02全景(北から) ②SE02土層(北から) ③SE01土層(南から) ④SK77検出状況(西から)
⑤SK77遺物出土状況(西から) ⑥SK77土層(西から) ⑦SK02全景(南から) ⑧SK02土層(南から)



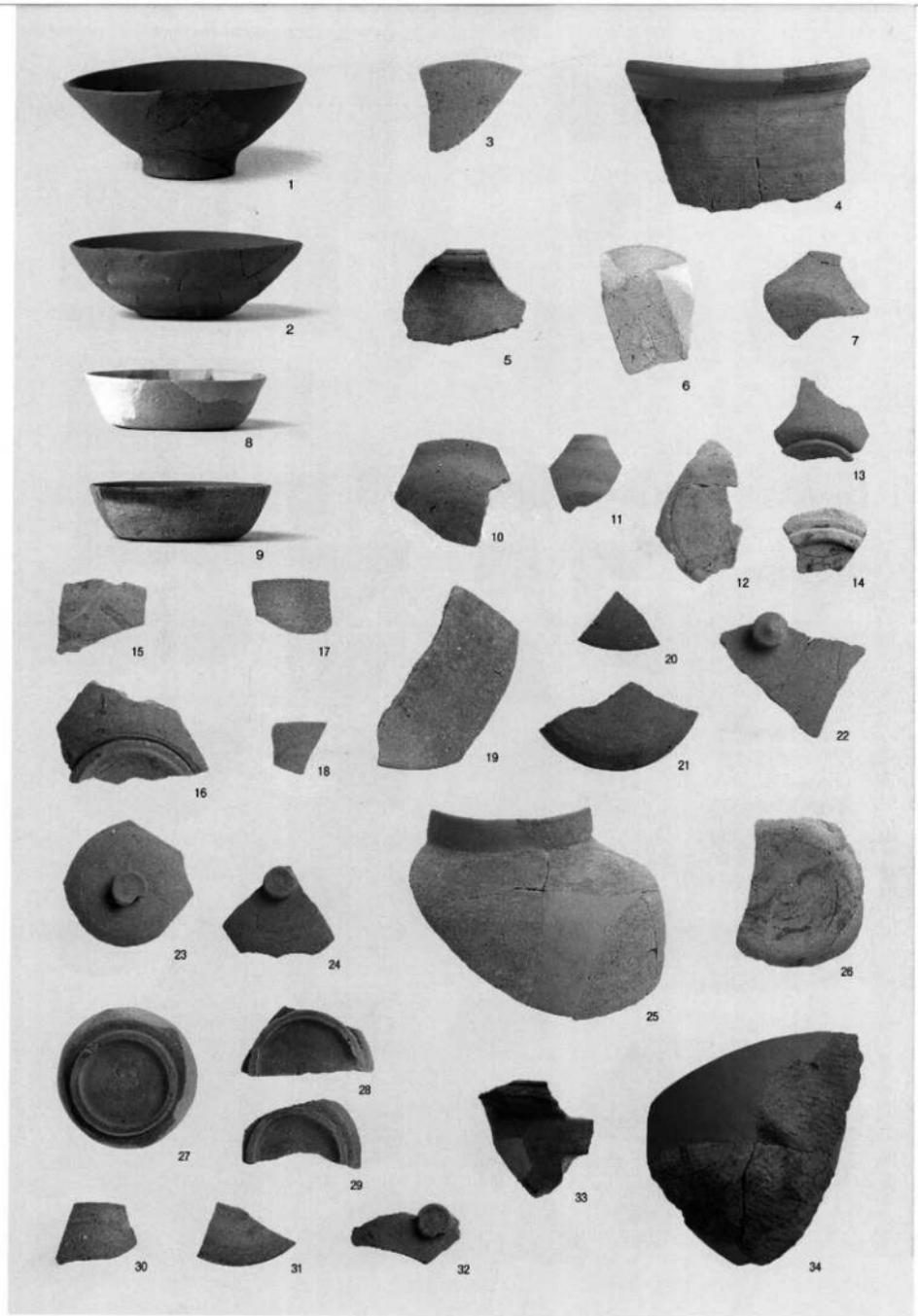
図版13 脱林遺跡4地区の遺構(7)

- ①SK23全景(北から) ②SK23土層(北から) ③SD05・16全景(北西から)
④SD05土層(南から) ⑤SD16土層(南東から)

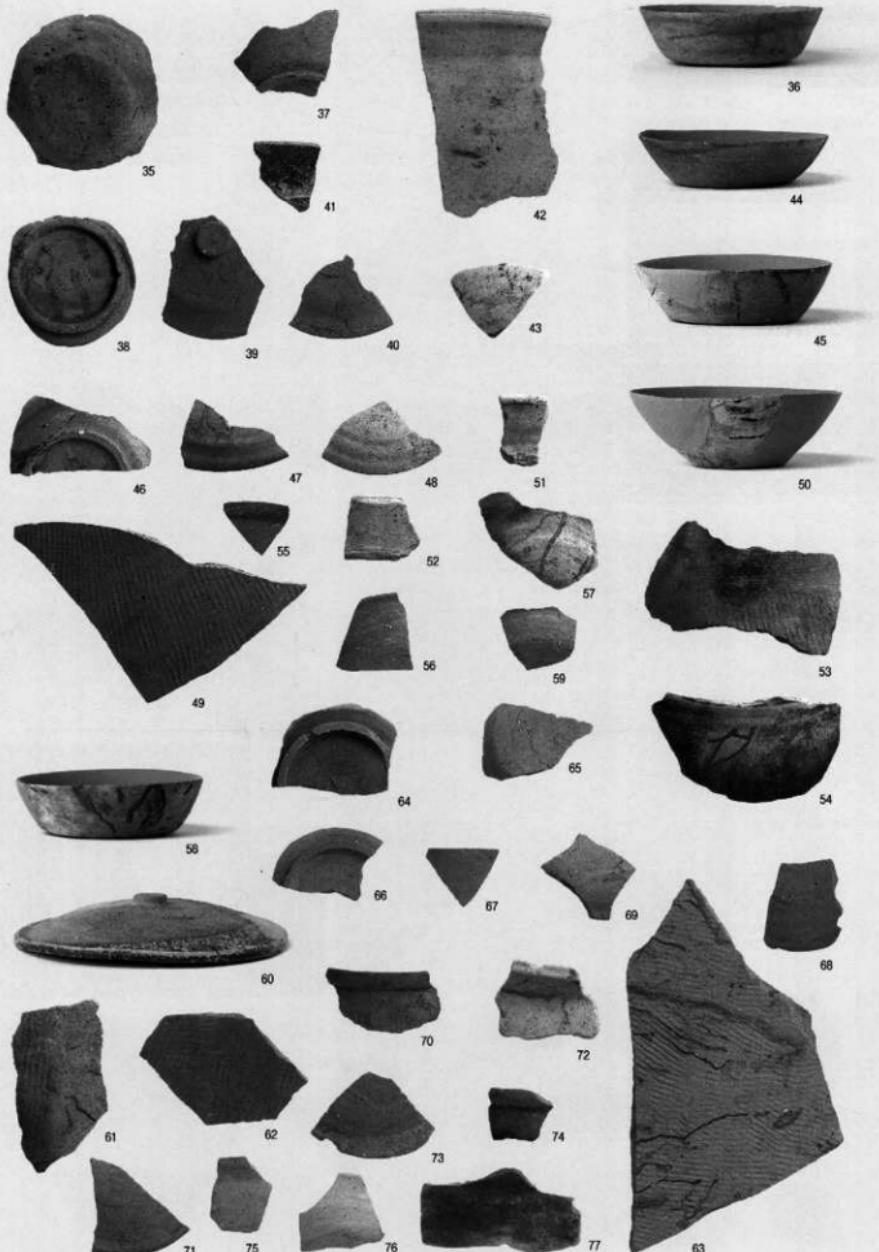


図版14 観林遺跡4地区の遺構(8)

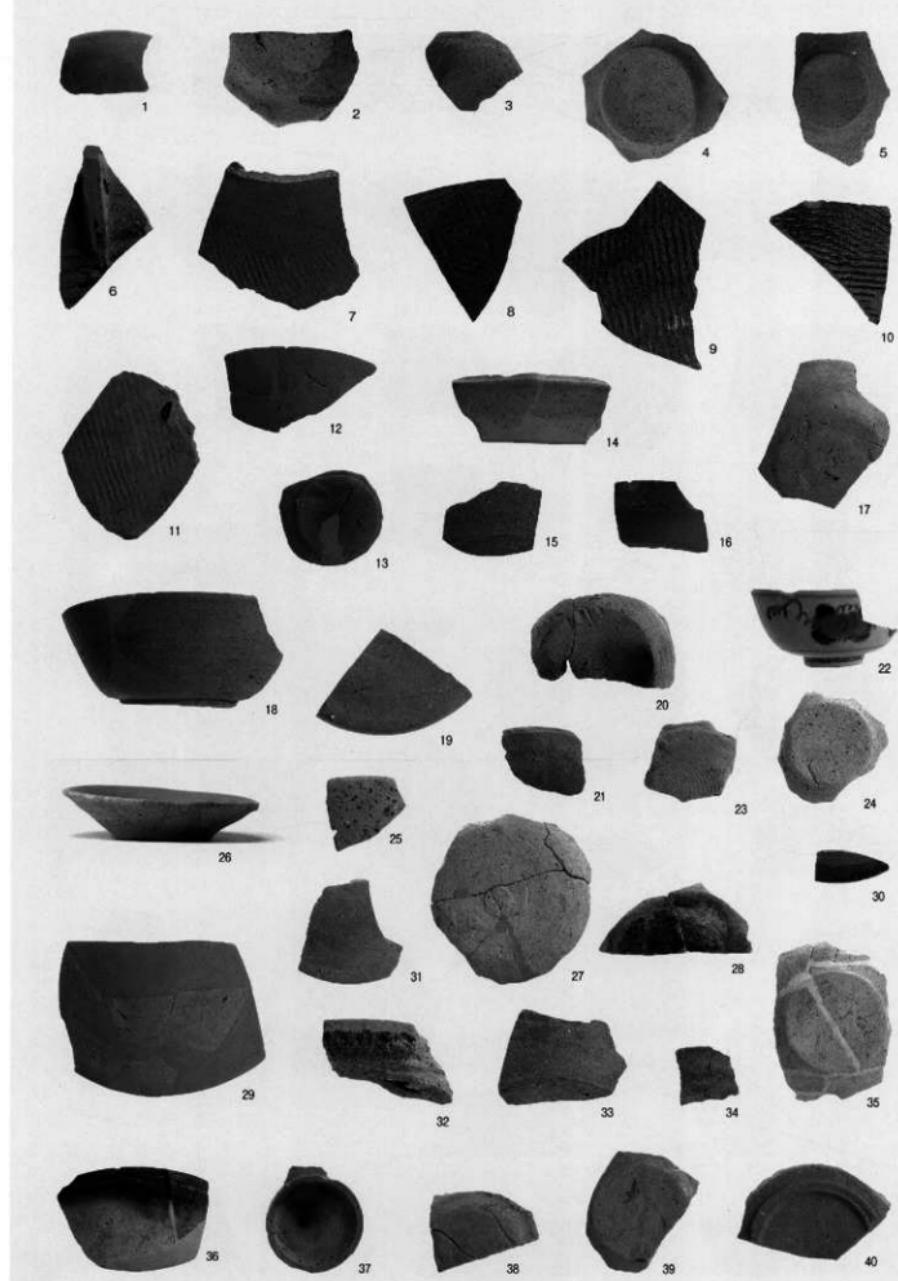
①SD07全景(北から) ②SD01全景(北から) ③SD02全景(北西から) ④SD13全景(北西から)



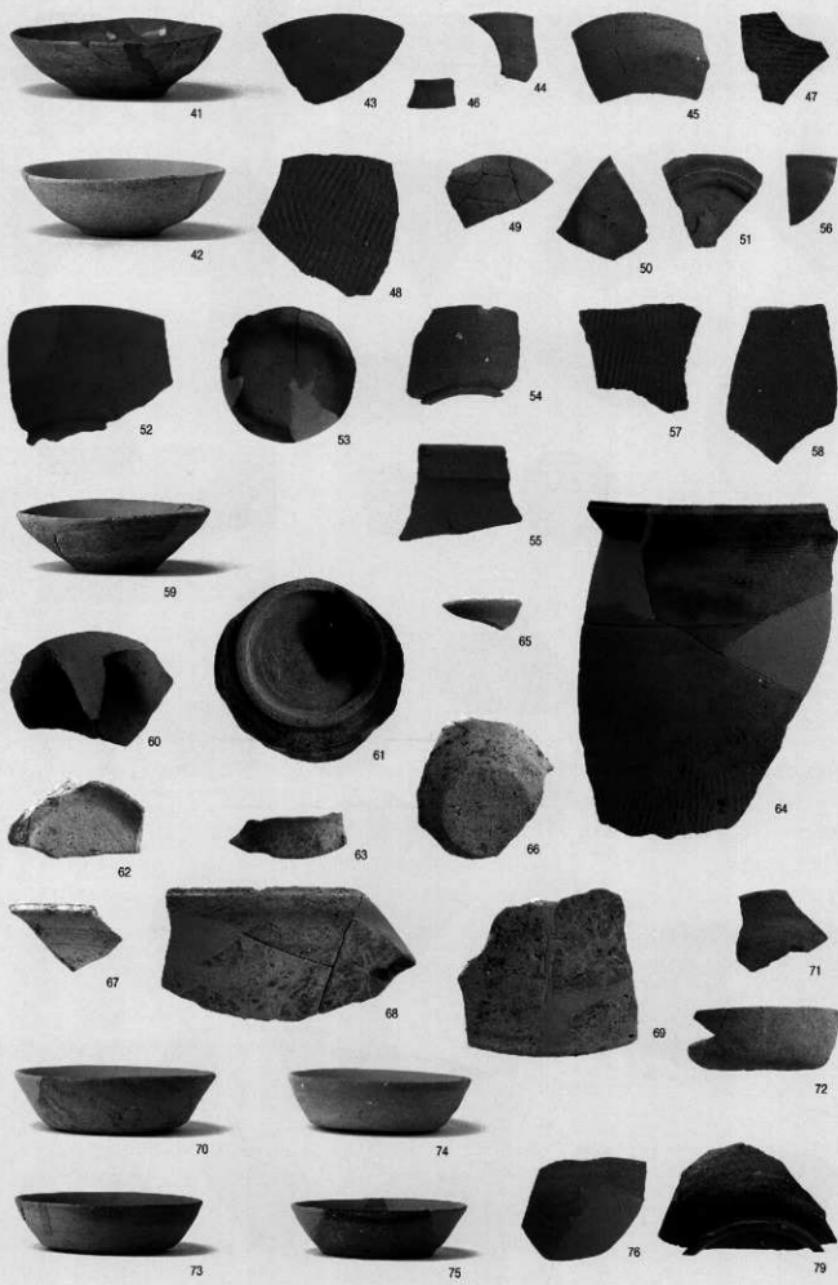
図版15 寺家庵寺跡2地区の遺物（1）（S=1:3）



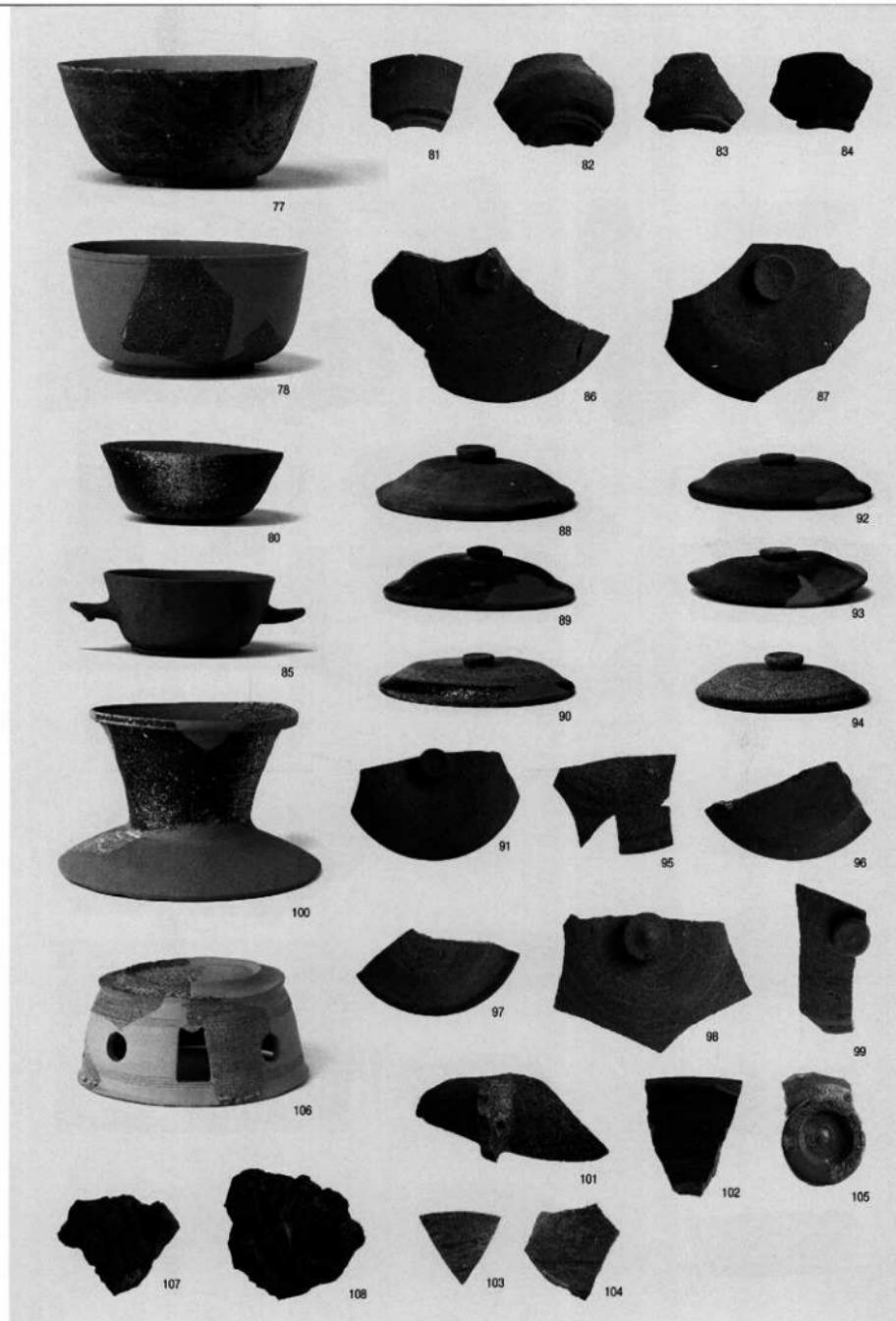
図版16 寺家廃寺跡2地区の遺物(2) (S=1:3)



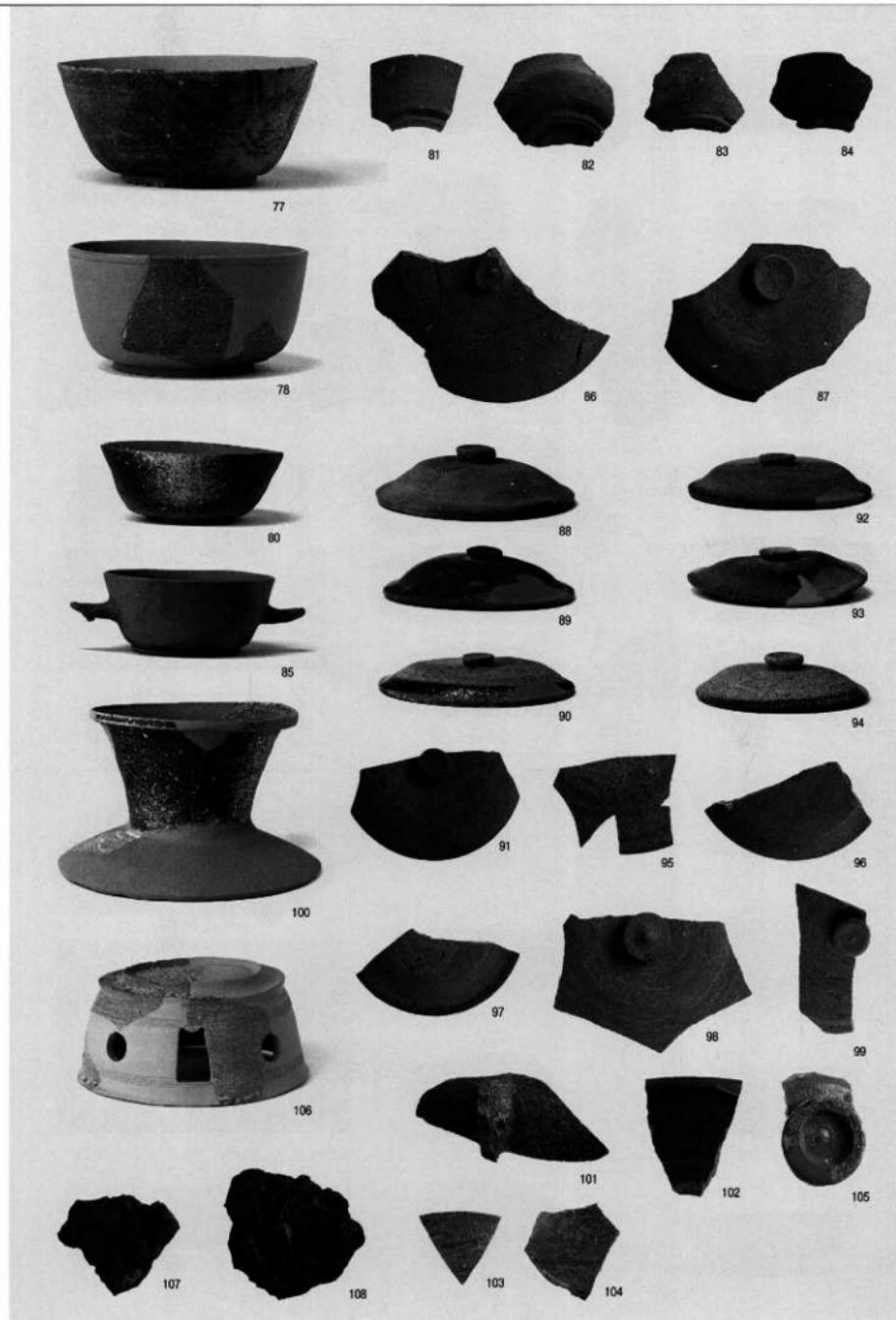
図版17 脱林遺跡4地区の遺物 (1) (S = 1 : 3)



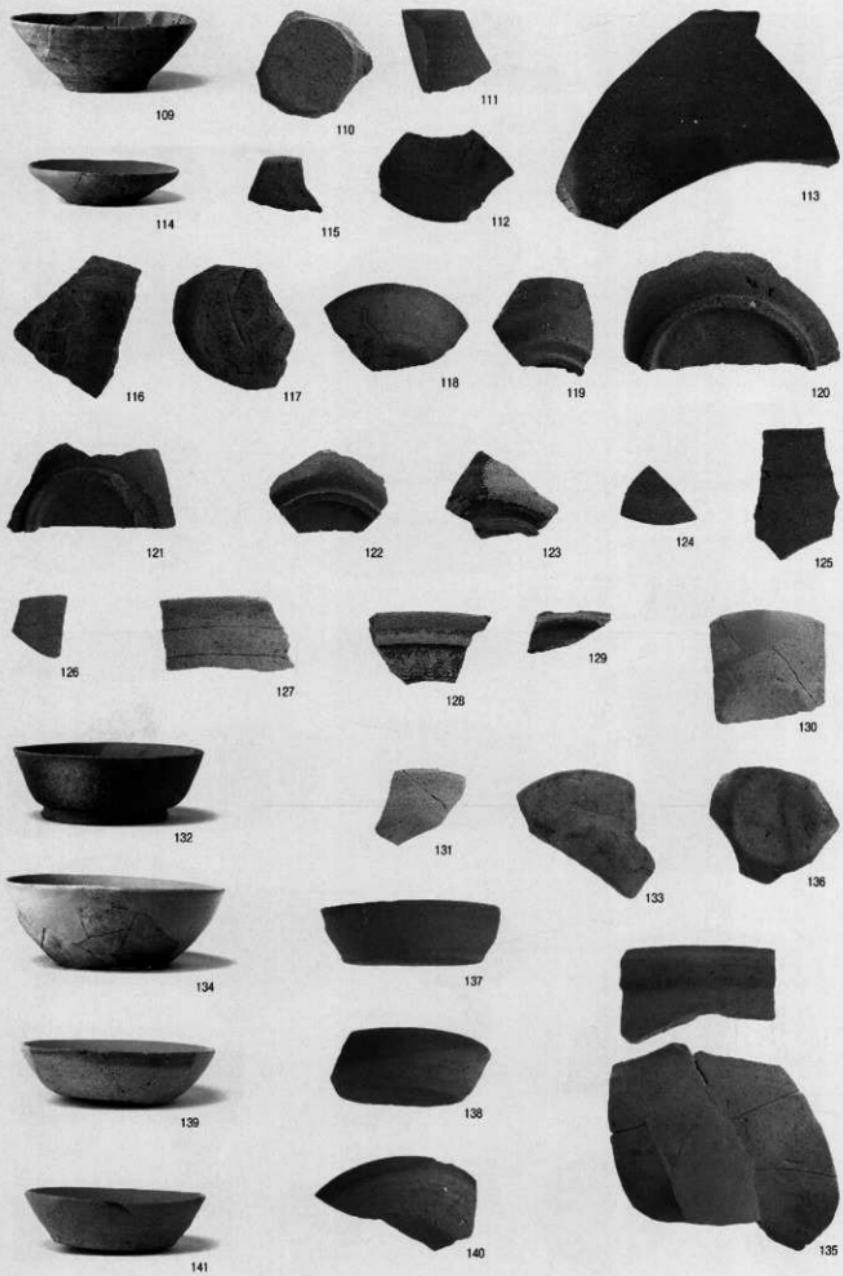
図版18 院林遺跡4地区の遺物（2） (S=1:3)



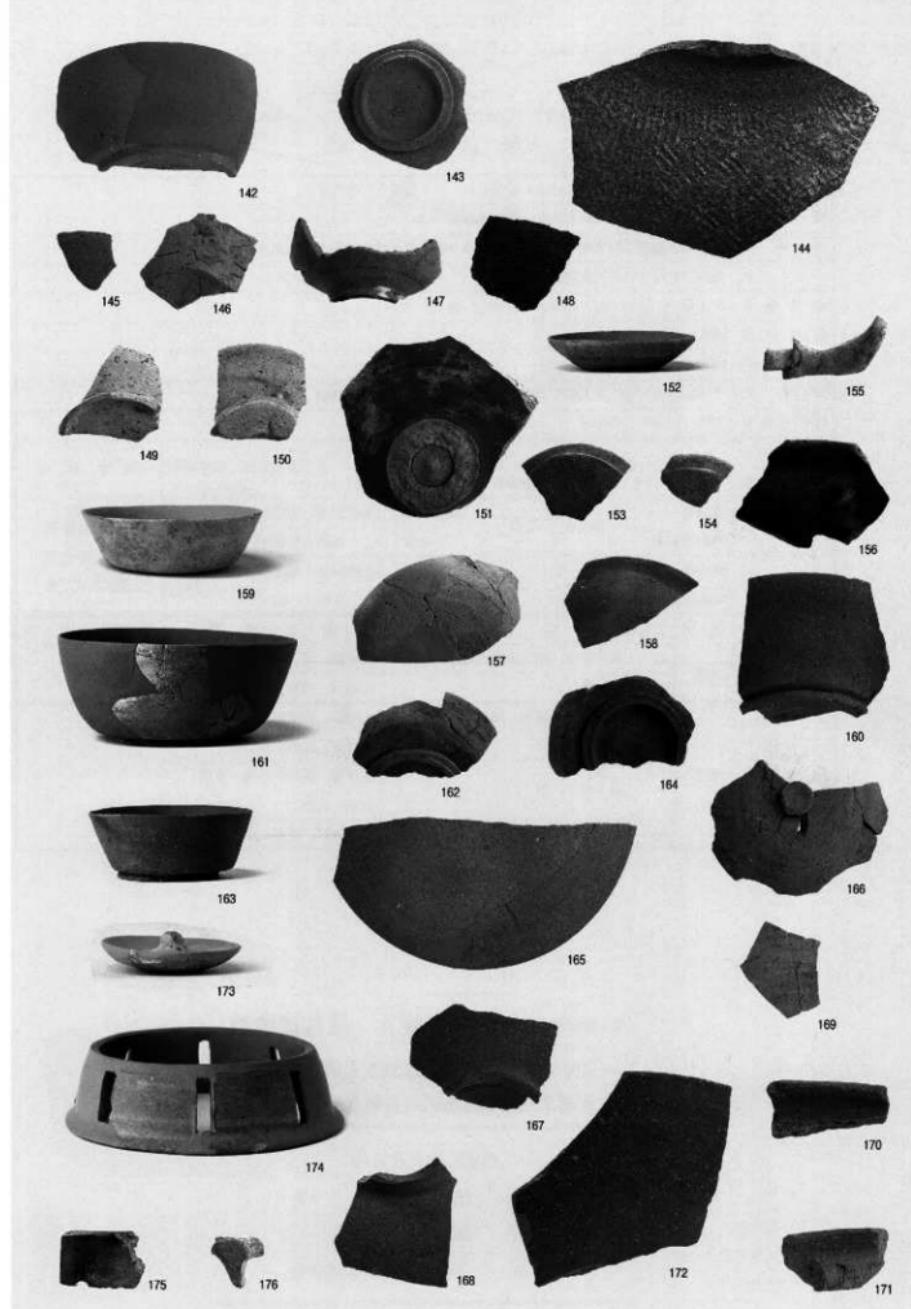
図版19 院林遺跡4地区の遺物（3）（S=1:3）



図版19 院林遺跡4地区の遺物（3）（S=1:3）



図版20 院林遺跡4地区の遺物(4) (S=1:3)



図版21 誠林遺跡4地区の遺物(5) (S=1:3)

報告書抄録

ふりがなとやまけんなんとしじけはいじあとにいんばやしいせきさん							
書名	富山県南砺市 寺家廃寺跡Ⅱ 院林遺跡Ⅲ						
副書名	主要地方道砺波福光線道路改良事業に伴う埋蔵文化財包蔵地の発掘調査報告（3）						
シリーズ名	南砺市埋蔵文化財発掘調査報告 23						
編著者名	片山亞紀、岡田一広、島田亮仁、鈴木茂						
編集機関	株式会社エイ・テック						
発行機関	南砺市教育委員会						
所在地	〒932-0292 富山県南砺市井波520番地 Tel (0763) 23-2014						
発行年月日	西暦 2009年2月27日						
ふりがな	所 収 遺 跡		コ ー ド	北 緯	東 経	調査期間	調査面積
	所 在 地	市町村	遺跡番号				調査 原 因
寺家廃寺跡	富山県 南砺市寺家	16210	243	36度35分 4秒	136度54分 48秒	080515 ~080620	376m ²
院林遺跡	富山県 南砺市院林	16210	244	36度35分 1秒	136度54分 30秒	080624 ~081003	1,955m ²
所 収 遺 跡 名	種 別	主な時代	主 な 遺 構	主 な 遺 物			特 記 事 項
寺家廃寺跡	寺社	古 代	柱穴、溝、田畠、河跡	土師器、須恵器			
		中 世	溝	土師器、珠洲			
院林遺跡	集落	古 代	掘立柱建物、構、井戸、土坑、溝、柱穴	土師器、須恵器、灰釉陶器、円筒瓦、鐵滓、炭化米			
		中 世	柱穴、溝	土師器、珠洲、八咫、青磁、石鍋、石鉢			
		近 世	掘立柱建物、井戸	越中漬戸、肥前、伊万里			

富山県南砺市 寺家廃寺跡Ⅱ 院林遺跡Ⅲ

— 主要地方道砺波福光線道路改良事業に伴う
埋蔵文化財包蔵地の発掘調査報告（3） —

平成21年2月27日

編集 株式会社エイ・テック

発行 南砺市教育委員会

印刷 中村印刷工業株式会社

